令和３年度
事 業 報 告 書

《理念》

共生　協働　自律

社会福祉法人　大館市社会福祉事業団

目次

令和３年度　大館市社会福祉事業団　本部　事業報告 1
令和３年度　大館市養護老人ホーム成章園　事業報告 10
令和３年度　大館市特別養護老人ホームつくし苑　事業報告 18
令和３年度　大館市デイサービスセンター大滝　事業報告 32
令和３年度　大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション事業報告 37
令和３年度　ケアプランセンターおおたき　事業報告 40
令和３年度　ケアプランセンターはぎのだい　事業報告 44
令和３年度　大館市地域包括支援センターおおたき　事業報告 47
令和３年度　大館市ケアハウスほうおう　事業報告 59
令和３年度　大館市立老人福祉センター　事業報告 67
令和３年度　大館市ふれあいセンターやまびこ　事業報告 70
令和３年度　大館市へき地保育所　事業報告 73
令和３年度　年間事業報告（二井田保育所） 74
令和３年度　年間事業報告（真中保育所） 77
令和３年度　年間事業報告（下川沿保育所） 80
令和３年度　年間事業報告（沼館保育所） 84
令和３年度　年間事業報告（花岡保育所） 87
令和３年度　年間事業報告（矢立保育所） 90
令和３年度　年間事業報告（長木保育所） 94

令和３年度　大館市社会福祉事業団　本部　事業報告

令和３年度は、前理事長の退任に伴い６月から新体制により事業を進めてきた。大館市からの施設譲渡に関する検討に伴って、法人運営の自立化が課題となったが、これについても大館市と継続的に検討並びに協議を重ねてきた。現時点において具体的な計画の承認には至っていないが、今後も継続して検討し将来に備える。

高齢者福祉事業については、令和３年４月に行われた介護報酬改定への対策を講じ、各種加算の算定による高品質なサービスの保障と安定収入との両立を図るための土台作りを行った。結果的に、利用者の延べ人数等の減少が見られた事業所においても収入は増加するなど、高品質なサービス提供を可能とすることが将来の安定収入にも結び付くことがわかった。

児童福祉事業については、へき地保育所の児童数の減少傾向が明らかとなるなか、大館市の担当課と検討を重ねている。保育所の統廃合については、保護者並びに地域住民とも話し合い、指定管理者としての立場も踏まえ適切に対応する。

厨房業務は、令和３年４月から成章園及びつくし苑において直営化による提供が開始された。これは、今後のコスト管理体制の整備、また新調理システム化を見越した人員配置の柔軟性を目的として直営化することとしたものである。結果的に、令和２年度に比べ調理に係るコストを低く抑えることができた。また、栄養士と調理員との意思疎通も十分に図られることにより、利用者の心身状況に応じた食事提供にもつながった。今後は、つくし苑での一か所調理によってより一層のコスト削減を図ることとしている。

福利厚生面においては、労働災害防止を図るために各職場を相互に巡回チェックし、リスクの洗い出しを行い、労働環境の改善活動に取り組んだ。また、ストレスチェックについては常勤の全職員に行ったほか、メンタル不調者への対応、ハラスメント行為が疑われる際の対応等、スピード感を持って継続的に取り組むことができた。その結果、令和３年度における退職者数は、定年退職者を除き 11 名（離職率 4.78%）となり、比較的低く抑えることができた。

新型コロナウイルス感染症については、散発的に陽性者が確認されたが、法人全体で感染状況及び対応について共有しながら、クラスター事例の発生を抑えることができた。また、万一のクラスター発生時、そして大規模自然災害発生時においても、必要な利用者に支援を届けるため「事業継続計画書（ＢＣＰ）」を制定した。

地域貢献としては、新型コロナウイルス感染防止対策の継続により限定的なものとなってしまったが、今後も地域との連携・協働を促進させ、地域住民に評価されるとともに将来にわたって安定した事業運営を進めていくことを誓い、事業報告とする。

令和４年３月３１日

社会福祉法人大館市社会福祉事業団
理事長　名村　伸一

1. 部会・委員会活動報告

□ 人財育成委員会

「スーパービジョンの意義を深める」ことを重点目標に設定し、階層ごとにグループスーパービジョンの形式を用い取り組んだ。この取り組みから５年目を迎え、本研修に対する評価として、研修理解度及び業務に対する貢献度を集計した結果、ほとんどの職員が「理解出来た」「参考になった」と良好な評価結果となった。これまでは階層ごとにグループ編成していたが、共通課題や職種を意識したグループ編成も視野に入れ、より一層、支え合える職場環境づくりに取り組む。

また、キャリアパス段階「ステップ４・５」に対する研修プログラムについても検討した。検討の結果を令和４年度計画に反映させる。

新たに令和３年度から直営化となった厨房職員に対する育成計画について、栄養・給食部会と協議し研修体制を整備した。これまでのキャリアパスは介護・看護職員に限定されており、厨房職員及び保育職員に対する体制は十分に整備できていない。これに関しては今後の課題となる。

コロナ渦における研修の在り方としてオンライン（Zoom）を活用し、小集団会場をつないだ集合研修を実施した。

（1） 活動実績報告

階　層	実施月	テーマ
ステップ０（経験 0～１年）	4～3	新採用職員研修
ステップ１（経験１～２年）	7	コミュニケーション
	9	サービス管理とリスク管理Ⅰ
ステップ２（経験２～３年）	12	グループスーパービジョン
	6～9	介護保険制度の理解
	11	サービス管理とリスク管理Ⅱ
ステップ３（経験４～５年）	6	介護（看護）過程の理解
	9	リーダーシップの理解
ステップ４（６年～）	5～2	原因分析と再発防止
ステップ５（指導職候補）	1	グループスーパービジョン
指導職（副主任）	6	内部監査員研修
	7～12	グループスーパービジョン
監督職（主任・係長）	7～12	グループスーパービジョン
管理職	7～11	グループスーパービジョン
		外部研修「福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程（管理職コース）
ステップ０～監督職	6	実践報告会（高齢者事業所のみ）

□ 衛生委員会

衛生委員会は職員の疾病予防と健康の維持増進、職場環境の改善向上を図ることを目的に設置しており、令和３年度は、令和２年度に策定した「職場における心の

健康づくり計画」並びに「社会福祉施設における労働災害予防活動年間計画」をもとに、職員が心と身体の健康を保って働けるよう活動した。

心の健康づくり活動としては､管理職･監督職を中心に２回の教育研修を行った。また、全職員に対してハラスメント・メンタル不調・ストレスチェックの重要性について周知普及を行った。ストレスチェック制度は、労働者のメンタルヘルス不調の未然防止という重要な目的があることから、法令により義務づけられている 50 人以上の事業場に限定せず、法人内のすべての事業所において行った。これは今後も継続して実施する予定としており、データ分析を経年で追って評価することとしている。

また、労働災害予防活動としては、一部事業所を除いて転倒危険箇所の確認及び作業環境の巡回チェックを行い、不適合状態にある点を拾い上げ改善を図った。

さらに労働災害予防活動として、転倒や腰痛予防、熱中症対策など職員への普及啓発活動についても、適時に行うことができた。

職員健康診断は、自身の健康状態や変化を知ること、病気の早期発見、適切な治療に繋げる等のメリットがある。しかし、産業医の指示により二次健診受診勧奨となった職員のその後の状況からは、職員の健康意識には課題があると捉えている。職員自らが自身の健康を考えて自己管理力も強めることができるよう、今後も工夫を重ね粘り強く活動する。

（１）活動実績報告

項　目	件数	概　要	顛　末
ハラスメント相談	１件	ハラスメント委員会にて対応	終結
メンタルヘルス不調者の職場復帰支援	継続 ３件	職場復帰委員会にて復職プラン作成し支援対応	２件完全復帰 １件復職過程 （継続対応中）
	１件		終結（退職）
労働災害	３件	①業務中の転倒打撲（臀部） ②入浴介助中の骨折（足指） ③調理業務中の火傷（手）	終結

□　感染症予防対策委員会

本委員会では、新型コロナウイルス感染予防対応に重点を置いた活動となった。法人内で感染対応を統一する為、秋田県の感染警戒レベルや地域の感染状況に合わせて、随時指示内容を更新してきた。

また、新型コロナワクチン接種の開始により、高齢者施設における先行接種の対象となり、つくし苑と成章園においては６月、７月、２月と計３回のワクチン接種を行った。利用者と職員を合わせ、各回約 400 名のワクチン接種を終えることができた。

デイサービスセンター及びへき地保育所で新型コロナウイルス陽性者は出たが、集団感染とならず、クラスターの発生を防止できたことは評価している。

クラスターの発生を防ぐことに繋がった要因として、まず、委員会内で各事業所の感染状況並びに地域の感染状況を共有するシートを活用し、データを共有するこ

とによって、各事業所で職員への周知、職員からの報告を確実に行うよう取り組んだことが挙げられる。また、二つ目の要因としては、陽性者が発生した場合の対応に遺漏の無いよう対応手順も適宜周知し職員の共通理解となっていたことが考えられる。今後も緊張感を保ちながらも職員が迷わずに対応できるようにする。

なお、11 月には、例年通りインフルエンザワクチンの予防接種も実施した。

(1) 新型コロナウイルス対策等に関する国、県の状況と法人の対応

月	国・県	法人の状況
4	東京、京都、大阪、兵庫に緊急事態宣言発出 県の警戒レベル 3 を維持	施設での面会オンラインのみ継続(～9 月)
5	10 都道府県に宣言拡大	
6	宣言延長、6/21 から沖縄のみ延長	高齢者施設において新型コロナワクチン接種
7	沖縄に加え東京都が再度宣言	高齢者施設において新型コロナワクチン接種
8	21 都道府県に再拡大 8/11 県の警戒レベル 4 へ引上げ	新型コロナ抗原定性検査実施手順決定
9	30 日全国の緊急事態宣言解除	
10	10/1 県の警戒レベル 3 へ引下げ 10/27 県の警戒レベル 2 へ引下げ	施設での仕切り越し面会再開(～12 月)
11	国より通知発出(社会福祉施設等における面会等の実施にあたっての留意点について)	インフルエンザ予防接種 健康観察チャットの検討(見合わせ) つくし苑で累計 18 名の風邪症状
12	オミクロン株の拡大傾向	
1	県より通知発出(高齢者施設等における感染予防対策の徹底について) 県による感染拡大傾向時の一般検査事業の実施 1/24 県の警戒レベル 3 へ引上げ	施設での面会オンラインのみに制限(継続中)
2		2/9～12 矢立保育所休園(職員 1 名陽性) 2/9.10 デイサービスセンター休所(職員 1 名陽性) 高齢者施設において新型コロナワクチン接種(3 回目)
3		3/22～26 長木保育所休園(職員･園児各 1 名陽性)

□ 災害・防犯委員会

令和 3 年度は、水防法で求められている水害訓練を大館市の担当者を講師に迎え管理職を対象に行った。この訓練を通じ、起こりえるリスクや発生時に活用できる資源などを再確認する良い機会となった。

また、「防犯マニュアル」に基づいた防犯訓練を全ての事業所に展開するため、モデルケースとしてケアハウスほうおうにおいて実施した。初めての訓練ではあったが、訓練実施後ただちに検証して訓練をやり直すことによりマニュアルに規定した

対応の有効性を確認できた。今後の各事業所における訓練実施につなげ有事に備えたい。

消防訓練においては、火事ぶれの声が小さいなど、訓練の都度同じ反省が繰り返されていることも確認している。改善に結びつけていくための取り組みの工夫について委員会内で検討した。

本委員会としての活動は終了となり、今後は「危機管理委員会」に引き継がれる。これまでの研修実施状況や改善点を「危機管理委員会」に引継ぎ、実効性のある訓練が実施され、起こりえる危機に備えたい。

□　広報委員会

令和 2 年度のホームページ閲覧件数が年間 10,886 件（月平均 907 件）であったことから、令和 3 年度においても年間の閲覧件数が 10,000 件を上回るように閲覧状況の確認を行いながら、各事業所へ定期的にホームページの更新を呼びかけた。また、職員採用試験に関する情報提供、事業団広報誌「ほほえみ」の掲載、施設行事等に関するブログの掲載、新型コロナウイルス感染症に対する施設の対応状況を継続して発信した。その結果、令和 3 年度は年間 12,571 件（月平均 1,048 件）と、2 年連続で前年度の閲覧件数を上回り、対前年比 15.4%増となった。

今後については、事業団職員だけが閲覧できるページを新設し、産休・育休等で休職している職員へ、人事異動や各種規則等の改正のお知らせ、職員向け広報誌「なごみ」の掲載、休職中に活用できる制度（自己啓発援助制度を利用しての資格取得の促進等）を紹介しながら、職員間のコミュニケーションツールとして活用したい。

また、法人の公式 LINE については、引続き施設行事の紹介、採用試験に関する情報、施設の空室状況等を掲載しながら、登録者（お友達）を増やすべく、広報誌等で周知したものの思ったほど登録者数は伸びなかった。しかし、一部の登録者からは「更新が楽しみだ。」との声も聞こえており、引続き SNS の強みであるタイムリーな情報発信を行うことで、より多くの方々事業団に興味を持っていただけるような情報の発信を続けていきたい。

□　栄養・給食部会

令和 3 年 4 月から、つくし苑及び成章園で直営化による食事提供が開始となった。直営化のための備えはしていたつもりであったが、当初は食材等の発注業務に手間取ることもあった。現在は問題なくスムーズに食事提供は行われている。食事提供までの一連の流れが一体化したことにより、提供したい食事のイメージに沿った食事提供ができるようになった。これにより、利用者のニーズに即した迅速かつ柔軟に対応可能となった。

また、厨房職員に対する労務管理も業務として加わったことにより、職員教育等の必要性が増しているとともに、関連業務に時間を取られるようになった。

調理にかかるコスト削減として、成章園及びつくし苑における食材費の適正管理、また厨房職員の人件費のチェックを通じコスト管理に努めた。結果として、食材納入額、人件費とも令和 2 年度に比べ低く抑えることができた。令和 4 年度からは給食費にかかる利用料収入との収支をみながらコスト管理を継続する。

2. 役員会の状況

(1) 理事会・評議員会

開催年月日	会場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
令和 3 年 5 月 26 日 定時理事会	やまびこ	理事　6 名 監事　3 名	議案第 12 号　令和 2 年度　事業報告書 議案第 13 号　令和 2 年度　決算報告書 議案第 14 号　定時評議員会の招集案 議案第 15 号　法人役員候補者の選任案 議案第 16 号　評議員選任解任委員会の招集案 議案第 17 号　評議員選任候補者の推薦案 議案第 18 号　評議員選任解任委員の選任案	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
令和 3 年 6 月 18 日 定時評議員会	やまびこ	評議員 7 名	議案第 1 号　令和 2 年度決算報告書 議案第 2 号　社会福祉充実残額の算定結果 議案第 3 号　法人役員の選任案	承認 承認 承認
令和 3 年 6 月 18 日 臨時理事会	大館市役所	理事　7 名 監事　3 名	議案第 19 号　理事長及び副理事長の選任案	承認
令和 3 年 11 月 26 日 臨時理事会	大館市役所	理事　7 名 監事　3 名	議案第 20 号　令和 3 年度　第 1 次資金収支補正予算案 議案第 21 号　評議員選任解任委員会の招集案 議案第 22 号　評議員選任候補者の推薦案	承認 承認 承認
令和 4 年 3 月 18 日 定時理事会	大館市役所	理事　7 名 監事　3 名	議案第 1 号　諸規則の一部を改正する規則案 議案第 2 号　令和 3 年度　第 2 次資金収支正予算案 議案第 3 号　令和 4 年度　大館市社会福祉事業団事業計画書案 議案第 4 号　令和 4 年度　資金収支予算案 議案第 5 号　令和 4 年度　職員採用計画案 議案第 6 号　事業継続計画書の制定案 議案第 7 号　臨時評議員会の招集案	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
令和 4 年 3 月 28 日 臨時評議員会	大館市役所	評議員 8 名	報告事項 1　令和 4 年度事業計画書について 報告事項 2　令和 4 年度資金収支予算について 報告事項 3　令和 3 年度理事会の執行状況について 報告事項 4　事業継続計画書について	

(2) 監事監査会

開催年月日	会場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
令和 3 年 5 月 12 日	つくし苑	監事　3 名	令和 2 年度事業の執行及び収支決算について	承認

3. 職員の状況

令和４年３月31日現在　※兼務及び委託は実数に含まず

施設名	本部	成章園（特定含）	つくし苑（短期含）	ほうおう（特定含）	デイサービス	地域包括支援	居宅介護支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老人福祉センター	合計
定員		80	120	50	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H11.2.1	H11.2.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
事務局長 施設長・管理者	兼１	1	1	兼１	兼１	兼１	兼１	兼１	1	兼１	兼１	3
主幹・次長 施設長補佐	1 兼４	1	1 兼１	1	1		兼１					5
事業責任者					兼１	兼１	兼１	兼１				0
医師	嘱１	嘱１	嘱１							嘱11		0
事務員	兼２	1	3	1	兼１	兼１	兼１	兼１	兼１	兼１	兼１	5
パート事務員			1						兼１	1		2
生活相談員 社会福祉士		2 兼１	3	兼１	3	2						10
介護支援専門員 （計画作成担当）			兼２	1		兼３	6 兼１					7
看護職員		2	7	1	2	1						13
機能訓練指導員		1	1	兼１	1 兼２							3
介護職員		18	49	8 兼１	7 兼４							82
パート介護員 （介護補助）		3	2									5
サービス提供 責任者								3				3
ヘルパー								2 兼２				2
登録ヘルパー								1				1
管理栄養士		1	2	兼１								3
栄養士			1									1
栄養士(パート)		1										1
調理員		6	10	委託	兼10							16

施設名	本部	成章園（特定含）	つくし苑（短期含）	ほうおう（特定含）	デイサービス	地域包括支援	居宅介護支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老人福祉センター	合計
定員		80	120	50	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H11.2.1	H11.2.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
調理パート			1									1
技能員			2 兼 1						兼 1	1		3
パート技能員・配達員・運転員			4	2	2							8
保育士										34		34
保育補助 (パート)										23		23
児童厚生員(放課後児童支援員)									3			3
放課後児童支援員補助									1			1
合　計	**1**	**35**	**88**	**14**	**18**	**3**	**6**	**6**	**5**	**59**	**0**	**235**
うち産休・育休・病休等	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
※参考 合計（前年度末）	2	30	78	14	17	3	6	6	4	71	0	231
増減	-1	5	10	0	1	0	0		1	-12	0	4

事業団職員数	H29 年度末		H30 年度末		H31 年度末		R2 年度末		R3 年度末	
雇用形態	**無期雇用**	有期雇用	**無期雇用**	有期雇用	**無期雇用**	有期雇用	**無期雇用**	有期雇用	**無期雇用**	有期雇用
正職員	**150**		**152**		**158**		**155**		**165**	
準職員	**30**		**27**		**21**		**19**		**17**	
臨時・嘱託		12		11		12		9		11
パート		40		38		39		48		42
(再雇用※再掲)		(0)		(0)		(0)		(0)		(1)
小　計	**180**	52	**179**	49	**179**	51	**174**	57	**182**	53
合　計	**232**		**228**		**226**		**231**		**235**	

4. 苦情・事故の状況

項目＼事業所名	本部事務局	成章園	つくし苑	ほうおう	デイサービス	地域包括支援	居宅介護支援	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老福センター	**合計**	前年度実績	前年差
苦情・相談・要望	0	21	7	17	7	2	3	2	0	4	6	**69**	65	4
利用者への対応	0	9	4	13	6	0	0	1	0	1	2	**36**	29	7
家族等への対応	0	0	2	1	0	0	3	1	0	2	0	**9**	3	6
利用者間トラブル	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	**3**	2	1
制度・設備・環境	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	3	**7**	12	-5
その他	0	7	1	2	1	2	0	0	0	0	1	**14**	19	-5
（申出人再掲）														
本　人	0	20	1	13	4	0	0	1	0	0	6	**45**	52	-7
家　族	0	0	5	1	3	0	2	1	0	3	0	**15**	11	4
その他	0	1	1	3	0	2	1	0	0	1	0	**9**	2	7
事故・怪我	0	20	71	9	10	0	0	0	0	181	0	**291**	268	33
骨　折	0	4	6	1	0	0	0	0	0	1	0	**12**	20	-8
骨折外の大怪我	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	**3**	1	2
軽　傷	0	5	51	3	6	0	0	0	0	178	0	**243**	217	36
その他	0	10	13	4	4	0	0	0	0	2	0	**33**	30	3
（原因別再掲）														
転倒・衝突	0	13	14	4	5	0	0	0	0	86	0	**122**	138	-16
転落・ずり落ち	0	1	3	0	2	0	0	0	0	13	0	**19**	17	2
誤嚥・異食	0	0	2	0	1	0	0	0	0	12	0	**15**	4	11
その他	0	6	52	5	2	0	0	0	0	70	0	**135**	109	26
【職員ミス※再掲】	0	3	45	6	1	0	0	0	0	1	0	**56**	44	12
ヒヤリハット	0	89	272	51	15	0	1	3	0	45	0	**476**	355	121
不適合サービス	0	15	150	20	12	10	6	4	0	2	0	**219**	200	19
合　計	**0**	**145**	**500**	**97**	**44**	**12**	**10**	**9**	**0**	**232**	**6**	**1,055**	888	167
前年度実績	0	131	422	73	39	5	17	15	0	177	9	888		
前年　差	0	14	78	24	5	7	-7	-6	0	55	-3	167		

（参考）

是正処置数	0	3	27	3	2	1	2	3	0	1	0	**42**	48	-6

令和３年度　大館市養護老人ホーム成章園　事業報告

令和３年度は、指定管理期間が終了する令和５年度までの向こう３年間の事業運営に係る方針を５点設定して取り組み、その結果は次のとおりであった。

第一に、法人自立化後の経営(収入)を見据え、通年での措置入所者数 70 名の安定的な確保を目指し４月は 70 名でスタートしたが、年度末には 66 名まで減少した。特に 12 月以降は退所者が続きその対応に追われ、新規入所者受け入れの対応をスムーズに進められなかった。特定施設の入所契約は、毎月次の契約候補者を検討し退所者が発生したら速やかに契約手続きを進めて空床が抑えられるよう取り組んだ。今後も引き続き、空床数の抑制を意識して業務にあたっていく。

第二として、５Ｓ活動では倉庫や居室内の「整理・整頓」に取り組み、倉庫内は関連する物品を集約化して保管管理、居室内は利用者の利便性と安全性の向上に繋げた。館内掲示物の更新をこまめに行うともに、ロビーの椅子等のレイアウトを変更して館内の雰囲気づくりにも努めた。利用者サービス面では、行事写真の提供や物品購入の仕組みを見直し、利用者のニーズに応えながらも職員の業務負担軽減を図った。

人事異動により職員が介護、看護、事務の各部門で減員となったことから、業務内容や分担について見直し効率化を図ったが、それでも事務や生活相談員の時間外勤務は増加し、更なる改善が必要として今後への課題となった。

５Ｓの「躾」については、取り組むことが出来ず、何度か利用者から職員の言葉遣いや態度に対する苦情が寄せられた。利用者の尊厳に対する職員の意識が緩み接遇の低下に至っていることは否めない。今後は、接遇の改善にむけて重点的に取り組んでいく。

第三として、令和３年度から開始した契約入所事業は、大館市冬期生活支援事業を活用し 11 月から３月まで実施した。利用者の確保を心配したが、11 名の申込があり定員枠の６名と契約し利用に至った。事業初年度のため対応面で手間取ることが多々みられたが、事故やトラブルもなく終えることができた。初年度の反省を踏まえ今後に活かしたい。

第四として、新型コロナウイルス感染症予防対策については、入館制限を通年で実施しながらも面会においてはオンライン(Zoom や LINE)による対応やガラス越し面会で行い地域の感染状況に応じて柔軟に対応した。また、秋田県の補助金で陰圧装置を第一静養室に設置し、施設内での感染者療養へ対応する環境を整備した。職員には隣県や県内の感染状況を伝えながら、都度行動の自粛と感染予防の徹底を呼び掛け感染意識の注意を促し、職員等による施設内への持ち込みを防いだ。

施設内クラスター発生に備え、新型コロナ対応マニュアルの策定を行ったが、重要となる初動対応の研修は未実施のため、令和４年度は確実に行うように努めたい。

新型コロナウイルス以外では、９月～11 月疥癬、１月～２月風邪症状で利用者多数が感染し対応に追われた。両方の初動対応での反省点を一過性のものにしないよう日々の業務に落とし込んでいくことにした。

最後に、コロナ禍での利用者の生活支援については、集団での外出や地域住民との交流行事はほぼ中止したが、施設内行事やレクリエーションの工夫、新聞の購読数を増やす等、利用者のストレス解消や楽しみに繋げた。ただ、利用者からは「外出して気分転換をしたい」という声が度々聞かれ、感染収束の兆しが見えない心苦しさを感じつつ、長期にわたる自粛について協力をお願いしてきた。

今後も令和５年度までの運営方針に基づき、確実に成果が残せるよう事業運営を行うことを誓い事業報告とする。

令和４年３月３１日

大館市養護老人ホーム成章園
施設長　花田　繁盛

1. 部門別事業報告

【相談部門】

5S３M 活動の重点目標として、相談部門では生活相談員業務マニュアルの完成をゴールに業務整理を進めた。マニュアル作成の過程で、改めて業務内容や手順を確認し合うことで、現状とのすり合わせや重複する作業を省くなど、業務のスリム化を図り、それぞれの役割を明確にした。今後は完成したマニュアルに添って効率的に業務を進められると感じており、また、年１度マニュアルチェックの機会を持つことで、PDCA サイクルを回し継続的に活用できるよう仕組みも整えていく。

契約入所事業は初めての対応に苦慮する場面が多く、改善や検討しなければならないものもあった。令和４年度は、その課題を解消して計画的かつスムーズに事業を運営できるようにしていきたい。

【支援部門】

令和２年度に引き続き「居室の整理」に取り組んだ。利用者個々のニーズを把握しながら生活しやすいような環境をつくり、安全と自立を促すことを目的としている。居室の整理は２年目ということもあり、現場職員から積極的に課題が上がり、環境に注視する目は浸透してきたと感じている。

住み慣れた環境で最期まで過ごしたいと望む高齢者は多く、心身状態に合わせて環境を整備することは転倒防止や機能維持に繋がり、利用者の望みを叶えることにつながると考える。

新型コロナウイルス感染対策については、利用者が安全かつ安心して過ごせるよう検討を重ね、入浴は棟毎へ変更し、食事席のテーブル間隔を開けるなど対策をとり蔓延防止に努めた。

【看護部門】

利用者の通院に関わる課題を解消するために、まずは受診件数や通院先などの状況を把握した。令和３年 1～3 月は受診件数が 305 件、その内午前は 208 件、令和

4 年 1～3 月は受診件数が 300 件、内午前が 215 件であった。受診が集中する午前に通院先の病院が 3 か所になる場合、介助する職員は 3 名必要となり、施設内の業務遂行に支障が生じる。

通院先を 2 か所とし同じ時間帯に 2 人程度の受診であれば、利用者にも職員にとっても負担がかからないと考え、利用者の病状などから次回通院日を検討し病院へ希望を伝え調整を続けた結果、令和 3 年 1～3 月は午前中に通院先 3 か所の日数は 15 日であったが令和 4 年 1～3 月は 7 日に減少、2 か所の日は同程度、1 か所の日はほぼ 2 倍となった。

職員の調整については、翌月の通院状況に合わせて医務部門の勤務調整と他部門への調整依頼を行っており、今後も継続して通院対応の調整を行っていく。

足のケアについては、足白癬や爪の変形など問題がある利用者の報告が介護部門からあり都度対応し受診に繋げ、また、下肢の浮腫著明な場合には下肢挙上を実施するなど悪化を防止する事ができた。

【栄養部門】

調理業務は 4 月から直営となり、職員との連携を図り効率的な業務遂行の為、毎月 1 回部門会議を開催している。

部門会議を通して、業務上不都合を感じていることや、物品の更新、厨房内の危険個所などの問題を共有することができ、今年度は厨房トイレの洋式化や検収室床に滑り止めマットを敷くなど改善することができた。

食材の納入業者が変わり、入手困難な食材もあるが、類似品の使用や手作りするなど工夫をした。また、令和 3 年度は夕食の提供時間が 17 時半から 18 時となったことで、年度途中で職員の勤務時間や休憩時間を変更し、業務の見直しや変更等の多かった 1 年だが、職員間で相談や意見を聞きながら試行錯誤することで対応できた。

【事務部門】

自立化後の事業運営を見据え、各設備機器の修繕及び更新を緊急性の高いものから計画的に実施できるよう現状を適切に把握しながら市担当課にお願いし、その結果次のとおり対応していただいた。

① 居室の床及び出入口扉改修工事(床 18 室、扉 15 室)
② 集会室・食堂ブラインド設置工事
③ 居住棟廊下パネルヒーター更新工事（1 ヶ所）
④ 中浴場給湯配管修繕
⑤ 居住棟トイレ手洗い自動水洗化工事(6 ヶ所)
⑥ 厨房熱交換器温水コイル取替工事
⑦ 排煙濃度計交換
⑧ 排気ダンパ操作器取替修繕
⑨ 厨房職員用トイレ洋式化工事
⑩ ファンヒーター更新(集会室 1 台、居室 2 台)

⑪ 厨房ソイルドテーブル更新
⑫ 厨房スチコン架台更新
⑬ 厨房野菜調理器更新
⑭ 厨房アルミ外輪鍋更新
⑮ 製氷機更新
⑯ 玄関除塵マット更新

このほかに、施設経費で感染対策用として空気浄化機２台、手指自動消毒器具１台を準備した。

また、小破修繕では通年でトイレ関係の修繕が多く、その他洗濯機(業務用、家庭用)の故障や厨房火災感知器の劣化(誤作動)による更新等を行い、利用者の生活に不便が生じないよう都度迅速に対応するよう努めた。

2. 利用者状況報告

集計期間　令和３年４月１日～令和４年３月31日
集計日　　令和４年３月31日

(1) 年齢別・性別の状況（単位：人）

年齢／性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	1	2	1	2	8	0	1	0	15
女	0	0	3	7	12	15	5	5	4	51
計	0	1	5	8	14	23	5	6	4	66
平均男（82.5）　女（86.6）　全体（85.6）　最高（101）　最低（69）										

(2) 在所期間の状況（単位：人）

期間／性別	１年未満	１年以上３年未満	３年以上５年未満	５年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上	計
男	3	5	3	2	2	0	0	0	15
女	4	12	15	14	4	1	1	0	51
計	7	17	18	16	6	1	1	0	66
平均　男（４年３月）、女（５年４月）、全体　（５年１月）、　最高　男（14年11月）、女（21年８月）									

(3) 入退所の状況（単位：人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
新規入所者	男	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
	女	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	5
退所者	男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	女	0	0	1	1	2	0	1	0	3	1	1	0	10
（死亡者）		0	0	1	2	1	0	1	0	3	0	0	0	8

(4) 介護度別の状況（単位：人）

区　分	未認定	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５	支援１	支援２	事業対象	計
男	6	3	2	2	0	0	0	1	1	15
女	23	3	5	11	4	1	0	0	4	51
計	29	6	7	13	4	1	0	1	5	66

(5) 短期宿泊事業　利用状況（単位：日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男	0	14	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	34
女	0	4	1	0	0	0	17	30	0	40	18	0	110
計	0	18	1	0	0	0	37	30	0	40	18	0	144

(6) 契約入所（冬期生活支援事業含む）　利用状況（単位：日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男	0	0	0	0	0	0	0	31	67	93	84	93	368
女	0	0	0	0	0	0	0	29	48	87	84	90	338
計	0	0	0	0	0	0	0	60	115	180	168	183	706

(7) 在所延べ人数（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
成章園	1,200	1,226	1,196	1,211	1,200	1,122	1,129	1,124	1,229	1,163	967	1,151	13,918
特　定	900	909	865	900	878	850	930	870	844	808	762	810	10,326
計	2,100	2,135	2,061	2,111	2,078	1,972	2,059	1,994	2,073	1,971	1,729	1,961	24,244

3.　事業実績管理関係

月日	管理関係	月日	行事関係
4. 1 4.9 4.23 4.23 4.28	辞令交付式・年度始め式(法人) 消防署立入検査 合併処理施設浄化槽保守点検 秋田県北老人福祉施設連絡協議会総会 秋田県老人福祉施設協議会総会	4.5 4.6.13.20.27 4.15 4.19～23 4.23.27 4.26 4.26 4.27	体重測定 喫茶 福寿会 お花見散歩 お花見ドライブ 歯科衛生士訪問 利用者 100 歳のお祝い 定例会
5.24 5.24 5.24.25 5.25	火災報知器配線工事 合併処理施設浄化槽保守点検 ブロック塀埋込修理 衛生害虫防除	5.3 5.13 5.20 5.27	体重測定 利用者結核検診 喫茶 定例会 お楽しみ昼食会

月日	管理関係	月日	行事関係
6.18 6.18 6.18 6.21 6.22.23 6.23	第一静養室コンセント増設工事 地下タンク定期点検（清掃） 合併処理施設浄化槽保守点検 貯湯槽定期点検 サッシガラス・網戸清掃 市労連タオル寄贈	6.1.8.15.29 6.7 6.17 6.23.30 6.24 6.24 6.29	喫茶 体重測定 福寿会 新型コロナウイルス予防接種 夏のバイキング にぎやか音楽会 定例会
7.5 7.5 7.6 7.7 7.8 7.19 7.20 7.27	貯水槽清掃 居住棟床ワックスがけ 厨房食洗器ソイルドテーブル更新工事«市 陰圧装置設置工事（第一静養室） 貯湯槽バルブ漏水（2 回） 貯湯槽弁交換 育児代替職員（看護師）任用 合併処理施設浄化槽保守点検	7.5 7.6.13 7.14.21 7.17～7.23 7.27 7.28 7.29	体重測定 喫茶 新型コロナウイルス予防接種 ブルーベリー狩り（園庭） 定例会 健康・栄養相談会 避難訓練
8.1 8.6 8.20 8.23～ 8.28	浄化槽法定検査 居住部屋（48 号室）エアコン交換設置 合併処理施設浄化槽保守点検 居室内装改修工事（床・扉）«市 消防用設備等点検	8.2 8.5 8.10.17.24.31 8.12 8.19 8.23 8.31	体重測定 元気もり盛祭り season2 喫茶 福寿会 二十日盆の法要 さくらだ衣料品販売 定例会
9.10 9.17 9.21 9.24 9.24 9.25 9.27 9.28 9.28 9.29 9.30	製氷機更新«市 管理棟無線設備工事 冬期契約入所申し込み受付開始（～10.20） 配管洗浄 合併処理施設浄化槽保守点検 居室内装改修工事完了（8.23～）«市 ボイラー点検 浄化槽清掃 秋田大学医学部実習受け入れ 集会室・食堂ブラインドカーテン設置«市 育児代替職員（看護師）任用終了（7.20～）	9.6 9.7.14.28 9.9 9.24 9.28	体重測定 喫茶 敬老会 念仏数珠廻し 定例会
10.1 10.12 10.20 10.22 10.22	管理棟エアコンフィルター清掃 あさがお西廊下パネルヒーター更新工事«市 冬期契約入所受付終了 合併処理施設浄化槽保守点検 業務用大型洗濯機修理	10.4 10.5.12.19.26 10.14 10.21 10.26 10.27	体重測定 喫茶 福寿会 にぎやか音楽会 定例会 衆議院不在者投票

月日	管理関係	月日	行事関係
10.26.27 10.26	パソコンサーバー入れ替え 冬期契約入所審査会	10.28 10.30.31	秋のバイキング 秋のドライブ
11.8～15 11.10 11.22 11.22 11.24 11.25.26	中浴場給油配管工事、煤煙濃度計取替修繕 介護センターコピー機更新 合併処理施設浄化槽保守点検 ファンヒーター更新（食堂、38 号室） 館内衛生害虫防除 ガラス・網戸清掃・換気扇清掃	11.1 11.1 11.2.30 11.8 11.9 11.18 11.25 11.30	秋のドライブ 体重測定 喫茶 さくらだ衣料品販売会 インフルエンザ予防接種 避難訓練 だまっこ昼食会 定例会
12.3～15 12.7 12.9 12.15 12.16 12.16 12.17 12.21 12.28	厨房温水コイル取替修繕«市 冬期契約入所審査会（2 回） 苦情解決第三者委員報告会 入所判定委員会 合併処理施設浄化槽保守点検 冬期契約入所審査会（3 回） 換気扇交換（会議室） 冬期契約入所審査会（4 回） 仕事納め式（法人）	12.3 12.7.14.28 12.10 12.16 12.16 12.23 12.28	健康診断 喫茶 利用者 100 歳のお祝い さくらだ衣料販売会 福寿会 クリスマスバイキング 定例会
1.4 1.13 1.21 1.23	仕事始め式 永年勤続表彰式・辞令交付式（法人） 居住棟トイレ手洗い自動水洗化工事«市 合併処理施設浄化槽保守点検 管理棟ワックス掛け	1.3 1.11.25 1.20 1.25	体重測定 喫茶 新年会 定例会
2.7～10 2.11 2.14 2.14 2.15 2.16～18 2.19 2.25	厨房トイレ和風改造便器取り付け修繕«市 合併処理施設浄化槽保守点検 厨房精米機更新«市 スチコン架台更新«市 居室ファンヒーター更新（42 号室）«市 中浴場給湯配管修繕«市 消防用設備等点検 厨房ダクト工事	2.3 2.7 2.8.22 2.15 2.18 2.24	節分豆まき 体重測定 新型コロナウイルス予防接種 喫茶 福寿会 健康栄養相談会
3.2 3.7 3.10 3.18 3.18 3.23	玄関除塵マット更新«市 市連合婦人会タオル寄贈 エアコン清浄（8 台） 合併処理施設浄化槽保守点検 厨房排気ダンパ操作機交換«市 浄化槽清掃	3.7 3.8.22.29 3.24 3.29	体重測定 喫茶 念仏数珠廻し 定例会

4. 研修実施状況

(1) 内部研修

番号	実施月	研修内容	対　象	担当職員
1	8～9 月	身体拘束等適正研修①	全職員	身体拘束適正化委員会
2	10 月	嚥下咀嚼機能・食事形態に関する研修	全職員	栄養委員会
3	12 月	感染症対策研修②	介護員	感染症対策委員会
4	12 月	入浴ケア研修	介護員	入浴委員会
5	1～2 月	身体拘束等適正研修②	全職員	身体拘束適正化委員会
6	2 月	救命救急研修	介護員	看護部門
7	3 月	感染症対策研修②	介護員	感染症対策委員会

(2) 外部研修

番号	期　間	研 修 名	場　所	参 加 職 員
1	7/26～7/29	介護支援専門員専門研修（専門研修課程Ⅱ）	Zoom 研修	生活相談員　平澤幸子
2	12/18～12/19	秋田県災害派遣福祉チーム登録研修	Zoom 研修（会場研修 1 回は中止）	介護員　片山貴博

令和３年度　大館市特別養護老人ホームつくし苑　事業報告

令和３年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防や対応について重点を置きながらの運営となった。施設内への持ち込みを予防する事が最大の感染予防策となる事から、職員や入館者への健康観察、面会制限や施設関係者以外との接触を可能な限り避け、国や県の対策を確認しながら感染対策を実施してきた。感染対策の効果により感染者を出す事なく、利用者の安全を守る事に繋がった。年度末には、BCP（事業継続計画）が作成され、感染対策と共に自然災害への対応も確認しながら、事業の継続に努めていく事としている。

経営面では、前年度と比較し約 1.7 倍の入院者（日数）が出てしまい、さらに年間の退所者が 35 名と、例年と比較してもかなり多い入院者と退所者が出た。経営を安定させるため、ベッドコントロールに力を入れて運営しているが、ショートステイによる空床利用でもコントロールしきれない状況が多く見られていた。その為、つくし苑全体のベッド稼働率は、前年比で約 1.6％減少する結果となった。

介護報酬の面では、新たな加算取得の検討も行いながら体制を整備する事で、年度の後半には「栄養マネジメント強化加算」の取得に繋がった。取得可能な加算を確認し、新たな加算を取得する為の活動も継続していく。

施設の体制としては、令和３年度から厨房業務が直営となった事により、調理員、栄養士、管理栄養士の適正な配置を行ってきた。職員間の連携を保つ事により、安定したサービス提供に努め、食材の発注や管理など厨房業務全般を確認しながら取り組む形となった。

また、介護職員による特定医療行為の実施や、看取り介護の実践により、介護サービスの質を維持・向上させるための取り組みも継続して行った。定期的な内部研修の開催や、実践業務の振り返りなど、多職種が連携して業務に取り組む事で、質の高いサービス提供を目指してきた。今後も、他部門の専門性を活かしながら、安全で安定した生活を提供できるよう努めていく。

令和４年３月 31 日

大館市特別養護老人ホームつくし苑
施設長　鎌田　俊

1.　部門別報告

【相談部門】

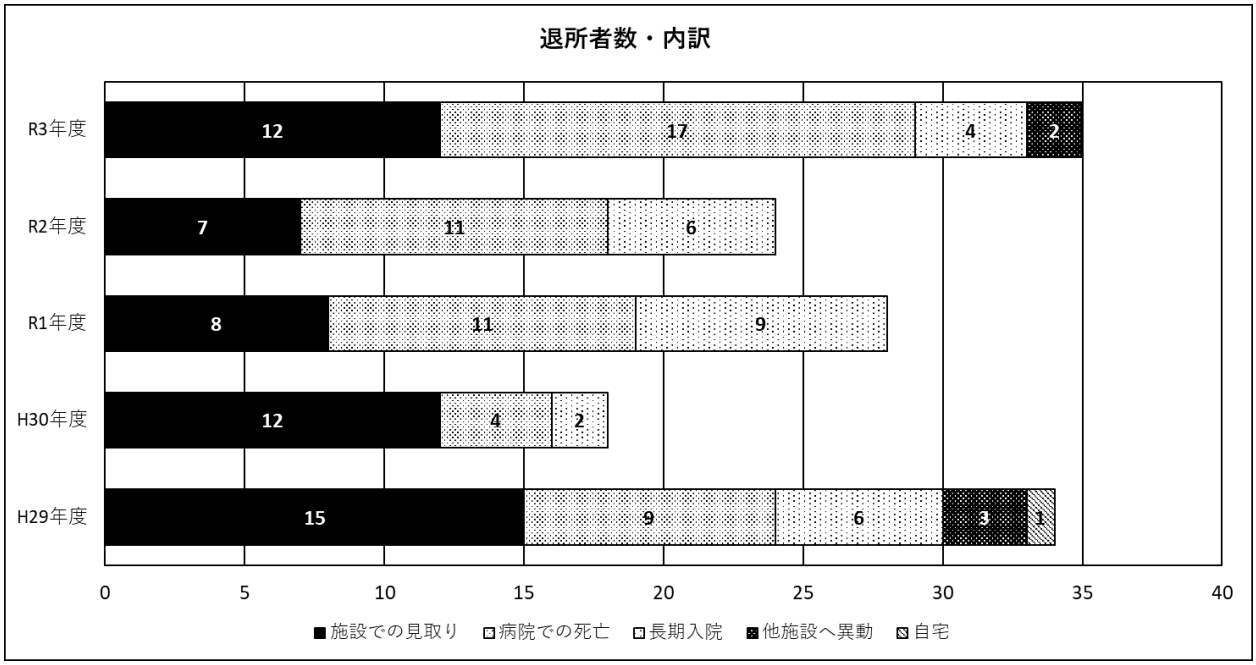
相談部門では、利用者の終末期における支援体制について関係者との連携強化に努めてきた。令和３年度は、入院者が多く、退所者も年間で 35 名と例年に比べ多くの退所があった年であった。その中で、看取り介護により退所となった利用者は 12 名おり、終末期において家族との情報共有及び十分な説明、嘱託医と家族との話し合いについてもスムーズに行うことができた。

コロナ禍におけるオンラインによる面会については、施設内で iPad を使用した面会が 237 件（令和 2 年度 314 件）、LINE を使用した面会が 55 件（令和 2 年度 61 件）であった。オンラインでは面会にならないと言う理由から、面会できていない家族もあるが、地域の感染が落ち着いた 10 月から 12 月の 3 ヶ月間は、仕切り越しでの面会も実施し、136 件の仕切り越しによる面会も実現できた。コロナ禍が長期化していく中で、面会方法については工夫が求められる。

退所者数の内訳は、医療機関での死亡退所者が 17 名、医療機関からの退院不可での退所者が 4 名と全体の 60%を占めた。

ベッドコントロールについては、入院による空床が令和 3 年度 1,387 床となり、対前年比で 582 床の増（対前年比 172.3%）となった。ショートステイでも空床を埋めきれない状況が見られ、その結果、ショートステイを含む施設全体のベッド稼働率は、令和 2 年度は 98.5%であったが、令和 3 年度は 96.9%（対前年比－1.6%）と前年実績を下回る結果となった。

なお、退所から次の入所まで空きベッド日数短縮は継続できている。今後においても、看護部門、嘱託医、入院先の医療機関並びに利用者家族との連携・情報共有を密に行いながら、適正なベッドコントロールに努める。



【介護部門】

「家族や利用者のニーズや生活歴を取り入れたケアを提供する」という目標を掲げ取り組んだ。

具体的には、家族の情報をケース記録に残しその中でケアに取り入れる事ができるものか検討し、サービスを提供した。また外出等の希望に対して希望を聞いて個別に対応した。看取りケアの期間に入った利用者に対し、こまめな着替えをし、また感染防止対策を講じた上で、家族の毎日の面会を行うなどした。外出では墓参りの希望に個別に対応した。

しかし、コロナ渦での制限が多く、思うような企画や対応ができず、また家族との関わりが十分ではなかったと反省している。新型コロナウイルスによる影響は長期化しており、家族との関わりや家族への情報発信が今後の課題と考えている。

【看護部門】

令和３年度の部門目標は、「夜間コールの報告内容から利用者の状態や症状をスムーズに把握できる」として、まずは介護員へ夜間コールをする上で何が疑問かを把握するためにアンケートを実施し、その疑問を解決するための研修も実施した。また、その内容を反映させるため「緊急時対応マニュアル」も見直した。

利用者の健康状態に応じた医療提供につなげるため、日々のナースカンファレンスでは主に体調不良者の状態確認を行い、将来的な治療方針や看取りの方向性等を記録に残した。その上で医師への相談や指示受け、また生活相談員を通じての家族の意向確認という流れで、通院の際も治療や検査をスムーズに受けることができた。

看取りケアにおいては、ナースカンファレンスにおいて看取りケアの振り返りを行い、意見(提案)を次のケース活かすことにより、自部門だけでなく施設全体のケアの質を向上させることにつながるため、今後も看取りケアの振返りは継続して行う。

また、令和３年度は、嘱託医の変更に伴い回診業務内容を嘱託医と確認しながら調整を行った。しかし、日頃の利用者の健康管理方法や体調不良者に対する嘱託医の指示内容と、病院における判断や指示内容とが整合性が確立されていない。病院受診の増加についての課題が残っている為次年度検討していきたい。

【機能訓練部門】

「介護職員と連携した生活リハビリを実施し心身の機能を維持していく」という目標を掲げ取り組んだ。

個別でのリハビリの他、普段の日常生活動作の援助として、残存機能を活かした援助を生活リハビリとして行っており、その内容や援助の方法を統一し、リハビリ目標を共有しながら介護職員と連携が持てるよう取り組んでいく仕組みをつくることとした。

まず、「施設サービス計画書」から、生活リハビリを行っている利用者がどれぐらいの割合となっているか把握することにした。介護員が日常的に行っている生活リハビリの具体的援助方法について、担当介護職員と機能訓練指導員とで確認しあい、担当介護職員から他の職員に伝え統一した援助となるようにした。また、生活リハビリの実施経過を毎月モニタリングし、必要に応じ援助内容の変更を行った。

その結果、機能訓練指導員と介護職員との間の連携が供花され、リハビリの効果的なサービスが提供につながったと評価している。

【栄養部門】

①厨房の直営化において厨房職員との連携を図り安全な食事提供をする。また②厨房の調理業務体制が、委託から直営に変更となる事により、縦の繋がりだけでは

なく、横の繋がりをより強化し、互いに協力しながら作業環境を整えていく。という二点を目標に掲げ取り組んだ。

厨房の直営化により、調理員の配置や食材の発注業者の変更などがあり慌ただしい新年度スタートとなったが、職員間の連携を図り適時適温で安定した食事提供ができた。また年度途中から現場に栄養士１名配置となり、栄養士間で協力しながら作業環境を整え、麺やバイキング食の提供が可能となった。

今の食事提供の質を維持しながら、今後は食材費のコスト管理と新調理システムへの対応に取り掛かる。経口摂取利用者が増加している状況において、多様な食事形態を、手間とコストをかけず提供していくことが次の課題である。

【事務部門】

令和３年度も、四半期ごとの収支の状況を、運営委員会を通して全職員に伝えることで収支を意識した業務活動に繋がるよう働きかけた。

その結果、不必要な照明の消灯やエアコン・暖房の温度管理など、職員が意識しながらコスト管理に取り組む姿勢が多く見受けられるようになった。

燃料費や電気料の高騰など厳しい経営環境が続いているが、法人の自立化に向けて職員一人ひとりが更にコスト管理について意識を高められるよう、今後も収支状況を定期的に発信していく取り組みを継続していきたい。

【短期入所生活介護事業所】

（1）安定したベッドコントロールを行う

令和３年度の利用実績は、年間延べ 3,993 日であった。令和２年度に比べて 50 日減少している。また、稼働率は 109%とほぼ同じであった。利用実人数は 48 人で年間延べ 322 人の利用、一人当たりの平均利用日数は 13.5 日で前年度比+1 日と増加している。新規利用は 16 名と増加した。ショートステイの定員を 20 名から 10 名に変更して、令和３年度で３年が経過している。この３年間の稼働率は平均して 110%と、定員が 20 名の時に比べて稼働率が上昇しており、定員割れした月は３年間でひと月のみとなっている。

令和２年度に比べ、つくし苑正規入所の空床数が 647 日増加し、そのうち 582 日が入院による空床であった。入院者が多く退所者も多かったことに加え、ショートステイ利用者自身の体調不良や入院・死亡も重なり、ショートステイによる空床利用は例年に比べ低調だった。

（2）施設内への感染症持ち込みの予防

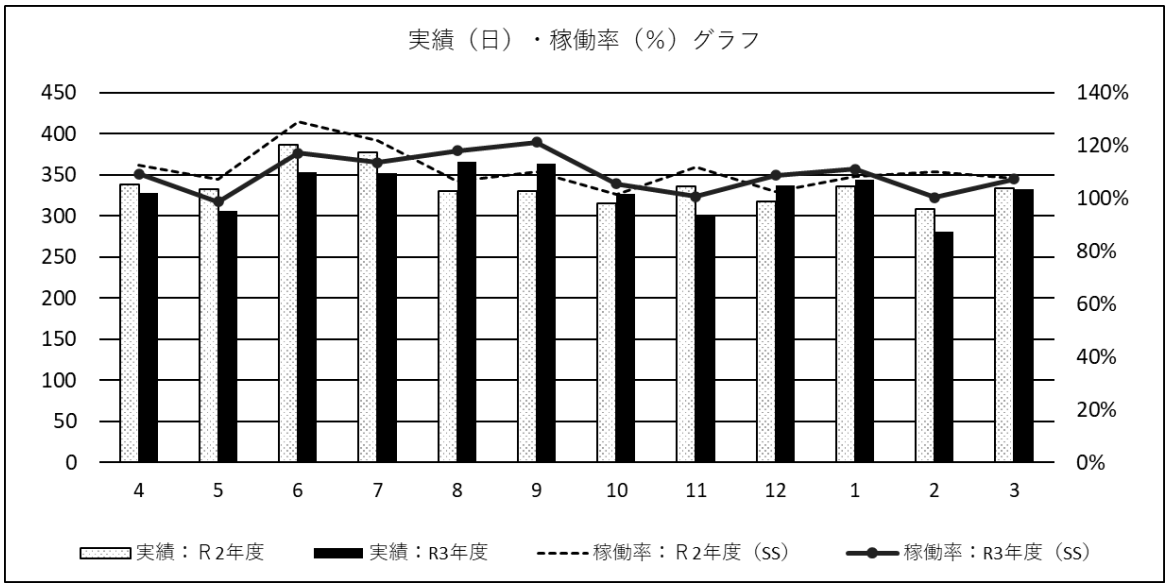
新型コロナウイルス感染症防止対策は、利用者や家族の理解と協力が得られ、施設への感染症の持ち込みは見られなかった。ただ、ショートステイ利用前に、家族の内に県外からの帰省者があった場合は情報提供してもらうようにしていたが、退所後に担当ケアマネジャーからの連絡により県外からの帰省が発覚した事例がありヒヤリとしたことがあった。今後も家族への正確な聞き取りが必要とされることを再認識した。利用途中の発熱や風邪症状での緊急の退所に関しては、

どの家族もコロナ禍による施設の対応に理解を示してくれ、苦情等につながることはなかった。

(3) 個別ニーズの把握とリスクの把握を通じ、適切・安全なサービス提供を行う。

長期ショートステイ利用者並びに支援困難ケースにおいて、関係者のカンファレンスを行った。利用状況を共有し、施設内における援助方針をまとめることができ、主治医、担当ケアマネジャー並びに家族への情報提供をスムーズに行うことができた。多職種が問題点を共有することにより、正規入所の利用者と同様にサービスの改善に向け、つくし苑全体で取り組むことができた。

最後に、顧客満足度調査では、令和３年度も継続して高い評価を得ることができた。生活相談員だけでなく、介護職員や看護職員の接遇、また個別の細かいニーズの対応に多職種が協力して取り組んだ結果が評価に表れたと捉えている。今後も利用者や家族の多様なニーズを探り、在宅生活継続の支援、利用者及び家族に満足してもらえるサービス提供をする。また、安定した利用実績の確保に努める。



2. 委員会活動

【運営委員会】

運営委員会では、新型コロナウイルスの対応を確認する場面が多かったが、法人の感染症予防対策委員会の検討結果に基づき、施設内での注意点や対応を周知することにより施設内でのまん延防止につながった。また、秋田県の感染警戒レベルに合わせ面会制限や面会方法について柔軟に対応した。

苦情や事故等のリスクマネジメントにおいては、発生原因の検証を行い、発生後の対処や再発予防策についても検討し職員への周知徹底を図った。

厨房の直営化にかかる方針、人員配置の方向性並びに施設の運営方針を示したうえで、職員の配置や業務内容についての検討も行った。

【感染症予防対策委員会】

令和３年度も新型コロナウイルス感染防止対策を中心に検討した。感染発症時に備えたシミュレーションを具体的に検討し、予防衣の着脱と発症時のシュミレーション研修を行った。

また、法人感染委員会と連動した新型コロナ感染マニュアルを都度更新し予防対策の徹底に努めた。

【身体拘束等適正化委員会】

令和３年度は、全職員を対象とした身体的拘束適正化並びに高齢者虐待防止に関する研修として、日頃の業務を振り返る機会を設けるとともに、それぞれの指針の確認をした。特に、令和３年度は、実際に身体拘束を実施せざるを得ない利用者が数名出たことから、身体拘束の必要性等も含め個別事例を検討する場とし、身体拘束が長期化しないよう検討を加えた。それにより、身体拘束のリスクを職員間で再確認することにもつながった。

【医療的ケア対策推進委員会】

まず、介護職員による喀痰吸引に係る安全確実な手技の取得、またその根拠となる知識の確認を目的とし、委員会主催の内部研修を行い、ブランクのある介護職員へのフォローアップを行った。これにより、介護職員が一定の手技の水準を保持できるように努めた。

また、援助中に発生したヒヤリハット報告や事故報告等を共有し、処理経過について検証を加えた。こうして再発防止を図った結果、利用者の健康状態に影響する重大事故の発生を抑制することができた。

「喀痰吸引等研修事業の実地研修」は、介護職員１名を対象に実施し終了した。

褥瘡予防については、褥瘡発生状況の共有を行うとともに褥瘡の発生リスクの課題分析を行い、委員間で共有した。また、褥瘡（床ずれ）創部の状態や使用薬剤、処置方法等を委員会内で随時確認を行い、褥瘡治癒までの手順に沿って対応した。

【介護技術向上委員会】

本委員会では、①根拠に基づく介護技術の習得と技術の現場展開、②事故、怪我防止として高リスク者のケア内容の見直しの二点を目標に掲げ活動した。介護技術に関しては現場からの意見を拾い上げ、移乗介助が困難な利用者に対する安全な移乗介助と、日々変化していく利用者の状態を専門職に見極めてもらい、移乗方法の再検討と統一したケアの周知徹底に努めた。

事故防止のために高リスク者に対するケア内容の見直しについては、対象となる利用者に対するリスクの再アセスメントやサービス利用状況のモニタリングについて効果を確認していくこととしていた。しかし、期間内においてこれについて取り組むことができなかった。移乗に関する技術研修に思いのほか時間を取られてしまった。「施設サービス計画書」の更新時期や事故報告に対する原因分析・再発防止策において、高リスク者に対し個別に対応していく事例は数件あったものの、事故防止の視点で全体的にケア内容を見直していくまでには至らなかった。

【栄養委員会】

利用者が最期まで口から食べられる楽しみが得られるよう、嘱託医や歯科衛生士など多職種の連携により、より専門的な視点から利用者の経口摂取を維持できるよう活動した。

口腔衛生については、歯科衛生士による口腔衛生指導を毎月行い、指導内容を現場の職員に周知することにより適切な口腔ケアが行え、結果として利用者の口腔内を大きなトラブルなく健康な状態で保つことができた。加えて、新規入所者の口腔内環境を早い段階で把握し、歯科往診に繋げ口腔内の健康を維持することができた。

【排泄ケア向上委員会】

本委員会は①「排泄支援加算」を算定する為のケアプロセスを見直す　②排泄のメカニズムや排泄用品に関する知識を身につける、この二点を重点目標として活動した。

①「排泄支援加算」は令和３年４月の改正により新たに創設されたもので、加算の算定を目指しケアプロセスの見直しに取り組んだ。現時点では、加算要件の確認を行うとともにアセスメントや他職種連携の課題を抽出したにとどまり、目標の達成には至っていない。

②については、施設で使用している排泄用品のメーカーのアドバイザーにリモート研修を依頼し、排泄用品に関する知識だけではなく、排泄のメカニズムや間違った排泄用品の使用が及ぼす人体への影響等、排泄ケアの重要性について研修を通して学ぶことができた。研修終了後は明らかに職員の意識改善が見られた。知識・意識を風化させないためにも、定期的な研修を計画している。

また、重点目標にはなかった取り組みであるが、令和３年度初めに施設内において尿路感染による体調不良者が増加したことから、本委員会として原因分析と解決に取り組んだ。原因分析の結果、尿路感染症や尿道カテーテル留置に関しての職員の知識の不足が明らかとなった。正しい知識の取得と正しい排泄ケア、そして正しい尿道カテーテルの管理を行った。尿路感染症の他にも ESBL 産生菌＊等の知識不足も浮き彫りになった。今後もこの問題に対して継続的に取り組む予定としている。

＊ESBL 産生菌（抗菌薬を分解する酵素を出す菌であり、尿路感染症の原因となる場合がある）

【認知症ケア推進委員会】

令和２年度に引き続き、委員が中心となってモデル利用者を選定し、他職員を巻き込みながら認知症ケアに関する個別計画サービスを提供した。結果、認知症ケアの質が向上したと評価しており、職員への浸透も図ることができた。

認知症ケア自己評価、認知症ケア目標は、前期（4～9 月）、後期（10 月～3 月）に分けてそれぞれ評価し、新たに両方のアンケート用紙を６月から９月に掛けて改定し 10 月に配布した。認知症ケア自己評価は、アンケート結果から職員の自己覚知を促したと判断し、認知症ケア目標でもアンケート結果から目標の認識、周知が得られたと判断した。二つの取り組みともに一定の効果が感じられた。

なお令和３年度は、外部研修への参加、認知症サポーター養成講座等の内部研修は行っていない。

また「認知症介護実践リーダー研修」に１名参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となった。

【災害対策委員会】

令和３年度は、防火設備の設置場所及び使用方法を全職員が把握できることを目標に活動に取り組んだ。

まずは「火災報知・受信設備取扱マニュアル」を制定し、それに基づく火災報知・受信設備の取り扱い研修を伝達形式で行った。その結果、夜間帯の火災報知設備誤作動時にも慌てることなく復旧を行えるようになるなど、取り組みの成果が見られた。

3. つくし苑　利用者状況報告

集計日　　令和４年３月31日現在

(1) 年齢別・性別の状況（単位：人）

年齢／性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	1	7	4	4	2	5	5	1	29
女	0	1	5	4	12	21	24	11	3	81
計	0	2	12	8	16	23	29	16	4	110
平均男（83.8）女（88.0）　全体（86.9）　最高（101）　最低（67）										

(2) 在苑期間の状況（単位：人）

期間／性別	１年未満	１年以上２年未満	２年以上３年未満	３年以上４年未満	４年以上５年未満	５年以上６年未満	６年以上７年未満	７年以上	計
男	11	5	5	1	2	2	3	0	29
女	21	12	13	5	6	5	3	16	81
計	32	17	18	6	8	7	6	16	110
平均：男（２年３月）女（３年10月）　最高：男（６年３月）女（17年10月）全体（３年５月）									

(3) 入退所の状況（単位：人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
新規入所者	男	0	1	1	0	0	2	1	3	0	2	0	3	13
	女	1	2	3	1	2	1	2	1	3	3	3	1	23
退所者	男	0	1	1	0	0	2	3	1	0	2	1	1	12
	女	1	1	3	1	3	1	1	1	4	4	1	2	23
月末在所者数	男	28	28	28	28	28	28	27	28	28	28	27	29	
	女	81	82	82	82	81	81	82	82	81	81	82	81	
	計	109	110	110	110	109	109	109	110	109	109	109	110	

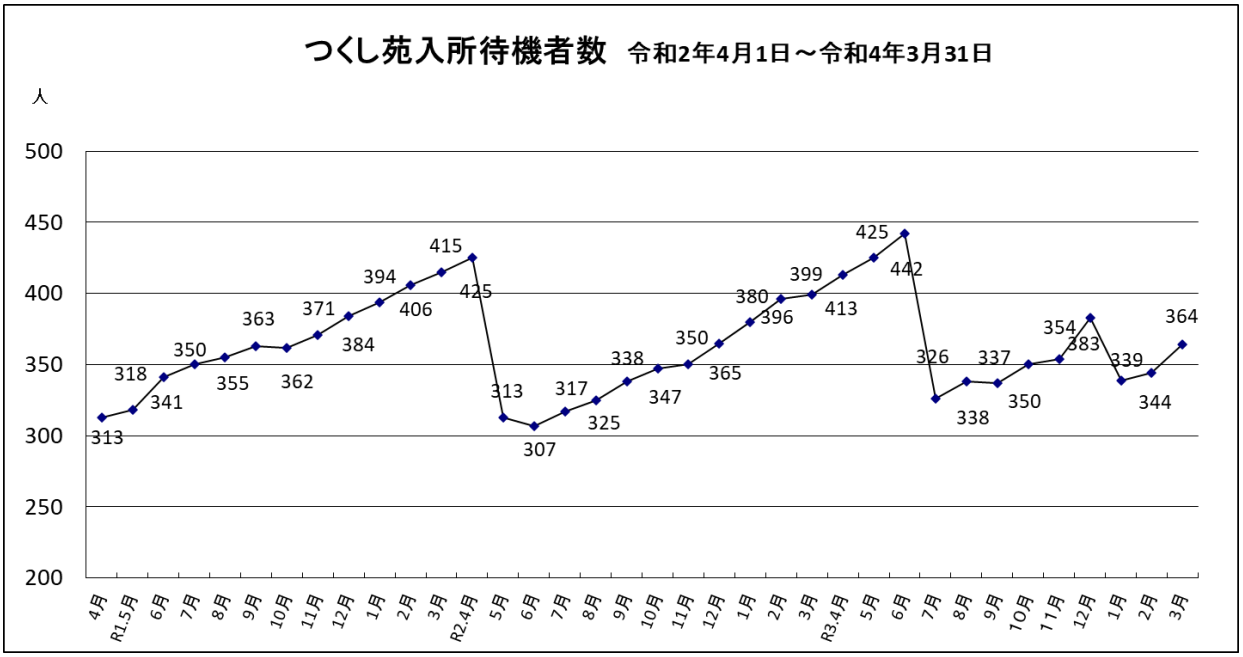
(4) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ベッド数（床）	3,300	3,410	3,300	3,410	3,410	3,300	3,410	3,300	3,410	3,410	3,080	3,410	40,150
利用数（床）	3,158	3,247	3,145	3,280	3,245	3,162	3,303	3,146	3,259	3,270	3,028	3,325	38,568
稼動率（%）	95.7	95.2	95.3	96.2	95.1	95.8	96.9	95.3	95.6	95.9	98.3	97.5	96.1

(5) 介護度別の状況（単位：人）

要介護度	介１	介２	介３	介４	介５	計	平均
令和３年３月末	1	3	17	46	42	109	4.15
令和４年３月末	2	3	20	53	32	110	4.00
増　　減	1	0	3	7	-10		

(6) 入所待機者数



4. 事業実施関係

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
4	1 30	年度始め式、辞令交付式 退職者辞令交付式	22	賀寿祝（1名）		
5	12 26	監事監査会 定時理事会	19 23 30	100歳祝（1名） 賀寿祝（1名） おやつ作り（団子） ドライブ（3名） おやつ作り（どら焼き）		

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
6	2 18 21.22 23～25 27 27～29 30	評議員選任解任委員会 定時評議員会 臨時理事会 コロナワクチン接種１ 床ワックス掛け 職員採用試験 コロナワクチン接種１ 床ワックス掛け	5 9 20 23	賀寿祝（１名） 賀寿祝（１名） 外出ドライブ 市老人クラブ連合会より タオル寄贈	3 14～ 28 28～	法人研修（実践報告会） 秋田看護福祉大看護学科 老年自習（３名） 職員内部研修（内部監査 員研修２名） 秋田看護福祉大看護学科 老年実習（２名）
7	1 2 3.4 5 6 12.13 14.15 19.20 27 29	職員採用試験選考委員会 求人票提出（高校訪問） 床ワックス掛け 苦情解決第三者委員報告 会 秋田民生協会セントラル キッチン視察 浄化槽法定点検 ボイラー点検 エアコン室外機ガス漏れ 点検 職員健康診断 コロナワクチン接種２ コロナワクチン接種２ 新卒高卒者求人求職情報 交換会 避難訓練	13 24 26 30	利用者健康診断 おやつ作り（フルーツポ ンチ） 成章小より応援ボード寄 贈 成章小、十二所保育園よ りえだまめプレゼント	13 20 27～29 27～ 8/4 28 30	法人内部研修（心の健康 づくりに関する研修） 秋田看護福祉大実習指導 者会議 障がい者就業実習 大館桂桜高校初任者研修 実習 会計研修（初級編） 会計研修（中級編）
8	2 4～5 5 19 24 27 31	辞令交付式 施設内水回り保守点検 エアコン工事設計打合せ 自立化計画にかかる長寿 課との打ち合わせ 社会福祉法人連絡会 自動ドア保守点検 害虫駆除	12	納涼会	2 3 17 19～ 9/10	北鷹高校介護の職場体験 水害想定机上訓練 SW 実習 秋田看護福祉大介護実習
9	6～8 7 7～17 9～22 16 20 21 21～24 22 28	窓ガラス清掃 定期人事異動ヒアリング ボイラー交換工事 ストレスチェック 計量器定期検査 消防設備保守点検 第２回職員採用試験 居室カーテンクリーニン グ（代替カーテン取付け） 電話工事（事務室、厨房） 水中ポンプ設置工事 自立化計画にかかる長寿 課との打ち合わせ（２回 目） 職員採用試験選考委員会 入所者処遇システム他入 札 居室カーテンクリーニン グ（クリーニング済カー	14 19 20 26 30	利用者結核健診 賀寿祝（１名） 賀寿祝（１名） おやつ作り（白玉クリー ムぜんざい） 敬老会	7.8	大館桂桜高校就業体験

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
		テン取付け）				
１０	1 5 15 16 19 20 22	辞令交付式 ボイラー工事完成検査 11/1 付人事異動内示 貯水槽清掃 簡易水道検査 自立化計画にかかる長寿課との打ち合わせ（３回目） 退職者辞令交付式 排煙装置定期点検	24 28	賀寿祝（１名） おやつ作り（白玉団子） 衆議院議員選挙不在者投票	14 18～28 22･26･27	大館国際情報学院高校１学年探究活動 秋田看護福祉大看護学科実習 感染対策研修
１１	1 2 8 11 12 15 24 26	辞令交付式 自動制御装置点検 避難訓練 自動ドア保守点検 インフルエンザ予防接種１回目 インフルエンザ予防接種２回目 害虫駆除 臨時理事会	4 28	きりたんぽ作り おやつ作り（フルーツフルーチェ）	17	法人内部研修（心の健康づくりに関する研修）
１２	8 9 14 15 16～18 28	評議員選任解任委員会 苦情解決第三者委員報告会 職員採用試験、職員採用試験選考委員会 自立化計画にかかる長寿課との打ち合わせ（４回目） 施設内仕切り窓清掃 仕事納め式	12 20	賀寿祝（１名） 年忘れ＆クリスマス会		
1	4 7 19 25	仕事始め式、永年勤続表彰式、辞令交付式 令和４年４月１日付新採用職員内定者説明会 ハチ公スノーレンジャー社会福祉法人連絡会 夜勤者健康診断	24	新年会（餅つき）		
2	1 7 8 14 14.15 21.22	辞令交付式 自立化計画にかかる長寿課との打ち合わせ（５回目） 指定管理者実績評価面談 高校生向け企業説明会 コロナワクチン接種３ コロナワクチン接種３	3 13 28	賀寿祝（１名） おやつ作り（チョコバナナ） 賀寿祝（２名）	9 16～3/18	秋田看護福祉大学ソーシャルワーク実習 秋田看護福祉大学介護実習

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
3	4 7 18 24 28 31	介護サービス認証評価制度調査 4/1 付人事異動内示（1次） 定例理事会 4/1 付人事異動内示（2次） 臨時評議員会 退職者辞令交付式	3 14	ひな祭り だまっこ作り 賀寿祝（2名） 100歳のお祝い（1名）		

5. 研修実施状況

(1) 内部研修　※法人合同研修含む

番号	実施日	時　間	対象	内　　容	参加数
1	H3.4/1～ R4.3/31	計2,700分	新採用職員研修 （オリエンテーション除く）	＜主な内容＞ ①オリエンテーション1 （労務関係の説明） ②オリエンテーション2 （各施設見学） ③法人理念と品質マネジメント概論 ④社会人マナー ⑤オリエンテーション3 （配属先勤務体制、業務内容） ⑥オリエンテーション4 （福祉機器の理解と使用方法） ⑦感染症の知識と予防 ⑧個人情報とプライバシー保護 ⑨介護の基本（概論・接遇） ⑩介護技術の基本（移乗・移動） ⑪介護技術の基本（入浴・更衣） ⑫介護技術の基本（排泄用品の知識） ⑬介護技術の基本（排泄） ⑭オリエンテーション5 OA機器、電話機、ナースコール ⑮先輩職員との交流 （1ヵ月の振り返り） ⑯介護技術の基本（食事） ⑰オリエンテーション6 消防設備の使用方法 ⑱介護職員に必要な薬の知識 ⑲介護記録の基本 ⑳事故・苦情・ヒヤリハットの対応 （3ヵ月の振り返り） ㉑職種間の連携とコミュニケーション（6ヵ月の振り返り） ㉒援助の考え方と自立支援	

番号	実施日	時　間	対象	内　　容	参加数
				㉓オリエンテーション７ 力量評価の手順と内容の理解 ㉔権利擁護と虐待・身体拘束 ㉕福祉専門職の倫理とコンプライアンス（1年間の振り返り）	
2	5/25	30 分	掃除委託業者	感染症予防	3
3	5/27	60 分	感染症予防委員・看護師	新型コロナウイルス発症時机上シミュレーション	8
3	6/3	40 分	全職員	実践報告会（ZOOM）	8
4	6/28	60 分	副主任	内部監査員研修	2
5	6/30	60 分	ステップ３	介護過程の理解	2
6	7/13	60 分	管理職 監督職	心の健康づくり計画	9
7	8/3	90 分	管理職	水害図上訓練	4
8	8/23	60 分	ステップ１	コミュニケーションの理解	2
9	9/28	60 分	ステップ１	サービス管理とリスク管理	2
10	10/20.21.22	60 分	介護職員	介護技術向上委員「生活リハビリについて」	28
11	10/26.27	60 分	全職員	つくし苑感染症研修	38
12	11/17	90 分	管理職 監督職	心の健康づくり研修	9
13	11/24.26.29	60 分	介護職員	夜間コール対応研修	40
14	11/29	60 分	ステップ２	サービス管理とリスク管理Ⅱ	2
15	12/17.20.22	60 分	介護職員	排泄研修	40
16	11/8.11 12/11.15 1/6.8.14	60 分	ステップ４	原因分析と再発防止について	22
17	3/23	60 分	介護職員	人権擁護虐待防止研修	44
18	3 月中	自己記入	介護職員	医療的ケア吸引研修	42
計		3,730 分			306

(2) 外部研修

番号	期　間	研 修 名	場　所	参 加 職 員
1	8/2～6 8/29～9/2	介護支援専門員更新研修	大館市	貝森亜希子
2	8/3	水害防災訓練	大館市	鎌田施設長

番号	期　間	研 修 名	場　所	参 加 職 員
				斎藤補佐 小畑補佐 山内係長
3	9/26	「本人意向を尊重した意思決定の為の研修会」	大館市	糸田恵
4	11/17	「心の健康づくり研修」（管理・監督職）	大館市	鎌田施設長　斎藤補佐 小畑補佐　山内係長 滝沢管理栄養士 佐藤主任　畠山主任 高橋主任　工藤主任
5	11/18.19	キャリアパス管理職コース	秋田市	小畑廷洋

令和３年度　大館市デイサービスセンター大滝　事業報告

令和３年度においても新型コロナウイルスの集団感染防止に努めながらの事業運営となった。事業所内でのクラスターは発生しなかったが、利用者家族が濃厚接触になることによる利用控えや、職員家族の感染などで自主的に営業を休止する事態にもなった。結果として、年間の延べ利用人数は今年度 9,604 人と減少した。（令和元年度 10,143 人、令和２年度 9,876 人）

しかし、収入は令和２年度を上回る結果となった。要因としては、新たな加算の取得による収入増加と要介護者の利用割合の増加が挙げられる。令和３年４月に創設された LIFE＊関連の加算取得が、収入安定に重要な要素となる。

重点目標は、「モニタリング及び『利用状況報告書』のデータ化」に取り組んだ。これまでモニタリングや担当ケアマネジャーに報告する「利用状況報告書」は、担当者が手書きで行っていたが、データ化することで効率化を図るとともに「利用状況報告書」の内容充実を図った。まだデータ化実施前後で所要時間の比較はできていない状況であるが、内容充実についてはケアマネジャーへのアンケート結果から、「デイサービス利用中の状況が分かるようになった」「訪問時にデイの利用状況を家族に伝えることができる」等の良い評価を得ている。

令和３年度の顧客満足度調査では、当初の予定に都合のつかない場合に行う「代替利用」や「臨時利用」に関する調査を行った。予定している利用日に利用できなかった場合に、代替利用や臨時利用できるという認知度は高かったものの、どうやったら臨時利用できるのか、お風呂だけの利用はできるのか等、利用する上での疑問点も挙げられた。こういった疑問に対応していくことにより稼働率の向上に繋がるため、丁寧に対応し疑問の解消に努める。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策については、変異株の出現で感染が拡大し、職員及び利用者の感染リスクが現実的な状況にあるが、緊急事態宣言や県の警戒レベル、法人の感染症予防対策委員会の対応方針に従い、体調確認やマスクの着用、手洗いの励行、送迎車輌及び施設備品の消毒等の対策を講じてきた。また、利用者及びその家族の県外への往来等行動の把握に努め、安心して利用できるよう継続的に取り組んだ。今後も感染状況を確認しながら、感染症が発生した場合でも事業が継続できる体制を整備し支援が必要な方にサービス提供を行う。

＊LIFE（Long-term care Information system For Evidence）といい、日本語にすると「科学的介護情報システム」という意味となる。令和３年４月の介護保険制度改正において、根拠（エビデンス）に基づく PDCA サイクルの促進や質の高いサービス提供に繋げることを目的とし導入された。

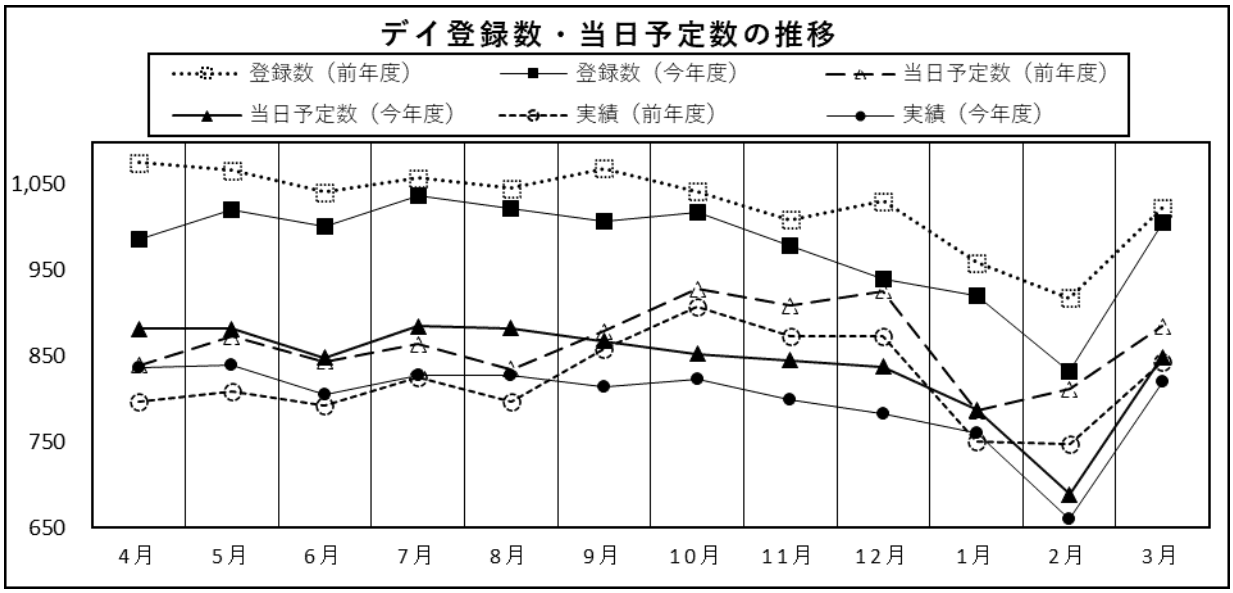
令和４年３月３１日

大館市デイサービスセンター大滝
管理者　和田　誠美

１．事業実績

(1) サービス実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
営業日数	30	31	30	31	30	30	31	30	31	29	26	31	360	363
登録数(延)	986	1,021	1,001	1,037	1,022	1,008	1,017	979	940	921	832	1,006	11,770	12,339
予定（延）	882	882	848	885	883	868	853	845	838	788	689	849	10,110	10,380
実績（延）	836	839	805	828	828	814	824	800	783	761	660	820	9,598	9,877
総合（実）	44	45	42	40	41	38	37	38	37	42	39	42	485	534
介護（実）	74	70	71	77	76	76	79	73	76	74	69	71	886	869
合計（実）	118	115	113	117	117	114	116	111	113	116	108	113	1,371	1,403



(2) 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	構成比
事業対象者	14	15	13	13	13	11	12	13	13	14	13	12	156	11.4%
要支援１	5	5	5	4	5	4	5	5	5	6	5	7	61	4.4%
要支援２	25	25	24	23	23	23	20	20	19	22	21	23	268	19.5%
要介護１	29	28	29	29	29	27	28	23	23	22	19	20	306	22.3%
要介護２	32	28	28	28	28	31	33	35	37	37	35	35	387	28.2%
要介護３	8	9	9	14	14	13	13	12	14	13	14	13	146	10.7%
要介護４	3	3	3	4	3	3	3	1	2	2	1	2	30	2.2%
要介護５	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	1	17	1.2%
計	118	115	113	117	117	114	116	111	113	116	108	113	1,371	100%

2. 行事実施状況

月	行事・レク名	実施日	
4	観桜ドライブ	4/19（月）～4/25（日）	7 日間
5	デイオリンピック	5/24（月）～5/30（日）	7 日間
6	新緑ドライブ	6/21（月）～6/27（日）	7 日間
8	デイ夏祭り	8/16（月）～8/22（日）	7 日間
9	敬老会	9/20（月)～9/26(日)	7 日間
10	外出レク（紅葉ドライブ）	10/25（月）～10/31（日）	7 日間
11	デイオリンピック	11/22（月）～11/28（日）	7 日間
12	クリスマス会	12/20（月）～12/26（日）	7 日間
1	正月気分を味わおう	1/3（月）～1/9（日）	7 日間
2	節分	2/3（木）	1 日間

3. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	場　所	研　修　名	講　師
6	デイホール	介護予防について	宮崎恭子
7	デイホール	コロナウイルス感染予防と対応について	木村真紀子　北林綾
10	デイホール	プライバシー保護、虐待防止について	虻川侑希　石田浩幸
11	デイホール	感染症について（実技・講義）	木村真紀子　北林綾

(2) 外部研修

月	研　修　名	場　所	参加者
10	介護福祉職のためのフィジカルアセスメント	オンライン	虻川侑希

4. 品質目標活動報告

【部門目標】　　「モニタリング及び利用状況報告書のデータ化」

【設定理由】

現在モニタリングと「利用状況報告書」を毎月作成しているが、手書きで行っているため時間が掛かり効率も悪い。また、モニタリングの内容が「利用状況報告書」に反映されていない、担当ケアマネジャーへの情報提供（利用状況）内容にも課題がある。将来的な介護情報の ICT 化に向けて、データ化することにより効率化と内容の充実を図る。

【現状把握】

現状把握として、現時点でのモニタリング作成時間の測定を行った。（下図参照）1 件当たり約 10 分程度時間を要している結果となった。

モニタリング作成所用時間			
氏名	担当件数	作成総時間	1 件当たりの時間
職員 A	6 件	80 分	13 分
職員 B	6 件	50 分	8 分
職員 C	8 件	75 分	9 分
職員 D	10 件	90 分	9 分
職員 E	9 件	60 分	6 分
職員 F	13 件	150 分	13 分
職員 G	12 件	165 分	13 分
職員 H	13 件	120 分	9 分
職員 I	13 件	105 分	8 分
職員 J	13 件	230 分	17 分

【対策の実施】

効率化として、モニタリング・利用状況報告書を、Excel でひとつの画面で確認しながら作成できるようにした。その月のモニタリング表の状況(本人からの言葉、満足度、状況変化などを記載する)を入力すると、自動的に「利用状況報告書」の「その他の連絡」に入力出来るよう調整した。また、職員各々が使用していた BMI、体重管理表を事業所内で共有した。記録作成のための事前準備に活用し、その数値をまとめておくことで、表作成の時間短縮に繋げた。

「利用状況報告書」の内容の充実については、過去の「利用状況報告書」のデータを共有することとした。利用状況が詳しく記載されている報告書を参考にしてもらい、内容の充実につなげた。（歩行状態の安定、休止理由、打撲、転倒などの怪我、心身状態、特変時の様子と対応、退院後の様子等）

【効果の確認】

３月時点でデータ化実施前後の所要時間の比較がまだできていない状況であるが、「利用状況報告書」の内容充実についてはケアマネジャーへのアンケート結果から、「デイサービス利用中の状況が分かるようになった」「訪問時にデイの利用状況を家族に伝えられる」等の感想を得た。

【まとめ】

モニタリング、「利用状況報告書」をデータ化することでのメリットばかりをイメージし活動してきたが、実際はパソコンの空きがなく作成が思うようにできない、パソコンの操作に慣れず時間を要してしまう、等のデメリットも見えてくる結果となった。

ただ、他事業所の報告書を見ても、文章はパソコン上で作られているものが殆どであることや、現在は紙ベースで報告している（FAX 等含む）のが主流だが、いずれは電子データ化になることを考えれば、このタイミングで切り替えることが出来て良かったと感じている。

効率化においては、関連する機器の整備や様式の作成等、ハード面の充実も大事だが、ソフト面として職員間の協力・連携は常に求められるので、その点については今後も職員一人一人が意識して取り組めるようにしたい。

令和３年度　大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション事業報告

令和３年度は、一人暮らしの高齢者が、認知症状の悪化や日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の低下のため、自立した生活が困難になり要介護状態が悪化し、結果的に施設入所となる利用者が多かった。ヘルパーは、利用者の日常生活における精神面を安定させること、また健康状態や生活環境の小さな変化に気付くことが大切であると感じ、情報共有を密にし、早期の対応に繋げられるよう努めた。

品質目標は「自立に向けた『見守り的援助』の視点について学び、援助提供に活かす」と設定し、取り組んだ。在宅生活を継続するためには、利用者個々の状況を踏まえた「自立支援」「重度化防止」が必要になる。

元来、訪問介護サービスは、介護保険法に基づいて提供されるものであり、「利用者の持っている力を活かし、利用者が望む生活を送れるように支援することが目的である」と示されている。内部研修では「自立支援」「重度化防止」について知識を深め、利用者とヘルパーが、共に日常生活に関する動作を行うことで、利用者のできることを増やすことが大切であることを学んだ。また、買い物や服薬管理、電話対応などＩＡＤＬの維持と残存機能を活用した援助が行えるよう知識を深めた。これらの内部研修については今後も継続して取り組む。

令和３年度の訪問件数は、一月当たり概ね 580 件前後で推移し、令和２年度と比較し増加した。新規の依頼で多かった援助内容は、これまでと同様の通院援助に加え、毎日訪問し服薬管理補助を行う援助であった。また、依然として病院への交通手段に困っている高齢者は多く、福祉有償運送サービスの依頼は増加し続けている。

顧客満足度調査では、概ね高い評価を得ることができた。今後も生活支援者としてヘルパー自身が規律を守り、利用者が持っている力を活かし、一人ひとりが望む生活を送れるよう援助の中で気づいた変化をケアマネジャーに情報提供し、多職種連携によるチームケアに繋げられるようスキルアップに努める。

令和３年３月３１日

大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション
管理者（サービス提供責任者）　伊藤　裕子

1.　事業実績

(1) 利用人数（実）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
訪問型（総合）	28	27	27	27	28	26	27	27	26	28	25	26	322	45.4%
訪問介護	31	29	30	29	31	30	32	31	28	29	25	28	353	49.8%
障がい者支援	3	4	2	4	3	2	4	3	2	2	3	2	34	4.8%
福祉輸送（再掲）	25	24	26	22	25	23	18	25	24	21	20	24	277	
計	62	60	59	60	62	58	63	61	56	59	53	56	709	100.0%

(2) 活動件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
訪問型（総合）	139	131	128	128	136	129	123	127	130	124	115	131	1,541	22.1%
訪問介護	390	370	366	349	358	361	343	327	305	325	259	319	4,072	58.3%
障がい者支援	11	14	7	11	9	7	12	10	9	7	9	7	113	1.6%
福祉輸送	101	100	120	107	112	104	92	105	103	100	91	118	1,253	18.0%
計	641	615	621	595	615	601	580	580	559	557	476	578	6,979	100.0%

(3) 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
事業対象者	11	10	11	11	10	9	10	10	9	9	7	7	114	17.4%
要支援Ⅰ	4	4	4	4	5	4	4	3	3	4	4	5	48	7.3%
要支援Ⅱ	13	13	12	12	13	13	13	14	14	5	14	14	150	22.8%
要介護１	7	7	7	8	7	9	10	9	9	10	9	7	99	15.1%
要介護２	16	14	15	12	12	14	14	13	12	12	11	14	159	24.2%
要介護３	2	5	4	5	6	4	4	6	6	6	4	4	56	8.5%
要介護４	3	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	12	1.8%
要介護５	3	2	3	3	2	3	1	1	0	0	0	1	19	2.9%
計	59	56	57	56	56	56	56	56	54	47	50	54	657	100.0%

2. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	研　修　名	場　所	講　師	人数
4	マニュアルの見直し	事業所	小松　政子	7
	法令遵守　コンプライアンス規程の確認	事業所	伊藤　裕子	7
	安全配慮義務を考慮した移送サービス（福祉有償運送講習参加内容）	駐車場、敷地内道路	伊藤　裕子	7
5	身体拘束について	事業所	伊藤　裕子	7
6	接遇	事業所	工藤　恵子	7
7	調理の研修	事業所	畠山　優子	7
8	メンタルヘルス	事業所	小松　政子	7
9	自立生活支援・重度化防止のための見守り的援助について学ぶ①	事業所	伊藤　裕子	8
10	自立生活支援・重度化防止のための見守り的援助について学ぶ②	事業所	伊藤　裕子	7
11	自立生活支援・重度化防止のための見守り的援助について学ぶ③	事業所	伊藤　裕子	7
12	感染症対応について	事業所	工藤　恵子	7
1	やって良い事、悪い事、あいまいゾーンについて	事業所	伊藤　裕子	7

月	研　修　名	場　所	講　師	人数
2	フィジカルアセスメントについて学ぶ～利用者の持病について学び、緊急時の対応へ繋げる～ 救命救急	事業所	小林　幸子 伊藤　裕子	7
3	自動車運転の交通ルール、危険について	事業所	伊藤　裕子	7

3. 品質目標活動報告

【部門目標】

自立支援に向けた「見守り的援助」の視点について学び、援助提供に活かす

【設定理由】

認知症状や障がいを抱えている利用者が増え､直接的な身体介護ではない部分で、一連の動作に関する「見守り的援助」が多くなっている。生活動作の中で、少しでも他者が補助することで､在宅生活を継続できる利用者が多くおり､｢見守り的援助｣ニーズが高まっているように感じている。

「見守り的援助」の視点を学び、利用者の状況を踏まえた「見守り的援助」が自立支援や身体的機能の低下予防にどのようにつながっているのかを理解した上で、ケース事例検討を行い自立支援に向けた援助を提供できるようになる。

【まとめ】

５回の研修を行い、訪問介護サービスは介護保険法に基づいて提供されるものであり､｢利用者の持っている力を活かし､利用者が望む生活を送れるように支援することが目的である」と示されていることを確認しあった。ヘルパーより「介護保険法を学ぶことで、自立生活支援・重度化防止のための見守り的援助を学んでいく必要性を確認できて良かった。」と感想が多く聞かれた。

日々行っている「身体介護｣｢生活援助」の細かい援助内容を学び、ヘルパーから利用者へ働きかけることで、自立支援に繋がることがたくさんあることを確認できた。また、利用者とヘルパーが、共に日常生活に関する動作を行うことで、利用者の出来ることを増やすことが大切であることに気づいた。

利用者の状態観察を行い、変化やサインに気づき､｢自立支援｣｢重度化防止」のための適切な支援・早期対応へ繋げることが大切であることを確認し、令和４年度も自立支援に向けた「見守り的援助」の視点について学びを深めていく。

令和３年度　ケアプランセンターおおたき　事業報告

令和３年度は、介護報酬改定の年であったため、その内容について整理し居宅介護支援部門で学ぶ機会を設け、部門内で共通理解を深めた。結果として、大きな不具合を生ずることなく報酬改定に対応できた。

また、新型コロナウイルス感染症の流行も続いていることから、医療機関や施設においては対面でのやりとりが制限されることはあったが、電話での聞き取りや感染予防に配慮した面談にて情報収集や関係機関との連携に努め、利用者支援へ大きな影響はなく業務を進めることができた。課題としていたICTの活用については、体制は整ったものの活用に至らず、今後効果的な活用ができるよう検討していく。

ケアプランセンターおおたきでは、給付管理件数の維持を目指し、限られた人員の中でも新規の利用者に速やかに対応できるよう努めた。新規相談件数は、50件で令和２年度よりも９件増加している。相談連絡元で最も多かったのは地域包括支援センターからの依頼で年間37件、他、家族から直接の依頼が６件、医療機関からは４件となっている。

給付管理件数は月平均で目標としていた件数を上回ることができた。引き続き医療機関や他事業所との情報連携を通じて関係性を構築し、利用実績の改善に取り組む。

また、ケアプランセンターはぎのだいと協働し合同での内部研修を行った。令和３年度は、事例検討会を通し社会資源の活用の幅を拡げるためにはアセスメントを丁寧に行い、利用者のニーズを把握すること、それに対応できる資源について考えることが重要であると学んだ。また、「関係機関の立場を理解する」と題して関係事業所からのアンケート結果を基に連携時におけるケアマネジャーへの期待について研修を行った。情報提供や会議等で関係機関が求めている内容を共有し、情報提供のタイミングや方法、会議での進行の仕方など具体的な気づきを得られ、その後の実践でも活かすことができた。

最後になるが、ケアマネジャー個々の力量向上こそが居宅介護支援業務全体の質の向上へつながり、そのことが利用者及び家族、また地域の関係機関からの信頼獲得へと結びついていくことを踏まえ研さんに努めていく。

令和３年３月３１日

ケアプランセンターおおたき
管理者　伊藤　政利

１．事業実績

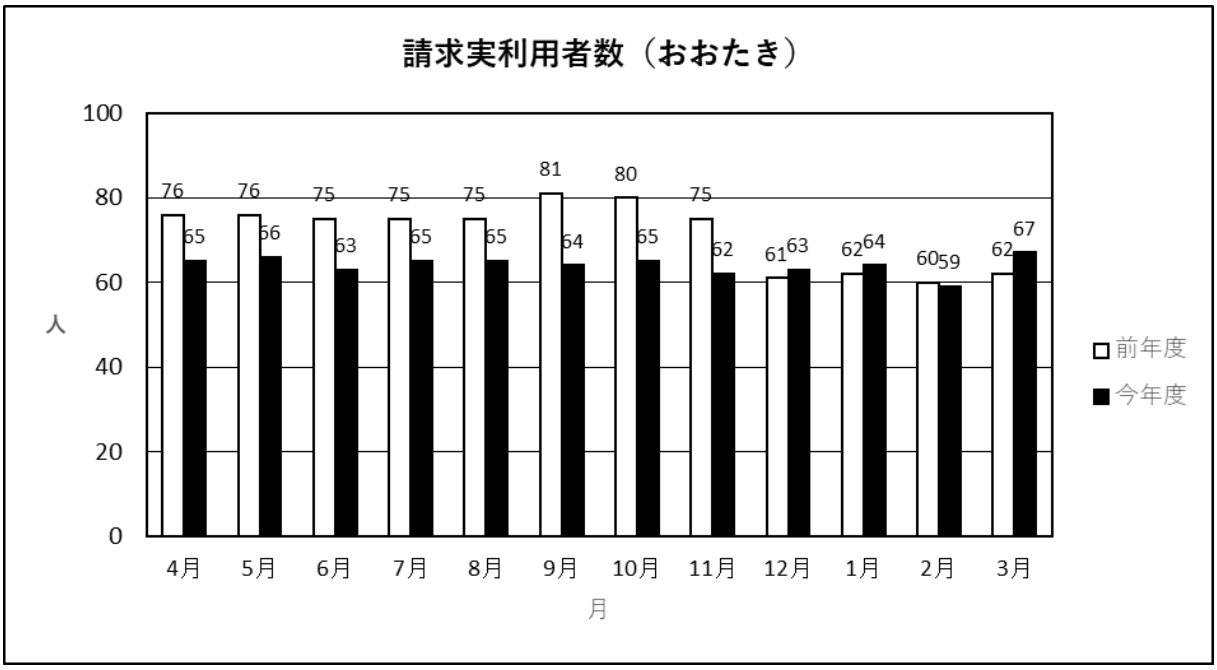
(1) サービス実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
請求実利用者数	65	66	63	65	65	64	65	62	63	64	59	67	768
予防受託件数	5	5	6	5	5	6	5	5	5	6	7	7	67

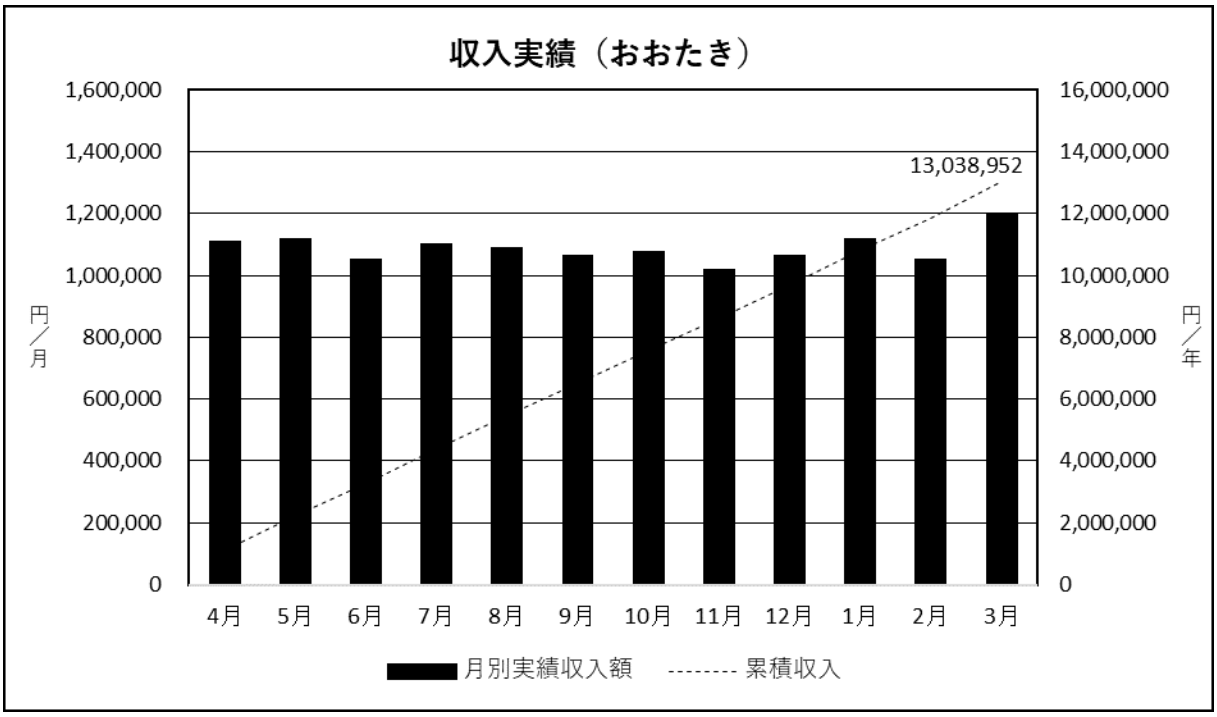
(2) 廃止・新規件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
廃止件数	0	2	0	5	2	2	2	2	3	0	2	3	23
新規件数	6	1	2	4	4	5	6	0	4	4	4	5	45

(3) 請求実利用者数



(4) 月別収入実績



(5) 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延	構成	計
要介護 1	16	15	15	16	18	19	17	17	17	16	14	14	194	25.3%	70.6%
要介護 2	26	29	29	29	29	31	33	30	29	29	27	27	348	45.3%	
要介護 3	11	10	9	9	9	8	9	10	11	9	10	15	120	15.6%	29.4%
要介護 4	7	9	7	7	6	5	5	4	5	9	5	8	77	10.0%	
要介護 5	5	3	3	4	3	1	1	1	1	1	3	3	29	3.8%	
計	65	66	63	65	65	64	65	62	63	64	59	67	768		

2. 研修参加状況

（1） 内部研修

月	研 修 名	場 所
4	介護報酬改定の内容	ケアプランセンターはぎのだい
5	グループスーパービジョンの方法について	ケアプランセンターはぎのだい
7	スーパービジョンの実際①	ケアプランセンターはぎのだい
9	関係機関の立場を理解する	ケアプランセンターはぎのだい
10	スーパービジョンの実際②	ケアプランセンターはぎのだい
11	スーパービジョンの実際③	ケアプランセンターはぎのだい

（2） 外部研修

月	研 修 名	場 所	参 加 者
5	介護報酬改定の詳細解説	オンライン	能登谷直美
7	県北地区介護支援専門員協会第 1 回研修会 「ケアマネジメントについてもう一度ふりかえってみよう」	オンライン	能登谷直美
8	介護支援専門員更新研修	オンライン	能登谷直美
9	ケアラー支援の新時代 「共にケアする社会をめざして」	オンライン	能登谷直美 三上歌誉子
11	秋田県精神保健福祉協会大館鹿角支部研修会 「訪問看護を通じた当事者の方々への支援の実際」	北部エリア	伊藤政利 能登谷直美
11	介護支援専門員等に対する実践力向上研修 「介護予防支援従事者研修」	オンライン	能登谷直美 三上歌誉子
11	県北地区介護支援専門員協会開催 「ACP 再考～ケアマネジメント実践を振り返って～」	オンライン	能登谷直美 三上歌誉子
12	自立支援型地域ケア会議実践研修～事業所編～	オンライン	能登谷直美 三上歌誉子

3. 品質目標活動報告

【部門目標】　　事例検討を通し、社会資源の活用の幅を拡げる。

【設定理由】

検討会を通して、支援に必要となる社会資源（ヒト・カネ・モノ・サービス等）や、介護保険外のインフォーマルサービスについて意識しながら事例検討会に臨むことで、社会資源について理解を深める。また、インフォーマルサービスを知ることで活用の幅を広げ、情報の引き出しが増えることによって、今後の関わりがより良いものとなり利用者にとっても有益となると思われる。

【活動状況】

月	取組事項
4	年間の取り組み内容の決定
6	事例検討会①　（包括圏域居宅連絡会参加）
8	事例検討会②　（包括圏域居宅連絡会参加）
9	研修の実施　（関係機関の立場を理解する）
11	事例検討会③　（SS 長期利用の事例）
12	事例検討会④　（包括圏域居宅連絡会参加）
1～3	取組みの振り返りとまとめ

【まとめ】

事例検討会への参加や内部研修の取り組みにて、ケアプラン作成において取り組み前とは内容が変化したと思うとの意見が聞かれた。その他、社会資源や関係機関への理解を深めることができたとの感想もあり、目的とした効果を実感するまでには至らなかったものの、インフォーマルサービスや関係機関等について意識を高めることができた。

令和３年度　ケアプランセンターはぎのだい　事業報告

令和３年度は､3 年に一度の介護報酬改定となった｡事業所の運営基準の見直しや、利用者に直接関わる介護保険サービスの利用料金の改定など、内容は多岐にわたるものであったが、大館市居宅介護支援事業所連絡会への参加や、内部研修を企画するなどして内容の把握に努め、概ねスムーズに対応できた。

また事業所を開設し３年目となったが、これまで取り組んできた他機関、他事業所との関係性の構築が形となり利用者の紹介件数も増えてきた。改めて丁寧な相談対応に努める。

部門内の重点目標としては、ケアプランセンターおおたきと協働し「事例検討会を通し、社会資源の活用の幅を拡げる」ことを目標にして取り組んだ。結果、目的とした効果を実感するまでには至らなかったものの、インフォーマルサービスや関係機関等について意識を深めることができた。

今後も、利用者にとって最善の利益を追求できるよう、ケアプランセンターおおたきとの協働によりケアマネジャー個々の資質向上に努めると共に、関係機関との連携を図り、利用者及び家族、そして関係機関からの信頼が得られる事業所を目指し活動することを誓い事業報告とする。

令和３年３月 31 日

ケアプランセンターはぎのだい
管理者　伊藤　恵子

1.　事業実績

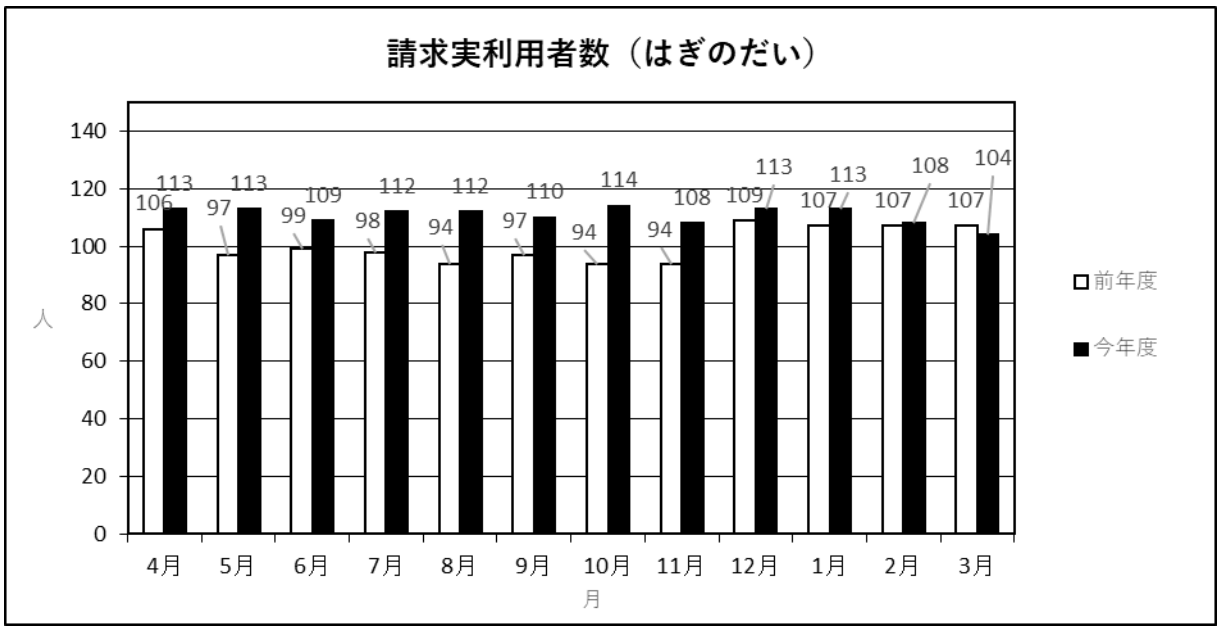
(1) サービス実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
請求実利用者数	113	113	109	112	112	110	114	108	113	113	108	104	1,329
予防受託件数	8	8	8	9	9	8	7	7	10	9	8	9	100

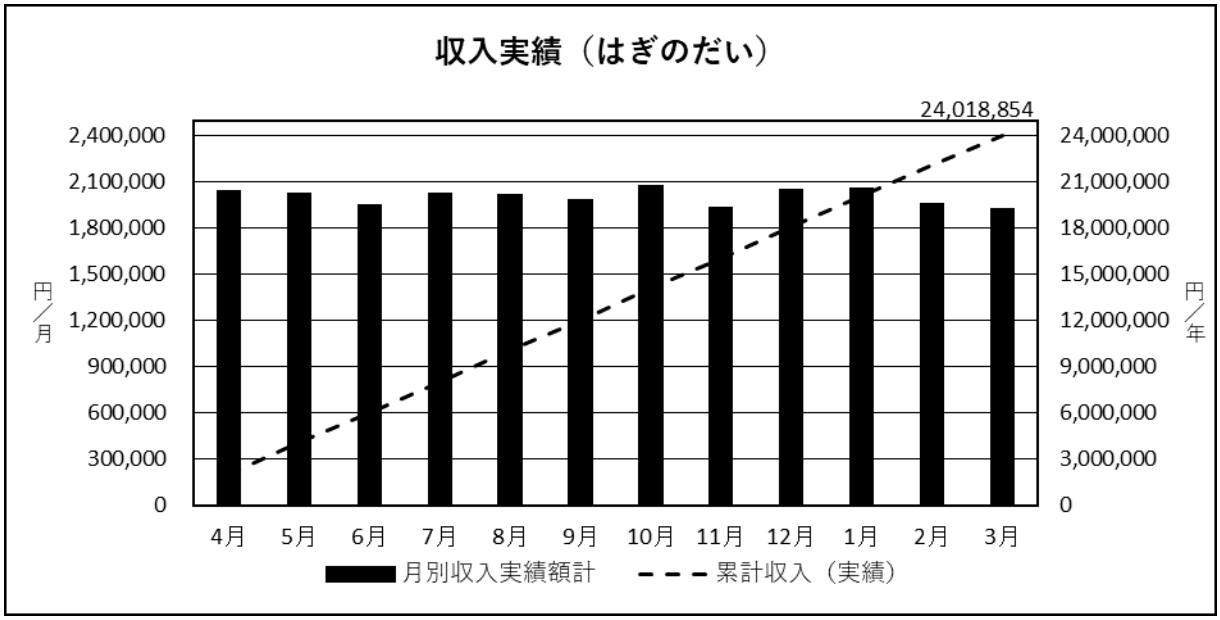
(2) 廃止・新規件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
廃止件数	6	6	0	3	6	4	6	2	3	4	3	7	50
新規件数	4	4	3	3	2	5	4	3	7	3	1	6	45

(3) 請求実利用者数



(4) 月別収入実績



(5) 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延	構成	計
要介護 1	33	36	35	33	32	32	32	30	29	24	24	25	365	27.6%	62.7%
要介護 2	40	38	34	36	36	37	38	40	41	43	41	40	464	35.1%	
要介護 3	19	19	20	22	24	23	26	24	27	25	24	24	277	20.9%	37.3%
要介護 4	13	11	12	13	12	11	10	9	12	14	12	11	140	10.6%	
要介護 5	8	9	8	8	8	7	8	5	4	4	4	4	77	5.8%	
計	113	113	109	112	112	110	114	108	113	110	105	104	1,323		

2. 研修参加状況

(1)内部研修

ケアプランセンターおおたきに同じ

(2)外部研修

月	研 修 名	場 所	参 加 者
7	秋田県災害派遣福祉チーム員養成研修	オンライン、社会福祉会館	伊藤恵子
	県北地区介護支援専門員協会：第１回研修会	オンライン	伊藤恵子
9	令和３年度　高齢者虐待セミナー参加	オンライン	伊藤恵子
10～11	主任介護支援専門員研修	オンライン	黒澤繁子

3. 品質目標活動報告

ケアプランセンターおおたきに同じ

令和３年度　大館市地域包括支援センターおおたき　事業報告

高齢者をはじめとする地域住民が住み慣れた地域で自立して生活していくことを実現するため、地域包括支援センターは総合相談支援、権利擁護、包括的継続的ケアマネジメント支援、介護予防支援の四つの機能の実践を通じて、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを行っている。

新型コロナウイルスの流行が続くなか、秋田県では感染者の急激な増加により令和４年１月 24 日から「感染警戒レベル 3」が適用され延長が続いた。大館市内においても感染者が増加していることから、市委託事業について自粛要請を受け、当センターにおいても地域活動を自粛せざるを得ない状況が続いている。

そのような中、当センターへの新規相談件数は令和２年度を上回り、本人や家族からの相談以外にも、地域から孤立した高齢者や認知症が疑われる独居高齢者など地域内で気にかかる高齢者について、民生委員をはじめとした地域住民からの相談が多くあった。また、ここ数年間対応実績がなかった高齢者虐待に関する通報も受け付け、うち３件について虐待が認定され継続的に対応してきた。

法人内の部門活動では、品質目標を「災害対応に備え、圏域内の避難所について把握する」と設定し、生活支援コーディネーターと協働し避難所リストを完成させた。また当センターが設置する地域ネットワーク協力委員らと災害対応時のスムーズな連携を考える場や災害図上訓練を体験する機会を設け､他機関との関係づくりに努めた。この活動は、引き続きセンターの BCP 策定や地域における災害対応について考える土台としたい。

センター職員は複雑かつ多様な相談対応のほか、総合事業対象者及び要支援認定者に対する介護予防ケアマネジメントの実施、健康教室や地域ケア会議等の開催など、日常業務は幅広く多岐に渡り高い専門性が求められる。運営にあたってセンター職員の育成は必須であり、様々な研修への参加を通じて個々のスキルアップを図ると同時に、国の施策や制度改正等について最新情報を得てきた。また同時にチーム内で共通認識を持ち、同じ目標下でお互いをフォローしながら業務に取り組む意識が形成された。

令和４年度は、大館市が全国自治体に先駆け、重層的支援体制整備事業の一環として、包括支援センター内に「福祉まるごと相談室」を設置する。当センターにおいても、これまで培った相談業務の知見と他機関とのネットワーク機能を十分に発揮し、高齢者だけではなく地域に暮らすすべての住民の総合相談窓口として相談支援体制の充実を目指していくこととし、事業報告とする。

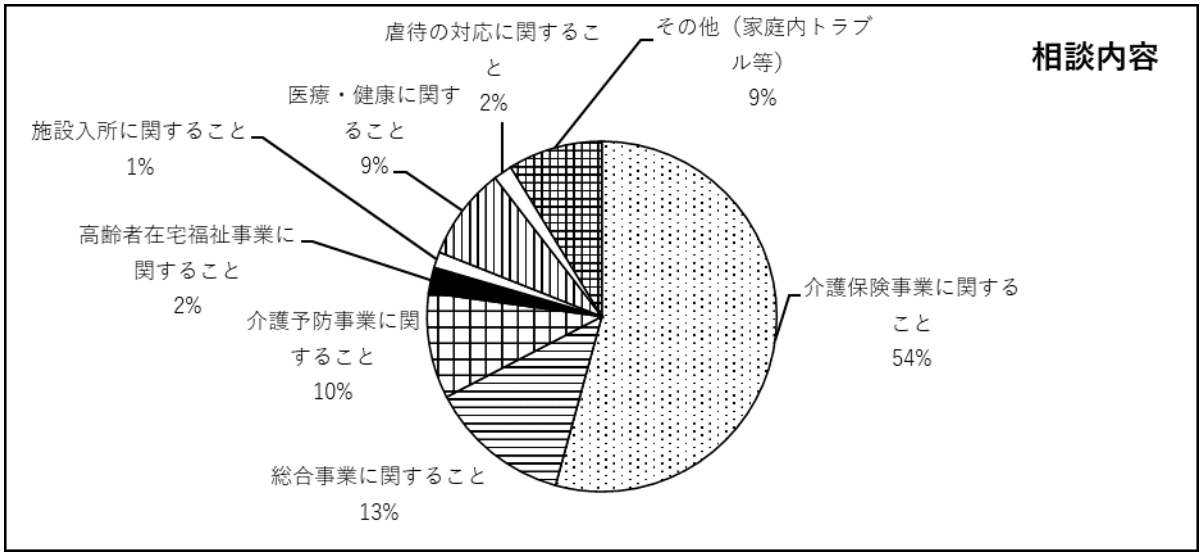
令和３年３月 31 日

大館市地域包括支援センターおおたき
管理者　虻川　江美子

1. 事業実績

(1) 相談受付状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談方法	電話相談	82	82	73	41	57	35	65	63	76	51	52	83	760
	来所相談	4	0	6	5	6	4	2	4	5	0	1	3	40
	訪問相談	52	56	73	44	65	61	62	53	68	61	56	63	714
	その他	2	5	2	6	3	1	4	3	6	5	10	7	54
相談内容	介護保険事業	76	83	89	57	68	56	62	58	97	68	56	81	851
	総合事業	24	11	20	9	20	15	18	24	10	22	12	21	206
	介護予防事業	3	12	25	16	5	18	22	14	7	2	3	26	153
	高齢者在宅福祉事業	3	2	2	1	6	4	3	0	3	7	2	4	37
	施設入所	0	0	0	0	0	1	4	0	0	2	13	3	23
	医療・健康	25	28	9	4	13	6	6	4	14	1	10	14	134
	成年後見制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虐待の対応	0	0	0	0	0	0	2	1	2	7	13	2	27
	消費者被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	9	7	9	9	19	1	16	22	22	8	10	5	137
	合計	140	143	154	96	131	101	133	123	155	117	119	156	1,568



(2) 指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計（実）
要支援１	40	40	39	38	40	41	43	43	46	46	49	48	513
要支援２	65	59	58	59	60	58	58	59	62	60	62	62	722
事業対象者	39	40	38	38	38	38	39	38	38	41	39	36	462
対象者数計	144	139	135	135	138	137	140	140	146	147	150	146	1,697
（うちプラン作成件数）	100	97	97	96	96	96	96	95	101	107	107	107	1,195
（うち委託件数）	16	15	17	16	15	15	16	16	20	20	21	20	207

(3) 介護予防事業など

① 生きがい健康づくり支援事業

開催回数：３９回　　参加延べ人数：403 名

内　　容：フレイル予防体操（秋田労災病院考案）、脳トレーニング、レクリエーション等

（レクリエーション内容）スカットボール、ボールダーツ、ビーンボーリング、創作活動（ペットボトルで風鈴づくり）、棒サッカー等

（他、講師派遣）

1）円熟体操

講　　師： 元気アップ運動機会拡充事業認定指導者　袴田　清枝　氏
（県のスポーツ実施率向上を目指した運動機会拡充事業を利用）

開 催 日：令和 3 年 10 月 22 日

会　　場：上川沿公民館

2）栄養教室

講　　師：森永乳業（株）秋田営業所　管理栄養士　鵜木　富士子　氏

開 催 日：令和 3 年 11 月 25 日

会　　場：別所自治会館

※令和 4 年 1 月 24 日から、「感染警戒レベル 3」維持による活動自粛となり、以降の全日程は中止となる。

② 家族介護者教室

開催回数：2 回　　参加延べ人数：46 名

「在宅生活を支える福祉用具を知ろう」

講　　師：福祉用具センター虹の街　平川　裕一様

開 催 日：①令和 3 年 9 月 16 日、②令和 3 年 9 月 22 日

会　　場：①上川沿公民館、②十二所公民館

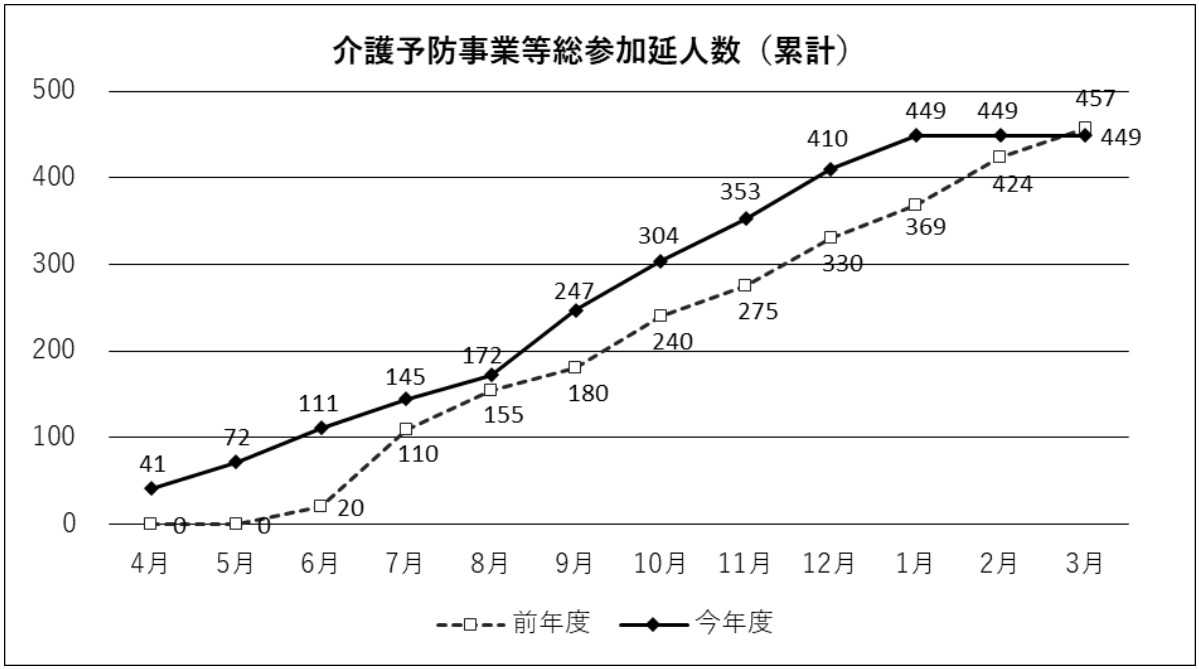
③ 認知症予防事業

1）認知症予防教室・・・令和 4 年 1 月 24 日から、感染警戒レベル「3」維持による活動自粛のため、開催中止となる。

2）認知症カフェ・・・家族介護者教室終了後、同日開催した。

事 業	会 場	回数（実績/予定）
生きがい健康づくり支援事業	1.北部シルバーエリア　コミュニティセンター	10 / 12
	2.十二所公民館	4 / 4
	3.五輪岱自治会館（軽井沢）	3 / 4
	4.別所自治会館	3 / 4

	5.沢尻生活センター	2 / 2
	6.上川沿公民館	4 / 4
	7.根下戸町内会館	4 / 4
	8.舟場会館	4 / 4
	9.餌釣会館	3 / 4
	10.ケアハウスほうおう（新）	2 / 4
家族介護者教室	上川沿公民館、十二所公民館	2 / 2
認知症予防教室	北部シルバーエリア	0 / 1



2. 会議開催状況

(1) ネットワーク協力員会議

開催日	概　要
令和3年4月22日	・包括おおたきの事業報告、事業計画について ・健康教室で使用するDVD「フレイル予防プログラム」紹介 ※秋田労災病院考案
令和3年7月15日	災害対応について① ・協力員からの情報提供 ・地域ケア会議 「担当圏域の災害対応について考える」～スムーズな連携のために～
令和3年12月2日	災害対応について② ・前回会議のふりかえり ・地域ケア会議（災害図上訓練） 講師：大館市役所危機管理課危機管理係　防災アドバイザー　野口幸喜氏

(2) 地域ケア個別会議

開催日	概　要	年度末の状況
令和3年 6月7日	事例）認知症独居高齢者 目的）ネットワーク構築および個別課題解決 参加）福祉員、担当ケアマネジャー、介護サービス事業所、警察、行政、生活支援コーディネーター	精神病院入院中
7月6日	事例）セルフネグレクト状態にある独居高齢者 目的）前回会議（R3.1.14）後の経過共有、保護停止となり、新たな支援体制構築と役割分担 参加）民生委員、担当ケアマネジャー、介護サービス事業所、行政、生活支援コーディネーター	施設入所
7月15日	※ネットワーク協力員会議に記載	―
8月4日	事例）精神疾患のある高齢者 目的）個別課題の解決および地域課題の発見 参加）本人、民生委員、担当ケアマネジャー、介護サービス事業所、管理栄養士、行政、生活支援コーディネーター	在宅生活の継続
9月8日	事例）夫（要介護4）と精神疾患の息子と暮らす認知症高齢者 目的）ネットワーク構築および個別課題の解決 参加）本人、息子、民生委員、夫の担当ケアマネジャー、障がい相談機関、行政、生活支援コーディネーター	在宅生活の継続
10月26日	※7月6日会議のケース 目的）その後の経過共有、個別課題の解決 参加）民生委員、担当ケアマネジャー、介護サービス事業所、行政、生活支援コーディネーター	―
12月2日	※ネットワーク協力員会議に記載	―
令和4年 2月25日	事例）支援者のいない独居高齢者 目的）ネットワーク構築および個別課題の解決 参加）本人、民生委員、担当ケアマネジャー、介護サービス事業所、行政、生活支援コーディネーター	在宅生活の継続
3月7日	地域ケア会議 「十二所地区における災害時避難行動要援護者と今後の地域連携について」 参加）十二所地区民生委員、福祉課総務係、第1層・第2層生活支援コーディネーター	―

(3) 高齢者虐待対応会議

開催日	概　要	年度末の状況
令和3年 10月13日	①同居の嫁から要支援の義母に対する身体的虐待 ⇒家族支援およびサービス調整。	在宅生活の継続
令和4年 1月25日	※ケース①の2回目会議 ⇒虐待対応支援の終結	―
1月26日	②夫婦で施設入所中、夫から認知症の妻に対する身体的虐待	施設生活へ復帰

開催日	概　要	年度末の状況
	⇒緊急的保護、夫婦の精神科通院支援、関係機関との連携	
2月9日	③精神障がいの息子から要介護の父に対する身体的虐待 ⇒早期の施設入所を目指す、その他モニタリング	在宅生活の継続 （特養入所待機）
2月21日	※ケース②の2回目会議 ⇒支援継続、夫婦の精神科通院支援、関係機関との連携	―
3月10日	④長男から認知症の母に対する心理的虐待疑い ⇒大声など不適切な状況はあるが、虐待なしの判断となる。 引き続き、家族支援、状況の悪化がないか経過観察。	在宅生活の継続
3月22日	ケース②の3回目会議 ⇒支援継続、施設生活復帰に向け関係機関の調整	―

(4) 包括おおたき圏域居宅連絡会

担当圏域内にある居宅介護支援事業所（おおたき/はぎのだい/くらす/山王台）に対し定例開催

開催日	内容/参加人数	事例提出/テーマ
4月15日	包括おおたき活動報告 情報交換会　　（15名）	・令和2年度　地域ケア会議の事例報告 ・制度改正、報酬改定等について情報交換
6月17日	事例検討会　　（17名）	ケアプランセンターおおたき 「ケアマネとしてどのように対応したらよいか？」
8月5日	事例検討会　　（17名）	介護サービスセンター山王台居宅介護支援事業所 「高齢夫婦の生活の今後について」
10月21日	勉強会　　（12名）	「高齢者の権利擁護について」 講師：秋田弁護士会所属　弁護士　熊谷　克史氏
12月16日	事例検討会　　（15名）	ケアプランセンターはぎのだい 「在宅生活の可能性は？施設入所がゴールなのか？本人の意向と家族の意向の相違を埋めるには？」
3月17日	臨時）管理者会議　　（5名）	次年度計画について検討 （※1月、2月は開催中止となったため）

(5) その他会議等への参加状況

会議名等	回数/職員
大館市地域包括支援センター連絡会	8回（虻川/苗代沢）
大館市地域包括支援センター運営協議会　（令和3年8月18日） 大館市地域ケア推進会議　（　〃　）	1回（虻川）
大館市在宅医療・介護連携推進協議会	1回（代理/苗代沢）
グループホーム山王台運営推進会議　（※書面会議）	年6回（苗代沢）
大滝温泉サロン千歳運営推進会議　（※書面会議）	年2回（虻川）
消防署防火診断への同行（令和3年12月7日）	1回（苗代沢）
上川沿地区地域支え合い推進会議	2回（虻川/苗代沢）

会議名等	回数/職員
十二所地区地域支え合い推進会議	2回（虻川/苗代沢）
認知症サポーター養成講座	開催なし

3. 生活支援体制整備事業

大館市生活支援体制整備事業は、高齢者の介護予防と住民主体の助け合い・支え合い活動による生活支援（買い物・外出・その他）を、一体的に進めることを狙いに、大館市より受託している事業である。7つの包括圏域（第2層）ごとに生活支援コーディネーターが配置されており、市全域（第1層）と協働し活動している。

地域では未だ新型コロナウイルス感染拡大に伴い多くの団体が活動の自粛を余儀なくされている。集まる機会が制限されている状況にあり、令和3年度は感染状況を注視しながらの活動となった。

十二所地区では、住民のふれあいの拠点となる居場所づくりのバックアップと防災活動に取り組んだ。具体的には、支え合い推進会議定例会で、「道目木サロン」及び「ふれあい交流サロン（サロン千歳）」の開催状況を確認し、それぞれのサロンが抱える課題を共有しながら意見交換した。参加者が増えない、コロナ禍においては開催が難しいなど課題があがったが、活動の定着に向けて今後もサポートしていく。また、自治会防災活動に関する調査や、大滝地区をモデルに災害時自力で避難することが困難な方々の避難支援について話し合いをおこない、他の地域への水平的な展開のきっかけになるよう、広報活動を通じての情報発信をおこなった。

上川沿地区では、支え合い活動について広く住民の共感と協力が得られるよう、市社会福祉協議会主催の「さわやかサポーター養成研修会」を1回、町内会単位での勉強会を随時開催し、支え合い活動の情報発信に取り組んだ。その結果、生活支援団体（1団体）の立ち上げや、地域ごとの話し合いにつながり、地域課題解決に向けた取り組みの一歩進めることができた。

ただし、生活支援コーディネーターが関わりを持っているのは一部の地域であり、各地域のリーダー層との顔の見える関係づくりが課題となっている。令和4年度は、関わりの少ない地域のリーダー層や町内会とのつながりづくりに励み、地域の現状把握や、活動周知に取り組む。

(1)　地域支え合い推進会議の開催状況

開催地区	開催日	内　容	委　員	協力者
十二所地区	4月27日	今年度の取り組みについて　　道目木サロンおよびふれあい交流サロン（サロン千歳）の開催報告	9人	7人
	6月23日（臨時）	災害に備えた町内活動の情報収集について	5人	2人
	9月28日	自治会防災活動に関する調査結果の共有と情報発信の方法を検討　道目木サロンおよびふれあい交流サロン（サロン千歳）の開催報告	8人	7人

開催地区	開催日	内　容	委　員	協力者
	3月（書面による開催）	今年度の「防災活動」と「サロン活動」の振り返りと来年度の方向性についての意見聴取	10人	
上川沿地区	5月24日	上川沿地区支え合い推進会議報告会経過報告、今年度の取り組みについての話し合い	9人	7人
	8月25日	支え合い勉強会及び普及啓発の取り組みの意見交換（町内会勉強会開催計画について）	6人	8人
	12月14日	活動経過の共有、今年度の取り組みの振り返り、来年度の方向性確認	5人	7人

(2)　勉強会等の開催状況

開催地区	会議名	概　要	参加者
十二所地区	令和3年度大滝防災活動	会　場：大滝温泉自治会館 開催日：　11月4日 目的： ①防災を通じた支え合い活動（平常時からの見守り等を含む避難支援活動）を推進することを目的に、災害時避難行動要支援者を把握する。 ②安否確認等が容易になるようなネットワーク構築を目的に「ふれあいカード」登録者を担当者間で共有する。	10人
上川沿地区	さわやかサポーター養成研修会（市社会福祉協議会の活動に協力）	会　場：上川沿公民館 開催日：8月6日	12人
	支え合い出張講座in萩野台2区	会　場：県営萩の台住宅　集会場 開催日：6月19日 内　容：支え合いの必要性と支え合いの取り組みのヒント、情報交換　他	5人
	支え合い出張講座in萩野台1区	会場：萩野台1区町内会館 開催日：9月28日 内容：支え合いの必要性と支え合いの取り組みのヒント、助け合い体験ゲーム、支え合い推進会議について	13人
	支え合い出張講座in舟場	会場：舟場会館 開催日：11月20日 内容：支え合いの必要性と支え合いの取り組みのヒント、グループワーク（地域の困りごとと解決策）、支え合い推進会議について	18人

（３）その他

生活支援体制整備事業連絡会	7回
大館市支え合い推進会議（第1層協議体）への出席	5回 （うち1回書面による開催）
地区町内会長連絡協議会に参加　　（上川沿地区）	1回
地区民生児童委員会議への出席　　（十二所地区）	2回
地区福祉員会議への出席　　（十二所地区）	3回
各地区サロン、集いの場などへの訪問参加	毎月
担当圏域学校の地域活動行事などへの参加協力	3回
十二所地区支え合い通信の発行	毎月
上川沿地区支え合い通信の発行	1回
自主防災組織連絡協議会への参加	1回
地域ケア会議に参加	3回
地域ケア個別会議に参加	6回
生活支援団体立ち上げ支援	1件

4. 大館市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施業務

令和２年度より「大館市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施業務」を大館市より受託し運営している。令和３年度は、委託内容も追加となった。なお、この事業は、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に関する基本方針に則り、医療専門職が通いの場に関与を深めることに加え、後期高齢者に対する個別的な支援を行うことにより、後期高齢者の健康の増進及び健康寿命の延伸に資することを目的としている。

高齢者に対する個別的支援として、低栄養予防、健康状態不明者の状態把握、重症化予防（高血圧症）を実施した。低栄養予防への取組では、５人の参加者へ３～６か月を１クールとした管理栄養士による計３回の訪問による面談を実施し、目標体重達成率 100％の結果であった。健康状態不明者対象となった 25 名への訪問では、全員の健康状態が把握でき、その中で１名が地域包括支援センターにつなぐことができた。重症化予防（高血圧症）では５人に訪問し、全員の状況確認ができた。受診勧奨により２名が受診につながっている。

通いの場等への積極的な関与として、地域のサロンへの訪問を行った。コロナ禍でもありサロン中止などもあり年 66 回訪問予定が 54 回となってしまった。訪問では延べ 693 名の参加があった。今年は健診会場にてフレイルチェック測定会を２日間実施し、46 名のフレイルリスクの把握ができた。令和４年度は、重症化予防（糖尿病性腎症)、ハイリスク者へのアウトリーチ支援も追加となり、継続で受託となる。地域後期高齢者の健康の増進及び健康寿命の延伸に資することができるよう励みたい。

5. 研修会への参加状況

（包括関係）

月	研修名	場　所	参加者
7	キャラバンメイト養成研修	トレイクかたがみ	市村めぐみ
	自立支援型地域ケア会議実践研修（司会者編）	オンライン研修	苗代沢輝栄
8	地域包括支援センター職員基礎研修	ウェブ形式	〃
	介護支援専門員専門研修（専門Ⅱ/更新） 〃	オンライン研修 〃	〃 市村めぐみ
9	ケアラー支援・普及啓発セミナー	〃	全員
	高齢者虐待防止セミナー（居宅編）	〃	苗代沢輝栄
10	認知症地域支援推進員研修	〃	虻川江美子
	自立支援型地域ケア会議実践研修（専門職編）	〃	苗代沢輝栄
11	高次脳機能障がい及びその関連障害に対する支援普及事業支援担当職員研修会	〃	〃
12	県地域包括・在宅介護支援センター協議会　基礎研修会	〃	全員
	東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会	〃	全員
1	高齢者虐待対応のプロセス	ライブ配信	苗代沢輝栄
2	身寄りがない方への支援を考える	オンライン研修	〃
3	後見人等への意思決定支援研修	〃	〃
	地域包括ケア担当職員セミナー（認知症施策の動向、地域共生社会の実現に向けた権利擁護支援の推進）	ウェブ配信	全員
	全国地域包括・在宅介護支援センター研修会（地域包括支援センターの災害対応と BCP について考えよう）	オンデマンド研修およびライブ研修	全員

（生活支援コーディネーター関係）

月	研修名	場　所	参加者
9 月	いきがい・助け合いサミット in 神奈川	オンライン研修	市村めぐみ
10，11	令和 3 年度生活支援コーディネーター活動支援研修会	オンライン研修	市村めぐみ

6.　品質目標活動報告

【部門目標】　災害対応に備え、圏域内の避難所について把握する。

【設定理由】

災害時における当センターの動きとしては、対象世帯（「独居」・「高齢者のみ」・「高齢者と障害・虚弱」）の安否確認のほか、避難所の紹介や、避難所への出動が想定される。

住民の避難先は、指定避難所（一次避難所、二次避難所）、福祉避難所のほか、指定された避難所まで距離が遠くなる地域については各地域の集会場等を一時的な避難所として活用する場合が考えられるが、圏域内の避難所について受け入れ体制、各避難所機能の違い等の詳細を把握できていない。

近年、自然災害が増加してきており、平常時から避難所について情報収集し、適切に災害対応することができるよう、センターとして備えておく。

【活動状況】

月	取組事項	内　容
4 月	目標設定・年間計画表作成	センター業務の課題抽出から取組み内容検討
5 月	圏域内の社会資源把握	市が指定している避難所について情報収集
6 月	避難所調査のための調査票作成 （避難所用・福祉避難所用）	災害時の避難所受け入れ態勢等、現状把握を行うために調査項目を検討し、2 種類の調査票を作成 １．避難所用 収容人数、受け入れ対象者、避難所としての設備や備蓄品、その他 ２．福祉避難所用 避難所用と同じ項目、福祉避難所開設時に窓口となる担当者名、避難された方に提供できる支援内容
7 月	調査票の完成 各避難所へ調査票配布	「災害対応に関する調査」と題し対象施設に対し、郵送調査実施。 （一次避難所：2 ヶ所、二次避難所：11 ヶ所、福祉避難所：4 ヶ所）
8 月～1 月	避難所リストの作成 一次避難所の実地調査実施	調査票の取りまとめ 一次避難所となる各公民館の実地調査を行う 9 月：十二所公民館、11 月：上川沿公民館。 備蓄品や保管場所の確認、写真撮影、避難所開設した場合の施設見取り図等。
2 月	避難所リストの完成	緊急時に検索しやすいよう見直し、工夫を重ねる 表紙・索引・ページ設定・字体の統一等
3 月	まとめ	「避難所リスト」を包括業務書式として制定。令和 4 年 4 月から運用することを決定。毎年 9 月（防災の日を目安）に情報更新する。

【まとめ】

災害対応に備えるため、避難所に関係する資料や避難所調査および実地調査により収集した避難所情報をリスト化し「避難所リスト」を完成させた。

これにより、包括職員が速やかに圏域内の避難所についての受け入れ体制、各避難所機能の違い等の詳細を把握できるようになった。

「避難所リスト」には施設名、電話番号、収容人数、対象者、備蓄品、その他の情報を表記し、これらの情報に加え、福祉避難所には、開設時に窓口となる担当者、避難された方に提供できる支援内容を表記した。

今後も、毎年９月（防災の日を目安）に情報更新を定め、平常時から取組みを続けることで、災害時に速やかに活用できるよう備える。

令和３年度　大館市ケアハウスほうおう　事業報告

■ 大館市ケアハウスほうおう（一般型 30 床、特定施設入居者生活介護事業 20 床）

令和３年度は入居待機者が確保できないまま、申込があったら即入居といった対応となり、一定期間空室が発生する状況となっていた。施設紹介サイトへの掲載や、事業団 LINE での PR などの入居者確保対策を行ったが、なかなか結果に結びつかない状況であった。ただ、令和４年２月以降は、法人内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を通じて立て続けに申込みがあり、年度末においての入居待機者は５名となっている。今後も安定的な入居者確保に努める。

特定サービスにおいては、特定利用候補者を常時 1～2 名確保することにより、契約解除者が発生した場合も速やかに待機者と契約するよう努めた。その結果、毎月末の特定利用者は満床の 20 床で運営することができた。

新型コロナウイルス感染症による、外出・面会制限や行事の中止・縮小などの対応は継続している。令和３年４月当初は行事等を中止せざるを得なかったが、感染の収束が見えない状況の中で、車から降りないドライブ、また行事における職員による余興の実施など、感染防止対策を講じながら入居者が楽しめる機会の提供に努めた。

コロナ禍でのこうした対応がスタンダードになることも見据え、この状況下でも提供できる内容を工夫して対応する。

■　配食サービス事業

令和３年度は事業開始から５年目となり、地域に根ざしたサービスとなっている。事業開始時より毎日配食を利用していた利用者が施設へ入所し、あるいは長期入院となった等の理由にて、令和２年度の年間 3,063 件の利用件数から、令和３年度は 2,556 件と利用件数が減少となっている。

初めての試みとして、成章小学校の児童からのお手紙を弁当に同封して配布した。その後、配食利用者より返事が子供達にも届けられ心温まる交流を持つことができている。今後も関係機関との連携・協働を行い、地域交流を図る。

令和４年３月 31 日

大館市ケアハウスほうおう
施設長　鎌田　俊

1. 部門別報告

【介護部門】

令和３年度は、ケース記録の入力方法が職員ごとに異なることから、記録に時間を要し、また申し送り時や内容確認の際に情報が探しづらいとの声がったことから、「ケース記録の見直し及び統一化」という目標を設定し取り組んだ。ＯＣＲ＊の活用、ケース記録の項目の見直し、重要情報の明確化をすることで作業の簡略化、入力時間の短縮化を図ることができた。それによって生活状況が見えにくくなったとの声もあがったが、再度検討し改善を図っている。

＊OCR…印刷された文字や手書きの文字などをカメラやスキャナといった光学的な手段でデータとして取り込み、それを解読（文字認識）することによって一度印刷されてしまった文字をパソコンなどのコンピューターが利用できる文字（テキスト）データに変換する技術

【看護部門、相談部門】

令和３年度は､｢家族への情報提供の在り方を見直す｣を目標に設定し取り組んだ。コロナ禍において、家族との面会制限や外出制限が長期化しており、入居者の精神的ストレスは大きい。身体機能にも悪影響が心配される。

また、家族においても入居者の様子を確認できる機会が少なくなり、不安を抱えている。入居者及び家族の不安が少しでも軽減できるよう「入居者様状況報告書」を作成し、定期的に状況報告をすることを目標に取り組んだ。しかし、様式は完成したものの運用には至っていない。今後は定期的に（年２回）は状況報告ができるように、引き続き取り組んでいきたい。

【栄養部門】　　「フレイル予防の理解を広める」

健康チェックにて年２回握力と下肢周囲長測定を実施した。フレイル予防がなぜ必要かを理解していただくため、今年度は測定者に 1) 握力の基準値はいくらか、2) 測定値より本人へ診断結果を A.現状維持の生活を続けましょう。B.口腔体操やウォーキングで筋力アップにつとめましょう　のどちらかで示し、現在の状況を理解できるようにした用紙を作成し配布している。継続的に測定しているデータから、一般入居者の数値は下がってきている。

2.　品質目標活動報告

【部門目標】　「ケース記録の入力の見直し及び統一化」

【設定理由】

対応した内容、出来事などを詳細に入力することにより、入力時、ケースを確認する時（重要な点が分かりにくく）時間を要する。その上、申し送りや朝礼などでも要点をうまく抽出できず長時間になることもある。

ケース記録の入力を見直すことで、ケース入力・ケース確認・申し送りなどの時間を短縮し業務効率を高めたい。それによって利用者への直接的な援助に余裕をもってあたりたい。

【活動状況】

月	項　目	内　　容
4	目標の設定	介護部門会議で品質目標の課題の確認
5	①　現状把握 ②　必要な情報確認	①　について介護員からの意見・要望・困っている事をアンケートで確認。また、①②の内容を５月の内部研修のテーマとした。

月	項　目	内　　容
6	問題点の分析	アンケート結果をもとに、問題点を分析した。 ケース記録の内容、重要度、項目、記録の重複などの問題点が確認された。
7	ケース記録の内容と重要度について確認	実績入力も活用しつつ、ケース記録の内容を見直した。 具体的には日誌に載せるかケース記録のみで良いか記録の内容を確認した。(特別変わりないようであればケースのみで可)
8 9	排泄実績の活用	実績登録を活用し、ケース入力の内容を簡略化。手順書を元に、実際に入力していく。1 カ月ほど様子をみて改善点あれば見直すこととした。
10	ケース項目の見直し	現在使われていない項目は下の方に、よく使うものは上の方に変更した。また、身体機能、認知機能、悩み・不安など新たな項目も追加した。
11	食事実績、水分実績の活用	手順書を元に、実際に入力していく。実績入力をすることで、水分摂取量のケース記録を不要とした。
12	排泄チェック表の見直しと活用	これまで排尿・排便チェック表（1 名につき 1 枚、1 日 24 時間を 1 か月分）を使用していたが、排泄実績を入力した結果、排便の把握のみで良くなったため、排便チェック表とし全員分を 1 枚にまとめた。
1 2	まとめ、歯止め	これまでの活動により、ケース記録入力の時間は短縮することができた。しかし、入居者の生活状況が分かりにくいとの意見あり、遅番が生活状況のケースを添えることで様子をみることとした。

【まとめ、歯止め】

アンケート結果から見えた問題点を、介護部門会議で１つずつ解決することができた。それ以外にも、用紙への記録、ケース記録、実績登録と重複して記録していた部分も整理することができた。介護員への聞き取りでは、慣れてからはやりやすい、入力時間も短縮されたと意見が聞かれている。

しかし、今回の取り組みの結果、入居者の生活状況が分かりにくいとの意見も聞かれた。その為、遅番が生活状況のケースを添えることで様子を見ることとした。

ケース記録の入力について、改善を要する意見が聞かれた場合は、介護部門会議で検討していくことで今後の歯止めとしたい。

3. 事業実施状況

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
4	15・30 28	買物代行 昼食バイキング	7 8 9・23	エレベーター点検 ガス設備保守点検 浄化槽保守点検
5	14・27 26	買物代行 昼食バイキング	7・21 17 20	浄化槽保守点検 エレベーター点検 自動ドア点検

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
			25	衛生害虫駆除
6	8 10・24 21・22 28・29	新緑ドライブ 買物代行 コロナワクチン予防接種１回目 コロナワクチン予防接種１回目	4・18 14 24 24	浄化槽保守点検 エレベーター点検 122 号室及び共用部女子トイレ暖房便座取替修繕 衛生害虫駆除
7	12 13・14 19・20 14 15・29 28 29	入居者健康診断 コロナワクチン予防接種２回目 コロナワクチン予防接種２回目 お楽しみ昼食会 買物代行 入居者胸部レントゲン 葛西避難訓練（夜間）	5 6・20 9・23 12 15・16 19 21 26	苦情第三者委員報告会 浄化槽法定点検 浄化槽保守点検 厨房設備保守点検 職員健康診断 ナースコール交換修理 床ワックス清掃 エレベーター診断
8	11・27	買物代行	6・20 9 26 27 30 31	浄化槽保守点検 207 号室窓修繕 エレベーター点検 自動ドア点検 207 号室電気温水器交換修理 厨房害虫駆除
9	9・24 15	買物代行 敬老お食事会	2・3・5 3・17 6 20～12/10 21	館内ガラス清掃 浄化槽保守点検 消防設備点検 施設外壁、屋根、居室窓交換工事 エレベーター点検
10	14・28 28	買物代行 衆議院議員不在者投票	6 8・22 16 20 21 26	エレベーター点検 浄化槽保守点検 受水槽点検 エレベーター法定点検 簡易専水法令検査 浄化槽接続工事
11	8・15 11 12・25 24 24 24	インフルエンザ予防接種 地震・火災避難訓練(休日想定) 買物代行 みんなの勉強会（認知症） 入居者相談会 昼食バイキング	5 9 9 10 10・19 12 16 21 24 24 25	浄化槽保守点検 特殊浴槽修理 エレベーター点検 建物・防火扉点検 浄化槽保守点検 非道ドア点検 貯水槽清掃 簡易専用水道検査 衛生害虫駆除 業務用洗濯機修理 浴槽水質検査
12	9・22 24	買物代行 クリスマス会	1 9	216 号室洗面所蛇口修理 エレベーター点検

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
	28	仕事納め式	9 24 28	苦情第三者委員報告会 浄化槽保守点検 仕事納め式
1	4 13・27	仕事始め式 買物代行	8 20 21 26	コンビオーブン部品交換修理 エレベーター点検 浄化槽保守点検 夜勤者健診
2	1 10・25 14・15 21・22 22	開設記念食事会 買物代行 コロナワクチン 3 回目 防犯訓練	1 4・18 8 11 15 17 21 22 22	126 号室洗面台排水詰まり修繕 浄化槽保守点検 指定管理者実績評価面談 食堂ブラインド修理 ソーシャルワーク実習 エレベーターメンテナンス 自動ドア点検 防犯訓練 衛生害虫駆除
3	10・24	買物代行	3 4 4・18 8 9 16 16 22・23 30 30	浴槽循環設備洗浄消毒 消防設備点検 浄化槽保守点検 エレベーターメンテナンス 温水器メンテナンス ろ過機点検 共用トイレ男性便座交換修理 居室温水器メンテナンス 厨房排気設備清掃 スプリンクラー点検

4. 研修実施状況

(1) 内部研修　※法人合同研修含む

月	日	内部研修(法人含)	参加者
5	28	記録の仕方	介護員、看護師
6	3	実践報告会	全職員
7	13	心の健康計画に関する研修	管理職、監督職
	29	身体拘束	介護員、看護師
7～12	7/12、8/11、9/8、10/13、11/22	管理職スーパービジョン	施設長補佐
	7/14、8/3、9/1、10/6	指導職スーパービジョン	事務主任
	7/30、8/27、9/24、10/29	指導職スーパービジョン	副主任看護師
	8/6、10/11、11/5	監督職スーパービジョン	管理栄養士
	8/23、9/27、10/25、11/22	指導職スーパービジョン	副主任 計画作成担当者
	9/28、10/26、11/30、12/28	指導職スーパービジョン	副主任介護員
8	3	法人水害訓練	経営職、管理職
11	17	メンタルヘルス不調時の対応	管理職
	26	ストレスコーピング	介護員、看護師
12	24	認知症	介護員、看護師
1	20・21	救命救急（講師：消防署員）	全職種
	27	身体拘束研修	介護員、看護師
2	24	事故防止	介護員

5. ほうおう　利用者状況報告

集計日　　令和4年3月31日現在

(1) 年齢別・性別の状況（単位：人）

年齢 性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	1	0	1	1	3	3	1	0	10
女	0	0	0	2	7	6	17	3	0	35
計	0	1	0	3	8	9	20	4	0	45
平均男（85.9）　女（88.8）　全体（88.2）　最高（98）　最低（67）										

(2) 在所期間の状況（単位：人）

期間 性別	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 5年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上	計
男	3	1	1	4	1	0	0	0	10
女	1	11	6	10	4	3	0	0	35
計	64	12	7	14	5	3	0	0	45
平均　男(4年8月)、女(6年6月)、最高　男(14年0月)、女(18年11月)、全体　(6年1月)									

(3) 入退所の状況（単位：人）

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規入所者	男	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
退所者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
月末在所者数	男	7	7	7	7	7	8	8	8	9	9	9	10	
	女	36	36	36	36	35	36	36	36	36	36	36	35	
	計	43	43	43	43	42	44	44	44	45	45	45	45	

（退所者の平均在所期間：３年７ヶ月）

(4) 入所待機者の状況（単位：人）

	大館市内	他市町村・県外	合　計
令和３年３月末	0（内夫婦０組）	0（内夫婦０組）	0（内夫婦０組）
令和３年３月末	3（内夫婦０組）	2（内夫婦０組）	5（内夫婦０組）
増　　減	3	2	5

(5) 介護度別の状況（単位：人）

要介護度	総合 事業	支援１	支援２	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５	計
令和３年３月末	4	1	8	8	4	2	4	1	32
令和４年３月末	3	0	9	6	4	5	5	3	35
増　　減	-1	-1	1	-2	0	3	1	2	

(6) 特定入居者介護度別の状況（単位：人）

要介護度	支援１	支援２	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５	計
４月	0	2	8	3	2	4	1	20
５月	0	2	6	3	3	5	1	20
６月	0	2	6	3	3	5	1	20
７月	0	2	4	4	3	5	2	20
８月	0	2	3	5	4	4	2	20
９月	0	2	3	5	4	4	2	20

要介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
10 月	0	2	4	4	4	4	2	20
11 月	0	2	4	4	4	4	2	20
12 月	0	2	4	4	4	4	2	20
1 月	0	2	4	4	4	4	2	20
2 月	0	2	5	2	4	4	3	20
3 月	0	2	5	2	3	5	3	20
計	0	24	56	43	42	52	23	240
割　合	0.0%	10.0%	23.3%	17.9%	17.5%	21.7%	9.6%	

(7) 在所延べ人数（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
一　般	690	713	690	713	699	689	744	719	752	734	644	672	8,459
特　定	577	592	598	586	591	571	607	570	581	589	532	592	6,986
全　体	1,267	1,305	1,288	1,299	1,290	1,260	1,351	1,289	1,333	1,323	1,176	1,264	15,445

(8) 配食サービス延べ利用人数（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
令和 2 年度	276	299	275	248	217	244	250	227	248	261	245	273	3,063
令和 3 年度	264	266	198	209	204	207	202	195	208	178	171	253	2,555
増　減	-12	-33	-77	-39	-13	-37	-48	-32	-40	-83	-74	-20	-508

令和３年度　大館市立老人福祉センター　事業報告

３年間の新たな指定管理が始まった令和３年度は、女性浴室のタイル補修で８月に２日間臨時休館し、年間 339 日の開館実績となった。

年間利用者数は 44,106 人で目標(45,400 人)及び前年(47,109 人)を下回った。特に冬期間(1 月～３月)の悪天候(大雪)の影響が大きく、この期間は前年比 1,324 人減となった。併せて隣接町の入浴施設が１０月末に営業再開したことも減少の要因と捉えている。

また、今冬の豪雪により１月下旬に客間側軒先が大きく破損したのをはじめ、玄関前や保管庫の屋根(軒)が被害を受け、さらに雪解け後(３月末)に大広間(山側)やポンプ室の屋根の破損、女性浴室側垣根の倒木も確認され、これまでになく大きな被害となった。今回の被害に至ったのは、近年にない大雪であったにも関わらず建物の老朽化を見越した対応(雪下ろし)の遅れが大きな要因だった。屋根の破損により施設の外観(印象)が変わり、そのことも来館者数に少なからず影響が生じたと思う。

このほかに、２月には水道管の漏水があり、屋根全体の錆や浴室内窓枠等の腐食もあり施設全体の老朽化が顕著にみられている。補修も含めた維持管理については、市担当課への情報提供をこまめに行いながら、引き続き連携して対応していきたい。

これまで冬期間は近隣施設との関係で温泉使用量のこまめな調整が必要だったが、市による給湯配管設備の補修により今冬はそのような対応もほとんどなく運営することができた。給水給湯量に制限があるため、利用者が集中する時間帯にはシャワーの勢いが弱くなることや浴槽内の温度が下がることがあり、それが苦情に繋がることもあった。

新型コロナウイルス感染予防対策は、令和２年度に引き続き利用者にはマスク着用と入館時のアルコール消毒をお願いし、館内は手が触れる箇所の消毒と換気を通年で実施した。新型コロナウイルスの他、レジオネラ菌の感染症発症者は一人も出なかったが、他地域では感染死亡の情報が時折耳にすることから、専門業者による消毒の他に自前でも入浴用品をこまめに消毒し、清潔な浴室環境の維持に重点的に取り組んだ。

今後も引き続き緊張感をもちながら、安全に利用できる環境整備を優先して事業運営に努めていく。

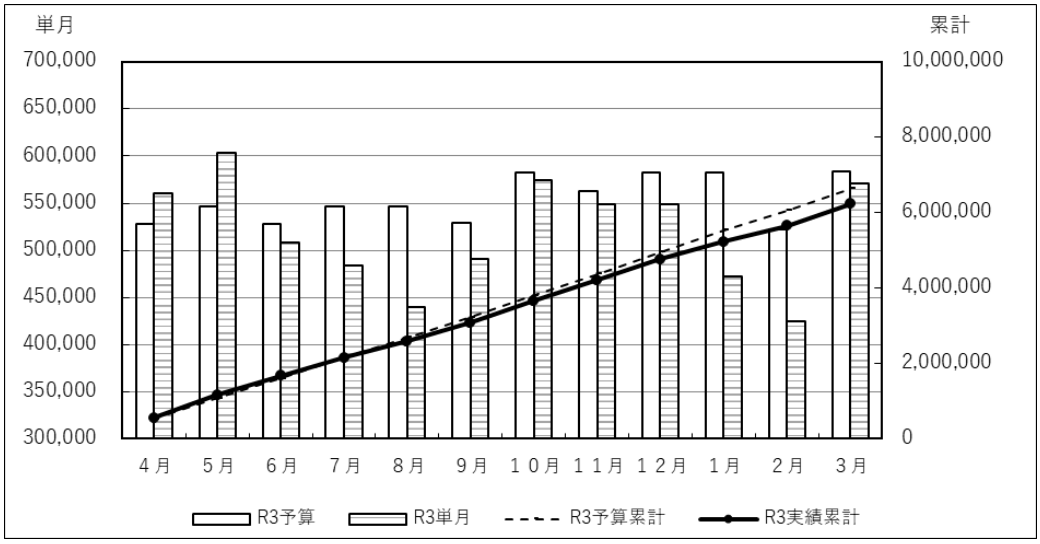
令和４年３月 31 日

大館市立老人福祉センター
所長　花田　繁盛

1. 月別・利用区分別利用実績表

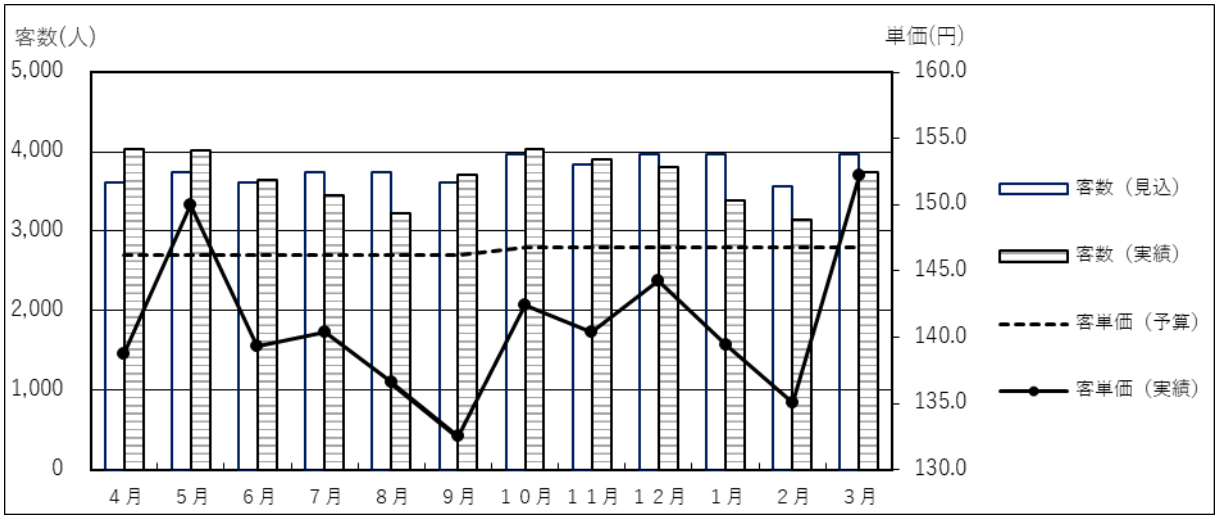
R３			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	前差
入浴	60才～		3,643	3,657	3,347	3,188	2,973	3,258	3,677	3,565	3,369	3,039	2,830	3,396	39,942	42,041	-2099
	一般		229	206	127	124	147	154	187	165	232	238	190	186	2,185	2,925	-740
	子供		1	2	0	0	0	2	5	1	10	4	5	1	31	28	3
	計		3,873	3,865	3,474	3,312	3,120	3,414	3,869	3,731	3,611	3,281	3,025	3,583	42,158	44994	-2,836
休憩	個室	60～	74	80	58	48	38	49	76	103	101	58	51	61	797	957	-160
		一般	1	2	5	1	4	1	1	1	8	5	0	4	33	24	9
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	75	82	63	49	42	50	77	104	109	63	51	65	830	981	-151
	大広間	60～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身障等無料			92	75	109	86	58	242	92	74	83	42	65	100	1,118	1,134	-16
合　計			4,040	4,022	3,646	3,447	3,220	3,706	4,038	3,909	3,803	3,386	3,141	3,748	44,106	47,109	-3,003
来館者数	6～9時		625	605	579	598	563	598	654	620	537	393	374	546	6,692	7,228	-536
	9～12時		760	773	674	581	517	639	735	769	838	725	729	848	8,588	9,006	-418
	12～15		996	964	796	681	698	906	981	1004	946	879	800	889	10,540	11,117	-577
	15～18		1,132	1,143	1,108	1,101	1,014	1,146	1,186	1,023	1,005	991	842	987	12,678	13,165	-487
	18～20		527	537	489	486	428	417	482	493	477	398	396	478	5,608	6,593	-985
回数券使用数	60才～		2,539	2,541	2,324	2,310	2,147	2,367	2,541	2,440	2,302	2,198	1,975	2,323	28,007	28,230	-223
	一般		67	72	50	50	53	51	46	59	75	61	52	71	707	740	-33
回数券販売数	1500		21	22	11	13	14	16	20	15	10	14	16	13	185	205	-20
	3000		98	108	97	98	82	95	103	96	96	84	71	109	1,137	1,139	-2
	2300		4	10	4	3	6	4	4	6	6	5	5	7	64	69	-5

2.　売上高



R3	予算	収入実績	予算対比	予算累計	実績累計	累計対比
4 月	527,782	560,390	106.1%	527,82	560,390	106.2%
5 月	546,496	603,480	110.4%	1,074,278	1,163,870	108.3%
6 月	527,635	507,760	96.2%	1,601,913	1,671,630	104.4%
7 月	546,268	484,020	88.6%	2,148,181	2,155,650	100.3%
8 月	546,268	439,720	80.5%	2,694,449	2,595,370	96.3%
9 月	529,098	491,000	92.8%	3,223,547	3,086,370	95.7%
1 0 月	582,796	574,980	98.6%	3,806,343	3,661,350	96.2%
1 1 月	562,684	548,960	97.5%	4,369,027	4,210,310	96.4%
1 2 月	582,536	548,960	94.2%	4,951,563	4,759,270	96.1%
1 月	582,535	472,080	81.0%	5,534,098	5,231,350	94.5%
2 月	522,461	424,440	81.2%	6,056,559	5,655,790	93.4%
3 月	583,383	570,430	97.7%	6,639,942	6,226,220	93.8%

3.利用者数、客単価（前年比較）



R3	客数 見込	客数 実績	客数 対比	客単価 予算	客単価 実績	客単価 対比	一日当り 平均客数	営業 日数	備　　考
4 月	3,610	4,040	111.9%	146.2	138.7	94.9%	144.3	28	
5 月	3,738	4,022	107.6%	146.2	150.0	102.6%	138.7	29	
6 月	3,609	3,646	101.0%	146.2	139.3	95.3%	130.2	28	
7 月	3,738	3,447	92.2%	146.2	140.4	96.0%	118.9	29	
8 月	3,738	3,220	86.1%	146.2	136.6	93.4%	119.3	27	8/24-25 臨時休館
9 月	3,619	3,706	102.4%	146.2	132.5	90.6%	132.4	28	9/20 敬老の日無料
1 0 月	3,970	4,038	101.7%	146.8	142.4	97.0%	139.2	29	
1 1 月	3,833	3,909	102.0%	146.8	140.4	95.6%	139.6	28	11/26 りんご湯
1 2 月	3,970	3,803	95.8%	146.8	144.3	98.3%	131.1	29	12/31 短縮営業（11 時間
1 月	3,970	3,386	85.3%	146.8	139.4	95.0%	116.8	29	1/1 短縮営業（12 時間）
2 月	3,559	3,141	88.3%	146.8	135.1	92.0%	120.8	26	
3 月	3,974	3,748	94.3%	146.8	152.2	103.7%	129.2	29	
計	45,328	44,106	97.3%	146.5	141.2	96.4%	130.1	339	

令和３年度　大館市ふれあいセンターやまびこ　事業報告

ふれあいセンターやまびこは、保育事業、放課後児童クラブ事業をはじめ、幼児から高齢者までの各年代層が気持ちよく利用できるよう、生きがいづくり並びに健康づくりの場として関係各施設や地域と連携を図りながら、利用者の側に立ったサービス提供に努めてきた。

令和２年度に新型コロナウイルス感染症のまん延により大幅に減少した来館者数は、徐々に回復傾向にある。団体利用の再開も見られている。特に、秋田県の施設が一般来館者の制限をかけていた時期（県感染警戒レベル３以上）については、エリア内でやまびこだけが利用可能な施設であった時期もあり、感染防止対策を講じながら安心して利用できるよう努めた。

令和元年度に閉じた成章保育ルーム森のおうちは、そのスペースを一般来館者が自由に利用できるよう「森のおへや」として整備した。令和３年７月から一般解放した後は、口コミ等の効果による来館者が見られるようになっている。

成章にこにこクラブは、エリア内施設を利用する高齢者との交流事業を行う計画としていたが、感染対策上とのことで中止せざるをえない場合が多かった。

令和４年３月３１日

大館市ふれあいセンターやまびこ
管理者　伊藤　政利

1.　令和２年度　ふれあいセンター利用状況調べ

令和４年３月３１日現在（各月の下段は前年度実績）

月	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	子ども広場ふれ森公園	見学	計	主な利用団体及び事業
4	597	141	39	132	379	0	1,288	フラワーアレンジメント、十二所グランドゴルフ、にこにこクラブ開講式
	577	8	3	26	77	0	691	
5	529	313	48	261	851	0	2,002	十二所グランドゴルフ、フラワーアレンジメント、十二所保育園、城南保育園、二井田保育所、八幡平なかよしセンター、大館幼稚園
	500	5	2	5	266	0	788	
6	618	167	25	149	819	10	1,788	十二所グランドゴルフ、尾去沢小学校、矢立保育所、沼館保育所、成章小学校、ひまわり園
	569	91	12	102	507	5	1,286	
7	598	117	11	89	504	11	1,320	十二所グランドゴルフ、フラワーアレンジメント
	619	128	45	122	569	1	1,484	

月	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	子ども広場ふれ森公園	見学	計	主な利用団体及び事業
8	638	241	57	205	623	4	1,768	十二所グランドゴルフ、フラワーアレンジメント、田代保育園
	592	156	39	135	584	0	1,506	
9	593	254	60	201	1,029	14	2,151	十二所グラウンドゴルフ、東館保育所、十二所保育園、釈迦内保育園、城南保育園、城南保育分園
	512	180	78	142	808	0	1,720	
10	643	224	32	177	992	5	2,073	十二所グラウンドゴルフ、フラワーアレンジメント、桂城小学校、八幡こども園、有浦保育園、成章小学校、大館カトリックこども園、川口小学校、八幡平なかよしセンター、十二所保育園、花岡保育所、城南保育園、大館乳児保育園、ラフターヨガクラブ、宮の杜神明こども園、田代保育園
	563	138	64	115	881	0	1,761	
11	577	263	50	219	323	1	1,433	十二所グラウンドゴルフ、フラワーアレンジメント、城南子育て相談室
	520	154	27	117	405	2	1,225	
12	582	119	13	109	6	0	829	フラワーアレンジメント
	550	73	11	70	0	0	704	
1	517	145	3	109	0	0	774	
	531	87	12	82	0	2	714	
2	538	83	1	87	0	0	709	フラワーアレンジメント
	449	158	23	134	0	5	769	
3	671	143	6	145	0	0	965	
	658	171	42	171	161	10	1,213	
計	7,101	2,067	339	1,738	5,492	79	16,145	
前年度	6,640	1,349	358	1,221	4,258	25	13,851	
前年比	461	718	-19	517	1,234	54	2,294	

令和２年度　にこにこクラブ　事業報告

月	行　事　内　容	参　加　人　数
4	７（水）にこにこクラブ開講式 １４（水）新入生を迎える会 ２１（水）避難訓練	43 人、保護者等 18 人 32 人 35 人
5	１０（月）じゃがいも植え １９（水）防犯訓練	27 人 25 人
6	９（水）おやつ作り(ホットケーキ) １６（水）避難訓練 ２１（月）～２５（金）七夕の飾り作り ２３（水）誕生日会（４・５・６月生まれの人）	30 人 26 人 34 人
7	７（水）七夕集会 ２７（火）じゃがいも掘り ２８（水）避難訓練 ２９（木）カレー会食	33 人 35 人 24 人 42 人
8	４（水）にこクラ夏まつり １１（水）どろ団子作り １８（水）総合避難訓練 ２３（月）スイカ割り	45 人 33 人 30 人 35 人
9	８（水）おやつ作り（クレープ） ２２（水）誕生日会（７・８・９月生まれ） ２７（月）バス遠足（道の駅たかのす、北欧の杜公園） ２８（火）さつまいも掘り	35 人 31 人 35 人 27 人
10	４（月）～　ハロウィーンパーティー衣装作り １３（水）避難訓練 ２１（木）野外活動・焼いも会 ２７（水）ハロウィーンパーティー	 34 人 33 人 38 人
11	１０（水）おやつ作り（スイートポテト餃子） ２４（水）誕生日会（１０・１１・１２月生まれ）	36 人 30 人
12	１（水）～クリスマスリース作り ８（水）避難訓練 ２４（金）クリスマス会 ２８（火）にこにこクラブ忘年会	 33 人 39 人 21 人
1	４（火）令和４年度にこクラ会員募集開始 ６（木）きりたんぽ会食 １１（火）昔遊びの会 ２６（水）避難訓練	 35 人 29 人 31 人
2	３（木）節分・豆まき ９（水）避難訓練（暴風雪） １６（水）誕生日会（１・２・３月生まれ）	27 人 32 人 2 人
3	２（水）ひなまつり会・お茶会 １７（木）避難訓練（地震） ２８（月）にこにこクラブ閉講式・お別れ会食	34 人 30 人 39 人

令和３年度　大館市へき地保育所　事業報告

へき地保育所は、地域の幼児教育施設として、住民から信頼され、地域に根ざした保育所としての役割を果たしてきており、保護者や地域住民の協力を得て、保育事業を行ってきた。

しかし、児童数の減少傾向に歯止めがかからず、児童数が 10 名を下回る保育所も出てきている。令和３年度は、二井田保育所並びに真中保育所において、保護者と大館市と指定管理者であるへき地保育所との間で意見交換を重ねてきた。今後は、二井田保育所と真中保育所との統合を具体的に検討していく予定であるが、保護者から寄せられた要望についても真摯に検討する。

令和３年度は、新型コロナウイルス感染の確認が散発的にみられた。幸いにもクラスター発生には至らなかったが、情報共有の速度と正確性を今後も保ちながら適切に対応していく。

保育サービスの質の評価に関しては、これまで高齢者事業所で取り組んでいた品質管理の仕組みを保育所にも本格的に導入することとなった。令和３年度においては、各所長と品質管理の考え方を共有しながら、適宜法人本部における品質管理の仕組みの伝達に努めた。今後、保育サービスの質の改善を図るため、要請訪問及び指導監査等の外部監査のほか、内部監査も導入する。

令和４年３月 31 日

大館市へき地保育所
管理者　伊藤　政利

1.　令和３年度保育所児童数

令和４年３月 31 日現在
単位：名

No.	保　育　所　名	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
1	二井田保育所	1	2	4	5	12
2	真中保育所	1	4	1	5	11
3	下川沿保育所	2	8	8	4	22
4	沼館保育所	3	3	7	4	17
5	花岡保育所	0	3	5	3	11
6	矢立保育所	3	3	2	1	9
7	長木保育所	5	9	17	11	42
	合　　計	15	32	44	33	124

令和３年度　年間事業報告（二井田保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	3	土	入園式	園児１名　両親　祖父母　兄(5 歳児)　職員５名
	15	木	新入児歓迎会	園児 12 名　新入園児を歓迎して、5 歳児から手作りプレゼント
	28	水	子どもの日祝会	園児 12 名
5	9	日	保護者草取り奉仕作業	保護者 12 名　職員４名
	19	水	さつま芋苗植え	園児 12 名　職員５名
	27	木	保育参観	園児 12 名　保護者 10 名 釈迦内小学校・花田一雅校長先生の講話 『響学について』
	28	金	南小学区保小連絡協議会	1 年生授業参観、協議、情報交換 所長・5 歳児担任
6	*6*	*日*	*地区運動会*	*中止*
	11	金	石田ローズガーデン見学	園児 12 名　職員５名
	17	木	スポーツフェステバル	園児 12 名　保護者 17 名　職員５名 （園児だけが競技を行い、保護者競技は行わない）
	18	金	内科健診	園児 12 名　梅内小児科クリニック医師　看護師
	24	木	交通安全教室	園児 12 名　市の交通安全指導隊員５名 市民課職員１名
	29	火	交流保育(真中→二井田)	真中保育所園児５歳児５名　職員２名　来所
	30	水	歯科検診	園児 13 名　たかはし歯科医師　歯科衛生士
7	6	火	個人面談（～９日）	保護者 10 名
	7	水	七夕集会	園児 13 名　職員５名
	26	月	保育所関係者評価委員会	評価委員５名　真中保育所所長
	27	月	子どもハローワーク ～8／12 夏休み保育士体験	南小学６年生　延べ８名
8	3	火	保育体験・施設見学	南小学校教諭２名　来所
	4	水	川遊び(真中保育所と合同)	4・5 歳児９名　職員３名引率
	5	木	歯磨き指導訪問・南中学生	南中学生７名　南小学生２名　教諭２名　来所
	18	水	交流保育（二井田→真中）	5 歳児５名　職員２名　真中保育所へ
9	3	金	大型バス市内観光	園児 11 名　職員５名 (二井田工業団地～南小学校～警察署～消防署～桂城・有浦小学校～大館駅～ニプロハチ公ドーム)
	5	日	保護者草取り奉仕作業	保護者 15 名　職員４名
	17	金	総合避難訓練	園児 12 名
	18	*土*	*敬老会*	*中止*
	24	金	ぶどう狩り	園児 12 名　職員５名
	30	木	子ども課訪問支援	子ども課課長補佐　幼保小連携アドバイザー

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
10	7	木	親子レクリエーション	園児 12 名　保護者 13 名　職員 5 名 （親子歩き遠足・達子森）
	13	水	学習発表会予行練習	5 歳児 5 名　職員 3 名引率
	19	火	5 歳児 わくわく探検 part Ⅰ	5 歳児 5 名　　職員 3 名引率 （栗盛図書館～イオン）
	27	水	焼き芋会	園児 12 名　職員 5 名
	29	金	ハロウィンお楽しみ会	園児 12 名　職員 5 名
11	2	火	南小学校触れ合い交流会	1・2 年生と交流　5 歳児 5 名　職員 3 名引率
	7	日	地区公民館文化祭	作品展示・ビデオ出演(歌・お遊戯)
	26	金	みんなの発表会	園児 12 名　保護者 36 名
	30	火	防犯教室	園児 12 名　警察署員 3 名　南駐在所 1 名
12	14	火	交流保育(真中→二井田)	5 歳児 5 名　職員 2 名　来所
	20	月	クリスマス会	園児 10 名　少年自然の家職員 2 名　職員 5 名
	24	金	北教育事務所要請訪問	北教育事務所指導主事　　子ども課課長補佐 教育研究所幼保小連携アドバイザー　評価委員 4 名
1	27	木	南小学校体験入学	入学予定児 3 名保護者 3 名 5 歳児担任　小学校へ
2	3	木	豆まき	園児 11 名　少年自然の家職員 1 名　職員 5 名
	10	木	令和 4 年度健康診断 入園説明会・新入児面接	園児 12 名・新入予定児 1 名　保護者 1 名　職員
	16	水	保育参観(木育)	園児 12 名　保護者 11 名　職員 5 名 女性センター・河田先生　障害学習課・小林さん
	17	木	総合避難訓練(通報)	園児 12 名　職員 5 名
3	2	水	ヤマハ音楽鑑賞教室	園児 11 名　職員 5 名　新入予定児 1 名 保護者 1 名 ヤマハ音楽教室より 3 名
	3	木	ひな祭り会	園児 12 名　職員 5 名
	4	金	南小学校区保小連絡協議会	午前・真中保育所保育参観 連携事業確認 情報交換　所長　5 歳児担任
	7	月	5 歳児 わくわく探検 partⅡ	5 歳児 5 名　職員 3 名引率 (市営バスでいとくショッピングセンターまで)
	9	水	卒園記念写真撮影	園児 12 名　職員 5 名
	10	木	引き渡し訓練	園児 12 名　保護者 10 名　職員
	11	金	お別れ会　パン会食	園児 12 名　職員 5 名
	19	土	卒園式・修了式	園児 12 名　保護者 16 名　職員 5 名
	19	土	5 歳児親子お楽しみ会	園児 12 名　保護者 11 名　職員 5 名
	24	木	保育所関係者評価委員会	評価委員 5 名　真中保育所所長

毎月の行事　・交通安全指導　・防災避難消火訓練　・防犯訓練　・身体測定　・誕生会

１．研修実施状況（二井田保育所）

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
4	・研究主題の設定 ・研究の仮説、方法、計画の作成と職員間での共通理解	・水の事故（プール）について ・自園のマニュアルづくり	・幼保推進課行政説明
5	〈研究協議〉 ・子どもの興味や関心を生かした環境づくりの実践と振り返り	・保護者支援講話『響学』について　（講師・花田一雅氏） ・個別指導計画について （書き方と職員間の共通理解）	・幼保小連携推進会議 ・園長等運営管理協議会
6	↓	・消火器、発電器の使い方 （使い方の確認と模擬演習）	・幼保小担任研修会 ・特別支援コーディネーター研修会Ⅰ ・ファシリテーター研修会（初級編） ・教頭・主任等研修会Ⅰ
7	↓	・アレルギー対応について (エピペンの使い方・模擬実習)	・保育実践研修会 ・オーダーメイド研修 ・かがやきミーティング
8	・園内公開保育(2・3歳児) ・ねらいに基づいた「SOAP」の視点での保育の振り返り	・安全対策について （ポイズンリムーバーの使い方の確認と模擬演習）	・ブロック別研修会 ・ミニ公開保育(西館)
9	・園内公開保育(3歳児) ・ねらいに基づいた「SOAP」の視点での保育の振り返り	・発達支援について （ADHD について）	・主任研修会
10	・園内公開保育(5歳児) ・ねらいに基づいた「SOAP」の視点での保育の振り返り	・ファシリテーター演習	・特別支援コーディネーター研修会Ⅱ ・教頭・主任等研修会Ⅱ
11	・園内公開保育(4歳児) ・ねらいに基づいた「SOAP」の視点での保育の振り返り	・保育実践(研修報告も兼ねて) （手遊び・触れ合い遊び等）	・5歳児研修会
12	・園内公開保育(5歳児) ・ねらいに基づいた「SOAP」の視点での保育の振り返り ・遊びの中で就学までに必要な経験を考える	・安全対策マニュアルの読み合わせ①	・オーダーメイド研修
1	・今年度の研究のまとめ （振り返り・成果と課題）	・安全対策マニュアルの読み合わせ②	・教職員実践研究発表会 ・園長等研修会
2	・目指す子どもの姿と保育を語り合う	・全体的な計画について見直す	
3	・今年度の研究について実態把握と課題の明確化 ・次年度に目指す姿の姿と研究の方向性	・子育て支援について （研修会の報告を兼ねて）	・スキルアップ研修会

令和３年度　年間事業報告（真中保育所）

月	日	曜	行　事　名	参　加　者（人数）・内容等
4	4	土	・入所式 ・保護者会総会	・入所児１名・進級児８名・保護者 12 名 ・来賓なし
	12	月	・新入児歓迎会	・園児９名
5	7	金	・子どもの日祝う会	・園児９名
	8	土	・早朝作業活動(草刈り、草取り)	・保護者 12 名　・職員１名
	19	水	・ひまわりの種植え ・畑の野菜植え	・園児９名　・祖父母９名手伝い ・地域の方　・公民館の方
	21	金	・保育参観日 （親子交通安全教室）	・保護者９名 ・交通安全指導隊５名　・市民課職員
	28	金	・南小学区保小連絡協議会	・１年生授業参観、協議、情報交換 教諭５名 真中職員２名 二井田職員２名
6	8	火	・内科健診	・園児９名 佐々木内科医院医師 看護師
	10	木	・歯科健診	・園児９名 戸田歯科医院医師 歯科衛生士
	26	土	・ミニ運動会	・園児９名 保護者 19 名
			・真中地区運動会	*中止*
	29	火	・交流保育(二井田保育所)	・5 歳児５名 職員２名 二井田保育所へ
7			*・ボランティア早朝草刈り*	*中止*
	6	火	・個人面談（～9）	・全保護者（情報交換）
	7	火	・七夕集会	・園児９名
	14	水	・保護者役員会	・保護者役員４名
	26	火	･第三者評価委員会(2 園合同) （二井田保育所にて）	・南小学校校長　・所長(真・二) ・地域連携委員(真・二) ・公民館長(真・二)
	30	金	・南中生歯みがき指導交流	・園児９名・南中生５名・南小生２名 ・南中養護教諭・南中校長・南小校長
8	2	月	・南小教諭保育体験、見学	・南小学校教諭３名
	4	水	・川遊び交流（少年自然の家）	・真中保 5 歳児５名 引率職員３名 ・二井田保 4.5 歳児９名 引率職員３名
	6	金	・北教育事務所指導監査	・北教育事務所主査、幼保指導員
	18	水	・交流保育(真中保育所にて)	・二井田保育所５歳児５名 職員２名来園
	25	水	・子ども課説明会(顔合わせ)	・子ども課課長・課長補佐・係長 ・保護者会会長・管理者・地域連携委員 ・所長
	28	土	・保護者草刈り奉仕(～9/4)	・保護者 15 名
	30	月	・じゃがいも掘り	・園児９名
			・いきいき学級交流会	*中止*
9	*3*	*金*	*・親子レクレーション*	*県内レベル４宣言により中止*
	8	水	・りんご狩り	・園児９名・職員５名
	28	火	・子ども課保護者説明会	・保護者８名・所長 ・子ども課課長・課長補佐・係長

月	日	曜	行　　事　　名	参　加　者（人数）・内容等
				・管理者・地域連携委員・地域サポーター
			・地区敬老会	*中止*
10			・さつまいも掘り	・園児９名・職員５名
	8		・北教育事務所要請訪問	・
	13		・南小学校発表会 予行練習見学	・年長児５名・引率職員２名
			・焼き芋会	
	20		・秋の遠足	・園児８名　職員５名 大館少年自然の家(5 歳児登山)
	26		・ひまわりの種贈呈式	・5 歳児５名　引率保護者５名 南小学校１、６年生と一緒に 大森山動物園へ
	28		・就学児健診	・5 歳児　南小学校へ
	29		・ハロウィン練り歩き	・全園児仮装をして公民館、お寺へ
11	2	火	・南小交流会	・5 歳児５名　職員１名
	25	木	・お遊戯会予行練習	・保護者、地域、関係者５名
	27	土	・お遊戯会	・保護者兄弟 27 名
	30		・総合避難訓練	・園児９名　煙体験　消火体験
12	14		・交流保育	・5 歳児５名 職員２名 二井田保育所へ
	23		・クリスマス会	・園児 11 名　少年自然の家職員１名
1	14		・お寺見学	・4,5 歳児６名 職員３名
	27		・南小学校体験入学	・５歳児５名 保護者５名 職員１名
2	3		・節分豆まき	・園児のみで行う
	9		*・交流保育*	*中止 市内でのコロナ感染者急増* *感染予防対策の為*
	8		・新入児,園児健康診断	・在園児 11 名 新入児２名　佐々木内科
	16		*・親子木育教室交流*	*中止 市内でのコロナ感染者急増の為* *感染予防対策の為*
3	1	火	・卒園･修了記念写真撮影	・園児のみ
	2	*水*	*・ヤマハ音楽教室*	*中止　市内でのコロナ感染者急増の為* *感染予防対策の為*
	3	木	・ひな祭り会	・園児のみ
	15	火	・お別れ会	・園児のみ
	19	土	・卒園式	・卒園児保護者 10 名
	31	木	・修了式	・園児のみ

毎月の行事：・交通安全指導・避難訓練・防犯訓練・身体測定・誕生会（誕生児のいる月）

１．研修実施状況（真中保育所）

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
4	・研究内容の検討・進め方	・水の事故について	
5	・研究内容の決定、年間研修	・演習汚物・吐物処理の仕方	・幼保小連携推進会議

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
	計画の提示		（主任） ・園長研（所長）
6	・保育参観(4・5 歳児) ・保育参観まとめ		・幼保小担任研修（5 歳児担任） ・中堅研Ⅰ
7	・気になる子への対応	・AED 手順・プール遊び確認	・中堅研Ⅱ ・ブロック別勉強会（全員） ・就学時・小学校等地区別合同研修会
8	・小学校教諭保育参観 ・園内保育参観(2.3 歳児)	・研修報告(中堅研Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	・防火管理者研修（主任） ・中堅研Ⅲ
9	・保育参観まとめ ・園内保育参観(4.5 歳児) ・保育参観まとめ	・「10 の姿について」 ・ポイズンリムーバー	・中堅研Ⅳ ・ミニ公開保育
10	・北教育事務所要請訪問	・研修報告（中堅研Ⅳ・Ⅴ） ・「10 の姿について」	・ミニ公開保育 ・中堅研Ⅴ
11		・環境構成について	・教頭・主任研修Ⅱ（主任） ・保護者支援セミナー ・中堅研Ⅵ
12	・子ども課要請指導	・ひきつけ・熱性けいれん対応	・中堅研Ⅶ ・ミニ公開保育
1	・園内研修まとめ		
2	・次年度に向けて		

令和３年度　年間事業報告（下川沿保育所）

月	日	曜	行　事　名	参　加　者　（人数）　・　内　容　等
4	3	土	入園式	新入園児６名と保護者 12 名のみで実施　来賓なし
	28	水	子どもの日祝う会	園児２２名　各クラスで弁当会食
5	7	金	じゃがいも植え	園児２１名　地域の方６名手伝い
	18	火	交通安全教室	大館警察署より来所
	19	水	保育参観日・講演会・ＰＴＡ総会	園児２２名、保護者２２名　比内支援学校藤田久美子教育専門監による子育て講演会
	24	月	個人面談開始	午睡時・降所時間等、保護者の希望の時間に合わせて実施
	25	火	さつまいもの苗植え	園児２２名　地域の方５名手伝い
	26～27	水～木	下中生職場体験	下中生２名保育体験
6			*下川沿地区親睦運動会*	*中止*
	4	金	親子バス遠足	園児２０名、保護者２０名　鹿角市アメニティパーク・コモッセへ
	8	火	保育所関係者評価委員会①	関係者評価委員７名参加　概要説明他
	16	水	沼館保育所との交流	沼館保育所より園児１１名、保育士２名　来所
	17	木	祖父母草取り交流会	祖父母１４名、公民館ロイヤル学級等６名 草取り・交流
	24	木	歯科検診	園児２１名受診　ひがしだい歯科クリニック
	25	金	児童健康診断	園児２２名受診　梅内小児科クリニック
	29	火	川口小４年生との交流会①	園児２１名　小学生１２名、教師１名 小学生の企画でお面作り
7	6	火	プール開き	
	7	水	七夕集会	園児２２名　園児のみ　歌・紙芝居
	16	金	川口小４年生との交流会②	園児２１名　小学生１２名、教師２名 小学生が出し物を披露
	16	金	PTA 作業奉仕	保護者１３名　園庭草取り
	19	月	ブルーベリー狩り	4・5 歳児１２名　マイクロバスでえつりファームへ ブルーベリー収穫体験
	26～29	月～木	子どもハローワーク	下中生４名　夏祭りの準備手伝い　水遊び手伝い
	30	金	夏祭り	園児２２名　保護者５６名 盆踊り・おみこし・年長児出店
8	2	月	じゃがいも掘り	園児２２名　地域の方４名手伝い
	4	水	立ち入り調査	北教育事務所（関副主幹・日景幼保指導員）監査
	4～5	水～木	年長児川口小プールへ	５歳児４名川口小プールで水遊び
	4～5	水～木	子どもハローワーク	川口小より１名　プール遊び手伝い
	6	金	二ツ山公園水遊び	園児２２名マイクロバスで二ツ山公園へ

月	日	曜	行　事　名	参　加　者　（人数）　・　内　容　等
	19	木	北教育事務所要請訪問	北教育事務所庄司指導主事保育指導、鎌田保育アドバイザー、大丸連携アドバイザー来所
	25	*水*	*総合避難訓練*	*中止*
			親子歯みがき講習会	*中止*
9	22	木	川口小学習発表会予行見学	5歳児４名　低学年の発表のみ見学
10	1	金	ミニ運動会	川口小グラウンド　平日の保育中に園児のみで実施 保護者２４名見学
	4	月	さつまいも掘り	園児２１名　地域の方４名手伝い
	5	火	ぶどう狩り	園児２２名　公民館長宅でぶどうの収穫体験
	8	金	なかよし遠足	園児２２名　バスで樹海体育館・公園広場へ
			地区文化祭	*中止*
	19	*火*	*沼館保育所との交流*	*中止*
	22	金	防犯パレード	パレードは中止 玄関前で写真撮影のみ行い、警察官の話を聞く
	27	水	防犯訓練	大館警察署より３名来所
	29	金	ハロウィンごっこ	園児２２名　保育所内のみで実施
11	2	火	焼き芋会	園児２１名　地域の方３名手伝い
	9	火	年長児川口小の授業見学	5歳児４名　川口小学校１・２年生の授業を見学
	15	月	子ども課訪問指導	鎌田保育アドバイザー、大丸連携アドバイザー来所
	16	火	下川沿地区合同研修会	下川沿中学校を会場に保・小・中・公の地域全体で講演を聞く
12	4	土	発表会	園児２２名　保護者は各家庭２名までとし、２回に分け時間をずらして発表する
	7	火	発表会ごっこ	祖父母を対象に発表会と同じ内容で披露する
	23	木	クリスマス会	園児１８名　少年自然の家にサンタ依頼、ゲーム等
1	11	火	個人面談始まる	５歳児のみ　保護者の都合に合わせた時間で実施
	13	木	下中生除雪ボランティア①	野球部・引率教師の５名と地域の方１名が軒下の雪を除排雪
	19	水	保育参観日 親子ふれあい体操	園児２１名　保護者２１名 ふれあい体操講師：菅原恵子先生
	22	土	下中生除雪ボランティア②	野球部・バレー部・引率教師の１６名と地域の方２名が軒下の雪を除排雪
	25	火	年長児カレー作り	５歳児９名野菜切り
	26	水	保育所関係者評価委員会	コロナ禍の為、小中校長先生のみに評価してもらう
	29	土	PTA除雪奉仕	保護者１４名　玄関前や軒下の除排雪
2	2	水	豆まき	園児２２名　少年自然の家に依頼
	4	金	Ｒ４年度入所時健康診断・説明会	園児２６名受診　新入園児４名と保護者来所 梅内小児科クリニック

月	日	曜	行　事　名	参　加　者　（人数）　・　内　容　等
	10	木	総合避難訓練(通報訓練)	園児２２名
3	2	水	川口小１年生とリモート交流会	５歳児４名　コロナ禍で中止になっていたにこにこ交流会をリモートで実施
	3	木	ひな祭り会　お茶会	園児２２名　園児のみでお茶会　５歳児が小さい組にお点前披露　クラスごとにバイキングで会食
	8	火	卒園記念写真撮影	園児２２名
	10	木	おわかれ会	園児２２名　プレゼント交換等 サンドイッチ会食
	18	金	卒園式・修了式	卒園児４名・卒園児保護者８名と在園児参加で実施 来賓 川口小学校長 卒園式終了後、在園児のみで修了式を行う

・毎月の行事：交通指導・身体測定・避難訓練・防災訓練・誕生会

１．研修実施状況（下川沿保育所）

月	研　究	テーマ別研修	外部研修
4	・子どもの実態把握、共通理解 ・研究の進め方		・園長等運営管理協議会 ・保育所新規採用者研修Ⅰ
5	・子どもの姿の読み取り	・比内支援学校教育専門監による講演会（保護者向け）	・教頭・主任等研修会Ⅰ ・幼保小連携推進会議 ・保育所新規採用者研修Ⅱ（中止） ・保育補助研修会
6	・子どもの変容の読み取り		・幼保小担任研修 ・特別支援コーディネーター研修会Ⅰ ・保育所新規採用者研修Ⅲ
7	・カンファレンス（４歳児） ・比内支援学校教育専門監による訪問指導	・気になる子どもへの対応方法について（教育専門監指導）	・就学前・小学校地区別合同研修会 ・保育所新規採用者研修Ⅳ
8	・カンファレンス（３歳児） ・北教育事務所幼保推進班による指導	・SOAP の視点での研究協議の進め方	
9	・カンファレンス（５歳児）	・感染症対策マニュアル読み合わせ	・保育所新規採用者研修Ⅴ
10	・カンファレンス（２歳児）	・虐待防止マニュアル読み合わせ	・特別支援コーディネーター研修会Ⅱ
11	・カンファレンス（４歳児）	・自己肯定感を育てる援助とふわふわ言葉について（教育専	・教頭・主任等研修会Ⅱ ・保育所新規採用者研修Ⅵ

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
		門監指導）	
12	・アンケート実施	・今年度の振りかえり（課題）	・保育所新規採用者研修Ⅶ
1	・研究内容のまとめ	・虐待対応マニュアル読み合わせ	
2	・研究の成果と課題について	・個別の教育・保育支援計画について	
3	・来年度の研究の持ち方とテーマ設定	・各指導計画の書き方について	

令和３年度　年間事業報告（沼館保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	2	金	進級式	園児 14 名
	3	土	入園式	園児 3 名 保護者 6 名
	22	木	こどもの日祝い会	園児 16 名
	28	水	こいのぼり見学	園児 15 名　（旧）松峰児童館
5	13	木	じゃがいも植え	園児 15 名
	14	金	交通安全教室	園児 13 名 大館市交通指導隊員 6 名　市民生活課職員 1 名
	21	金	保育参観日	園児 15 名/講師：畠山佳子（子ども課巡回支援専門員）
	25	火	交通安全教室（ネイガー）	園児 11 名(4.5 歳児)　花岡保育所交流
	26	水	さつまいいも苗植え(地域交流)	園児 16 名　地域の方々11 名/苗植え、触れ合い遊び、プレゼント渡し
6	2～4		個人面談(５歳児①)	降所時間を活用
	10	木	親子遠足(福祉エリア)	園児 16 名 保護者(弟妹)23 名
	15	火	歯科検診	園児 16 名　歯科医師 1 名　衛生士 2 名
	16	水	下川沿保育所交流	園児 11 名(4.5 歳児)/下川沿保育所にて
	21	月	健康診断	園児 16 名　医師 1 名　看護師 1 名
	22	火	城南保育園分園交流①	園児 4 名（５歳児）/城南保育園分園にて
7	7	水	七夕集会	園児 16 名　＊前日「笹飾り」を沼館温泉に届ける
	13	火	城南保育園分園交流②	園児 3 名（５歳児）/二ツ山総合公園にて
	28	水	じゃがいも掘り	園児 14 名
8	4	水	県教育庁北教育事務所立ち入り調査	副主幹：関由香子、幼保指導員：日景恭子
	5	木	こどもハローワーク	中学２年生２名、中学３年生１名
	6	金	夏祭り会	園児 16 名　子どもハローワーク４名
	10	火	城南保育園分園交流③	園児 3 名（５歳児）/雨天の為少年自然の家にて室内遊び
	30	月	大館市訪問指導	子ども課２名
9	7	火	リンゴ狩り	園児 16 名/玉光園にて
	14	火	歩き遠足	園児 16 名/中道児童公園・あきた犬の里
	21	火	秋の自然観察	園児 11 名(4.5 歳児)/少年自然の家（わんパーク）
10	2	土	運動会	園児 16 名
	8	金	さつまいも掘り	園児 17 名（地域交流は中止）
	14～25		個人面談(2.3.4 歳児)	降所時間を活用
	15	金	北教育事務所要請訪問	園児 15 名 北教育事務所 1 名　子ども課 2 名
	22	金	焼きいも会	園児 17 名

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	25	月	総合防災避難訓練	園児 15 名
	26	火	わくわく散歩	園児 17 名/市役所展望室、北部エリア
	31	木	ハロウィン	園児 17 名
11	2	火	防犯教室	園児 16 名　大館警察署員 4 名
	11	木	保育参観日	園児 17 名　保護者 17 名/椎茸狩り、リース作り
	19	金	桂城小 1 年・城南保育園分園交流	園児 4 名/城南保育園分園にて
12	4	土	発表会	園児 16 名　保護者 1 家族 2 名
	10	金	祖父母交流会	園児 15 名　祖父母 1 家族 2 名/伝承遊び、遊戯発表
	24	金	クリスマス会(サンドイッチ会食)	園児 17 名（わんパーク大館クリスマス出前講座活用）
1	11～14		個人面談(5 歳児②)	降所時間を活用
	27	木	保育所関係者評価委員会	園児 16 名　評価委員 2 名（都合により 1 名欠席）
2	1	火	節分（豆まき）	園児 16 名（わんパーク大館節分出前講座活用）
	9	水	令和 4 年度　健康診断・新入園児面接・入所説明会	園児 14 名　新入園児 3 名(2 歳児)　保護者 3 名
	18	金	お別れ会(パスタ会食)	園児 17 名/お別れ会終了後、各保育室にて会食
	22	火	引き渡し訓練	午後 3 時半に緊急メールを一斉送信（豪雪想定）
3	3	木	ひな祭り会(お寿司会食)	園児 16 名/お茶会中止、各保育室にて会食(のり巻)
	11	金	修了式	園児 16 名
	12	土	卒園式	園児 4 名　保護者 8 名

・毎月の行事：交通指導・身体測定・避難訓練・防災訓練・誕生会

1．研修実施状況（沼館保育所）

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
4	・研究内容の検討・進め方・子どもの現状把握	・安全管理マニュアル読み合わせ	・幼保推進課行政説明
5	・3 歳児/写真カンファレンス	・所内、屋外、散歩ルートの危険ヵ所 ・水の事故に対するロールプレイング	・幼保小連携推進会議 ・園長等運営管理協議会
6	・エピソードメモより子どもの姿を探る	・非常災害対策マニュアル読み合わせ ・AED 取り扱い確認	・幼保小担任研修会 ・特別支援教育新任コーディネーター研修会Ⅰ ・ファシリテーター研修会Ⅰ ・5 年経験者研修Ⅰ ・教頭、主任等研修会Ⅰ
7	・所内ミニミニ公開保育	・非常災害対策マニュアル読み	・保育実践研修会

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
		合わせを受けて実践 ・アレルギー（食物、アトピー）緊急時対応机上訓練	・田代保育園オーダーメイド研修会（子どもの事故防止） ・ブロック別研修会
8	・ビデオ、写真カンファレンス（５歳児）	・子どもの事故防止について ・熱中症時の対応について	・ブロック別研修会 ・城南保育園分園ミニ公開
9	・ビデオ、写真カンファレンス（２歳児）	・事故防止策（ヒヤリハット事例より）	・キャリアアップ研修(乳児保育) ・５年経験者研修Ⅱ
10	※北教育事務所要請訪問 ・ビデオ、写真カンファレンス（４歳児）	・「10 の姿」「SOAP の視点」について	・５年経験者研修Ⅲ ・キャリアアップ研修（保護者支援、子育て支援） ・特別支援教育新任コーディネーター研修会Ⅱ ・主任等研修会
11			・教頭、主任等研修会Ⅱ ・５歳児研修会 ・秋大付属主催研修会
12			・城南保育園分園オーダーメイド研修会(子どもの発達と遊び) ・マネジメント研修
1		・保育所自己評価（保育士アンケート）について	・大館市教職員研究実践発表会 ・園長等研修会
2	・研究のまとめ(成果・課題・指導計画の見直し)	・嘔吐処理についてロールプレイング	・令和３年度学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会
3	・来年度の研究内容の検討	・虐待対応マニュアル読み合わせ	

令和３年度　年間事業報告（花岡保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	6	月	入園式	新入児１名、新入児保護者２組、来賓なし
	7	水	進級式	園児 10 名
	21	水	絵本読み聞かせ	園児 10 名、おはなしのもり３名、スペシャル
5	7	金	畑作り、野菜の苗植え（地域交流）	園児 10 名、地域の方６名　野菜の苗植え・種まき
	12	水	花岡小学校運動会参加	5 歳児３名大玉転がし、玉入れの競技に参加
	13	木	矢立保育所交流	5 歳児２名、山菜採り、普段の遊び
	20	木	保育参観日	保護者 10 名、子育て講座・大丸ふさ子幼保小アドバイザー、親子触れ合い遊び
	25	火	交通安全教室	ネイガー他５名、沼館保育所園児 11 名
6	1～8	火～火	保護者草取り奉仕１回目	園舎の周囲、保護者の都合のつく時間で
	8	火	ローズガーデン見学	園児 10 名、ハチくんバス
	16	水	歯科検診	園児 10 名、こう歯科医院
			神山荘シルバーオリンピック参加	*中止*
	18	金	親子バス遠足	園児 10 名、保護者 15 名、鹿角市総合運動公園
	23	水	花岡小七夕交流①	4・5 歳児６名花岡小学校の生活の授業に参加
	23	水	健康診断	園児 10 名、石田内科医院
7	6	火	花岡小七夕交流	園児 10 名、花小１・２年生 13 名、七夕飾り制作
	14	水	ドローン飛行見学（地域交流）	園児 10 名、矢立保育所園児４名、(株)秋田工営の方 10 名、ドローン飛行の見学、コウライザー
	21	水	夏祭り	園児 10 名、保護者 15 名、出店ごっこ
8	3	火	川遊び(矢立保育所交流)	園児５名、矢立保育所園児４名、少年自然の家４名
	5～6	木～金	花岡小ハローワーク	花岡小３～４名ずつ、職場体験、普段の遊び
9	6～13	月～月	保護者草取り奉仕２回目	園舎の周囲、保護者の都合のつく時間で
	17	金	矢立保育所交流	園児 11 名、矢立保育所園児３名、普段の遊び
			敬老会	*中止*
	21	金	栗拾い	園児 11 名、地域の方の栗の木
10	4～12	月～火	個人面談	保護者の都合に合わせて全員行う
	1	金	ミニ運動会	園児 11 名、保護者 18 名、縮小して行う

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	14	木	秋の遠足	園児 11 名、職員 4 名、福祉エリア
	15	金	花岡小職場体験	花岡小 5 年生 3 名
	21	木	さつま芋掘り	園児 11 名、地域の方 6 名
	26	火	焼き芋会 （矢立保育所交流）	園児 10 名､職員 5 名　矢立保育所にて焼き芋体験他、富士タクシー
	27	水	ゴミ拾い（地域交流）	園児 11 名（株）秋田工営の方 10 名、チャレンジデーゴミ拾い
11	7	日	花岡地区産業祭	園児 10 名、お遊戯披露
	16	火	矢立保育所交流	5 歳児 3 名、矢立保育所にて普段の遊びカレー会食
	19	金	総合防犯訓練	大館警察署 2 名
12	4	土	お遊戯会	園児 11 名、家族の方 32 名
	10	金	祖父母交流会	園児 11 名、祖父母 10 名、お遊戯披露、触れ合い遊び
	23	木	クリスマス会	園児 11 名、少年自然の家職員サンタ、ゲーム他、サンドイッチ会食
1	19	水	保小新春カルタ大会	4・5 歳児 8 名、花岡小 1 年生 7 名、鳥潟会館にて花岡カルタ会
	22	金	保育参観日	園児 11 名、保護者 11 名、触れ合い遊び
	28	金	豆まき	園児 11 名、職員が鬼
2	*2*	*水*	*花岡小学校 1 日体験入学*	*中止*
	16	水	健康診断	新入園児 1 名、園児 10 名、石田内科医院、新入児面談・説明会
3	2	木	ひなまつり　お茶会	園児 11 名、年長児がお茶をたて、みんなでいただく
	9	水	おわかれ会	園児 11 名、お寿司会食
	18	金	卒園式	園児 11 名、卒園児保護者 5 名、来賓なし、縮小で行う

毎月の行事　　・身体測定・交通指導・避難訓練・防犯訓練・誕生会(9 月から毎月カレー会食)・絵本読み聞かせ（矢立保育所との交流の月もある）

1．研修実施状況（花岡保育所）

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
4	・子どもの姿から課題・目標の設定・研究方法の共通理解	・水の事故対応演習	
5	・子ども主体の行事の在り方 年長児の実践について	・熊に出遭ったときの対応	・幼保小連携推進会議 ・園長等研修会 ・教頭・主任等研修会 1
6	・子どもの見取りと共通理解 エピソード記録　協議	・食物アレルギーについて ・AED 演習	・幼保小担任研修 ・新任特別支援教育コーディネ

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
			ーター研修Ⅱ ・5 年経験者研修 1
7	・日誌の書き方について	・水の事故演習、水遊びの危険について	・保育実践研修
8	・子どもの見取りと共通理解 KJ 法（SOAP）	・ハチに刺された時の対応	・ブロック別勉強会
9	・子どもの見取りと共通理解 写真　KJ 法（SOAP）	・ハチ刺され訓練実習	・専門研修(C 講座) ・5 年経験者研修Ⅱ
10	・要請訪問にむけて ・指導案の作成	・ASD（自閉症スペクトラム）について	・主任等研修会 ・新任特別支援教育コーディネーター研修 1 ・専門研修（保小連携） ・5 年経験者研修Ⅲ
11	・要請訪問、協議	・不審者マニュアル読合わせ ・幼保連携（気付きの実践）	・教頭・主任等研修会Ⅱ ・5 歳児研修
12	・要録作成 ・5 歳児の育ちについて	・ひきつけ、熱性けいれんの演習	
1	・クラスの困り感の共通理解 保育者の関わりの協議	・地震マニュアルの読合わせ	
2		・AED の演習	
3	・今年度の振り返り ・成果と課題・次年度の研究の方向性	・避難用おんぶひもの使い方	

令和３年度　年間事業報告（矢立保育所）

・毎月の行事　避難消火訓練、防犯訓練、交通指導、身体測定、お誕生会

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	月	入所式・進級式	園児１０名　　保護者１３名
	21	水	花岡保育所との交流① （絵本読み聞かせ）	5 歳児１名　花岡保育所へ
5	13	木	花岡保育所との交流②	5 歳児２名　　来所
	16	日	地区祭典（神社参拝）	参加なし
	20	木	さつまいも、じゃがいも種芋植え、野菜苗植え	園児１０名
	21	金	保育参観（親子交通安全教室） ２７日まで個人面談	園児１０名　保護者９名　交通安全協会矢立支部２名
	24	月	第１回保育所関係者評価委員会	関係者評価委員３名
	25	火	矢立小学校避難訓練に参加	園児１０名
6	3	木	健康診断	園児１０名　梅内小児科クリニック２名
	4	金	親子バス遠足	園児１０名　保護者１３名
	15	火	矢立小学校との交流① （1.2 年生来所）	園児１０名　小学 1.2 年生１１名　教頭他２名
	24	木	矢立小学校との交流② 矢立小学校登山参加	5 歳児１名　保護者１名
	29	火	矢立小学校との交流③	園児９名　　矢立小学校へ 1.2 年生 12 名
	30	水	探検ごっこパート１	園児１０名　　電車で大館駅へ
7	1	木	歯科検診	園児１０名　神成歯科医院２名
	6	火	矢立小学校との交流④ （七夕集会・３年生保育士体験）	園児１０名　小学３年生２名　教頭他２名
	14	水	花岡保育所との交流③ (ドローン見学)	4.5 歳児３名
	15	木	プール開き	園児１０名
	17	土	夕涼み会	矢立公民館と共催（縮小して開催）園児１０名 園児家族２７名　未就園家族６名　来賓３名
	21	水	ブルーベリー狩り	園児１０名　地域の日景さん宅(無料)
	27	火	じゃがいも掘り	園児１０名
	28	水	花岡保育所との交流④ (交流遠足)	消防署見学→二ツ山総合公園（大型バス） 8/18 に延期

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
8	3	火	花岡保育所との交流⑤ (川遊び体験)	4.5 歳児３名　（たしろ保育園バス利用）
	4	水	矢立小学校との交流⑤ （学校プール体験）	8/4　8/5　8/20　計３回
	10	火	流しそうめん会	園児９名
	18	水	花岡保育所との交流 (交流遠足)	消防署見学→二ツ山総合公園（大型バス） 中止
9			矢立地区敬老会参加	中止
	9	木	夏野菜収穫感謝祭	園児９名
	17	金	花岡保育所との交流⑥	4.5 歳児３名
	18	土	運動会	9 月は中止
	21	火	矢立小学校学習発表会 予行見学	園児９名
	27	月	子ども課所内支援	子ども課鎌田課長補佐　大丸保育アドバイザー
10	6	水	探検ごっこパート２	園児９名　タクミアリーナ他
	9	土	運動会	園児９名　家族３２名
	13	水	さつまいも掘り	園児９名
	14	木	第２回保育所関係者評価 委員会	関係者評価委員３名
	19	火	保育参観　子育て講座 (親子コンサート)	園児９名、保護者８名、 講師‥三浦　栄一氏
	26	火	焼きいも会　花岡保育所と の交流⑦	園児９名　花岡保育所園児１０名来所
	29	金	ハロウィン交流	園児９名　木漏れ日訪問
11	7	日	公民館祭り	園児９名
	10	水	防犯訓練教室	園児９名　大館警察署３名
	16	火	花岡保育所との交流⑧	５歳児３名　来所
	20	土	餅つき会　（公民館地域 子育て学級）	園児９名　家族 15 名　小学生３名
12	4	土	お遊戯会	園児９名 家族３０名　未就園児家族６名
	23	木	クリスマス会	園児１０名
			デイサービス花慰問	中止
1	11	火	子どもハローワーク （保育士体験）	1/11　２名　1/12　２名　1/13　１名
	14	金	北教育事務所要請訪問	北教育事務所武石指導主事　子ども課鎌田課長補佐 大丸保育アドバイザー
	18	火	引き渡し避難訓練	園児１０名
	21	金	保育参観	園児１０名　保護者１３名

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
			（親子スノーフェスティバル） 第３回保育所関係者評価委員会	関係者評価委員３名
	27	火	花岡保育所との交流⑨	4.5 歳児３名　中止
2	1	火	健康診断　Ｒ４年度入所説明会	園児１０名　新入所児２名　保護者３名 梅内小児科クリニック２名
	3	木	豆まき	園児１０名　わんパーク大館より１名
3	3	木	ひな祭りお茶会	園児９名
	9	水	おわかれ会	園児９名
	15	火	おわかれ遠足	4.5 歳児３名　電車で大滝温泉まで
	19	土	卒園式・修了式	卒園児１名　修了児８名　保護者１２名　来賓２名

１．研修実施状況（矢立保育所）

月	研　　究	テーマ別研修 内部研修	外部研修
4	・昨年度の振り返り ・今年度の具体的な取り組みについての話し合い	・新採用職員研修①②③ ・登用職員研修① ・水の事故対応について ・薬の誤飲を防ぐ対応策について	・幼保推進課行政説明 ・教頭・主任研修Ⅰ ・保育所新規採用者研修１
5	・研究について共通理解を図る ・具体的な手立てを探る	・新採用職員研修④ ・演習　水の事故対応について ・演習　クマ遭遇対応について ・演習　汚物・吐物処理の仕方	・園長等運営管理協議会 ・幼保小連携推進会議 ・保育所新規採用者研修Ⅱ（中止）
6	・指定クラス４歳児についてのカンファレンス	・新採用職員研修⑤	・幼保小担任研修 ・食物アレルギー対応研修会（中止） ・日誌の書き方勉強会 ・保育所新規採用者研修Ⅲ
7	・指定クラス２歳児についてのカンファレンス	・ハチ刺され対応について ・新採用職員研修⑥ ・所長内部研修「職場における心の健康づくり」	・太鼓の講習会 ・ブロック別研修会 ・オーダーメイド研修会（たしろ保育園） ・保育所新規採用者研修Ⅳ ・保育実践研修会
8			・ブロック別研修会 ・ミニ公開（東舘保育園）

月	研　　究	テーマ別研修 内部研修	外部研修
			・ミニ公開（西館保育園） ・ミニ公開（釈迦内保育園）（中止） ・防火管理者講習会
9	・子ども課訪問支援		・ミニ公開（十二所保育園）（中止） ・保育所新規採用者研修Ⅴ
10	・子どもの様子を話し合い、変容を確認する ・環境の再構成について話し合う	・新採用職員研修⑦	・主任等研修会
11	・指定クラス３歳児についてのカンファレンス	・管理監督者研修	・５歳児研修会 ・保育所新規採用者研修Ⅵ ・教頭・主任研修Ⅱ
12	・全クラスの子どものようすについてのカンファレンス	・力量評価研修（欠席）	・オーダーメイド研修会（城南保育園分園）（欠席） ・保育所新規採用者研修Ⅶ（欠席）
1	・要請訪問 ・指定クラス５歳児についてのカンファレンス	・新採用職員研修⑧ ・ヒヤリ・ハット検討会	・園長等研修会
2		・新採用職員研修⑨ ・登用職員研修② ・コロナ感染症検討会	
3	・成果と課題について話し合う ・来年度の計画を話し合う	・新採用職員研修⑩ ・登用職員研修③	・園児保健研修会

令和３年度　年間事業報告（長木保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	月	令和３年度入所式	児童 46 名・保護者/61 名
	28	水	子どもの日集会	児童 43 名（欠 3）/制作したこいのぼりの紹介、歌、お話
5	11	水	じゃが芋種芋植え	3.4.5 歳児・２歳児応援　42 名（欠席 4） 祖父母手伝い　１３名
	19	水	さつま芋苗植え 年長組夏野菜の苗植え	3.4.5 歳児・2 歳児応援　４４名　祖父母手伝い 13 名 年長児夏野菜を植える。
	20	木	幼・保・小連携	釈迦内小小１年授業参観・情報交換　職員３名
	24	月	5 歳児個人面談(～28 日)	保護者の希望で実施
6	1	火	児童歯科検診	児童 46 名　市立病院歯科口腔外科　３名
	1	*金*	*親子バス遠足・保育参観*	*親の会主催事業…中止*
	14	月	年長組自然体験教室	少年自然の家　年長組９名　職員４名
7	6	火	健康診断	児童 44 名　梅内小児科クリニック　２名
	7	水	七夕集会	児童 44 名/七夕飾り・願い事の紹介・写真撮影
	9	金	関係者評価委員会	評価委員４名
	15	木	小・保交流会	長木小１年生・年長組 11 名　小学校で交流
	17	土	夕涼み会	小学校グラウンドで開催　児童 44 名・保護者
	26	月	2・3 歳児個人面談（～30 日） 自由保育参観（～30 日	保護者の希望で実施 保護者・時間指定で実施
8	4	水	じゃがいも掘り	児童 40 名（欠席 4）祖父母手伝い 12 名
	5	木	北教育事務所指導調査	北教育事務所３名　子ども課２名
9	17	金	運動会ごっこ	児童 43 名（欠席１名）/長木小グランド使用。児童だけで行う。
			北教育事務所要請訪問	幼保指導員/保育アドバイザー２名
10	1	金	歩き遠足（郷土博物館）	全児童 43 名（欠 1）/郷土博物館で自然探索 2・3 歳児ドーム周辺
	13	水	さつまいも掘り	全児童 43 名（欠 1）祖父母手伝い９名
	22	金	やきいも会	全児童 40 名（欠 4）祖父母７名・/収穫したさつま芋を焼いて食す。さつまいもを地域に届ける。（三浦木材）
	22	金	保・小交流会	長木小１年生・年長組 11 名　ミニ運動会ごっこ
	27	水	年長組自然体験教室 チャレンジデー参加	少年自然の家　年長組 11 名　職員４名 児童・職員 55 名（登山・散歩・体操・他）
	29	金	防犯実施訓練・防犯教室	児童 40 名（欠 4）/大館警察署４名
11	5	金	総合避難訓練	児童 43 名（欠 1）/消防署員３名　煙体験
12	4	土	発表会	児童 43 名（欠席 1）/クラスごと時間を区切って開催

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	10	金	杉ツリー贈与	児童 36 名（欠 8）/米代東部森林管理署より提供
	8	水	祖父母交流会	児童 43 名　祖父母 26 名　遊戯発表
	22	水	クリスマス会	児童 40 名（欠 2）/少年自然の家職員のサンタと記念写真
	29	木	年末年始休み	～1/3
1	7	金	里帰り交流会（１年生）	現１年生を招き好きな場所で遊び、交流をする。
	13	木	里帰り交流会（2 年生）	現２年生を招き、好きな場所や園児と遊ぶ
	18	月	５歳児個人面談（～29 日）	保護者の希望で実施
	21	金	避難訓練（引き渡し訓練）	児童 35 名（欠 7）降所時に引き渡し用紙に記入
2	2	水	児童健康診断・面接	児童 48 名・新入児保護者 7 名/健康診断・面接
	3	木	豆まき会（鬼役…少年自然の家職員）	児童 40 名（欠 2）/豆まき・お話/各クラスに分かれて行う
	5	土	R4 年度入所説明会	新入所児童保護者/保育方針・内容・持ち物説明
	9	水	卒園記念写真撮影	児童 42 名
	16	水	バイキング会食	児童名（欠 2）/親の会補助により会食、年長盛り付け中止
	25	金	総合避難訓練（通報訓練）	児童 35 名(欠 7)/避難誘導と通報の訓練をする。
3	1	月	保・長木小情報交換	年長組担任・所長/新 1 年生情報交換
	3	火	ひな祭り会	児童名（欠）/制作紹介、記念写真撮影
	10	水	お別れ会	児童 41 名（欠 1）/親の会お弁当会食・プレゼント交換
	18	金	修了式	２・３・４歳児クラスで行う。/証書の手渡し
	19	土	卒園式	卒園児 11 名/保育証書授与、他　縮小挙行

毎月の行事：誕生会、交通安全指導、避難訓練、防犯訓練、シーツ洗濯、布団・内ズック持ち帰り、絵本配布、絵本代集金

１．研修実施状況（長木保育所）

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
4	・研究内容の検討・年間計画の話し合い	・水害事故の演習	・幼保推進課行政説明
5		・所内、屋外、散歩ルートの危険ヵ所	・幼保小連携推進会議 ・園長等運営管理協議会
6	・発達支援話し合い ・保育日誌の書き方勉強会	・非常災害対策マニュアル読み合わせ ・AED 取り扱い確認	・幼保小担任研修会 ・特別支援教育新任コーディネーター研修会Ⅰ ・ファシリテーター研修会Ⅰ ・５年経験者研修Ⅰ

月	研　　究	テーマ別研修	外部研修
			・教頭、主任等研修会Ⅰ
7	・職場における心の健康づくり	・非常災害対策マニュアル読み合わせを受けて実践 ・アレルギー（食物、アトピー）緊急時対応机上訓練	・保育実践研修会 ・田代保育園オーダーメイド研修会（子どもの事故防止） ・ブロック別研修会
8	・園内研究話し合い	・子どもの事故防止について ・熱中症時の対応について	・ブロック別研修会 ・城南保育園分園ミニ公開
9	・気になる子の支援について	・事故防止策（ヒヤリハット事例より）	・キャリアアップ研修(乳児保育) ・５年経験者研修Ⅱ
10	・特別支援教育コーディネーター研修	・「10 の姿」「SOAP の視点」について	・５年経験者研修Ⅲ ・キャリアアップ研修（保護者支援、子育て支援） ・特別支援教育新任コーディネーター研修会Ⅱ ・主任等研修会
11	・園内研究話し合い ・要請訪問指導		・教頭、主任等研修会Ⅱ ・５歳児研修会 ・秋大付属主催研修会
12	・力量評価者研修		・城南保育園分園オーダーメイド研修会(子どもの発達と遊び) ・マネージメント研修
1		・保育所自己評価（保育士アンケート）について	・大館市教職員研究実践発表会 ・園長等研修会
2	・研究のまとめ(成果・課題・指導計画の見直し)	・嘔吐処理についてロールプレイング	・令和３年度学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会
3	・来年度の研究内容の検討	・虐待対応マニュアル読み合わせ	